

Dell PowerEdge R830

オーナーズマニュアル

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Dell PowerEdge R830 の概要	8
PowerEdge R830 システムでサポートされている構成.....	8
前面パネル.....	10
2.5 インチハードドライブシャーシ.....	10
LCD パネル.....	12
背面パネル.....	14
前面パネルの診断インジケータ.....	16
ハードドライブインジケータコード.....	17
NIC インジケータコード.....	17
電源供給ユニットインジケータコード.....	18
お使いのシステムのサービスタグの位置.....	20
章 2: マニュアルリソース	21
章 3: 仕様詳細	24
システムの寸法.....	24
シャーシの重量.....	25
プロセッサの仕様.....	25
PSU の仕様.....	25
システムバッテリーの仕様.....	25
拡張バスの仕様.....	25
メモリの仕様.....	25
ドライブの仕様.....	26
ハードドライブ.....	26
光学ドライブ.....	26
ポートおよびコネクタの仕様.....	26
USB ポート.....	26
NIC ポート.....	26
シリアルコネクタ.....	27
VGA ポート.....	27
内蔵デュアル SD モジュール.....	27
ビデオの仕様.....	27
環境仕様.....	27
粒子状およびガス状汚染物質の仕様.....	28
標準動作温度.....	29
動作時の拡張温度.....	29
章 4: システムの初期セットアップと設定	31
システムのセットアップ.....	31
iDRAC 設定.....	31
iDRAC の IP アドレスを設定するためのオプション.....	31
オペレーティングシステムをインストールするオプション.....	32
ファームウェアとドライバをダウンロードする方法.....	32

章 5: プレオペレーティングシステム管理アプリケーション.....	34
プレオペレーティングシステムアプリケーションを管理するためのオプション.....	34
セットアップユーティリティ.....	34
セットアップユーティリティの表示.....	35
セットアップユーティリティ詳細.....	35
システム BIOS.....	35
iDRAC 設定ユーティリティ.....	61
デバイス設定.....	62
Dell Lifecycle Controller.....	62
組み込み型システム管理.....	62
ブートマネージャ.....	62
ブートマネージャの表示.....	63
起動マネージャのメインメニュー.....	63
PXE 起動.....	64
章 6: システムコンポーネントの取り付けと取り外し.....	65
安全にお使いいただくために.....	65
システム内部の作業を始める前に.....	66
システム内部の作業を終えた後に.....	66
推奨ツール.....	66
前面ベゼル (オプション)	66
オプションの前面ベゼルの取り外し.....	67
オプションの前面ベゼルの取り付け.....	67
システムカバー.....	68
システムカバーの取り外し.....	68
システムカバーの取り付け.....	69
システムの内部.....	70
プロセッサ拡張モジュール (オプション)	72
プロセッサ拡張モジュールの取り外し.....	72
プロセッサ拡張モジュールの取り付け.....	74
冷却エアフローカバー.....	78
冷却エアフローカバーの取り外し.....	78
冷却エアフローカバーの取り付け.....	79
冷却ファン.....	80
冷却ファンの取り外し.....	81
冷却ファンの取り付け.....	82
冷却ファンアセンブリ.....	82
冷却ファンアセンブリーの取り外し.....	82
冷却ファンアセンブリーの取り付け.....	83
システムメモリ.....	84
メモリー モジュール取り付けガイドライン.....	87
モードごとのガイドライン.....	87
メモリー構成の例.....	88
メモリーモジュールの取り外し.....	93
メモリーモジュールの取り付け.....	94
プロセッサとヒートシンク.....	96
ヒートシンクの取り外し.....	96
プロセッサの取り外し.....	97

プロセッサの取り付け.....	100
ヒートシンクの取り付け.....	102
電源装置ユニット.....	103
ホットスベア機能.....	104
電源装置ユニットダミーの取り外し.....	104
電源装置ユニットダミーの取り付け.....	105
AC 電源装置ユニットの取り外し.....	106
AC 電源装置ユニットの取り付け.....	107
内蔵ストレージコントローラカード.....	108
内蔵ストレージコントローラカードの取り外し.....	108
内蔵ストレージコントローラカードの取り付け.....	109
拡張カードと拡張カードライザー.....	111
拡張カードの取り付けガイドライン.....	111
拡張カードライザーの取り外し.....	112
拡張カードライザーの取り付け.....	116
拡張カードライザー1からの拡張カードの取り外し.....	119
拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け.....	121
拡張カードライザー2からの拡張カードの取り外し.....	122
拡張カードライザー2への拡張カードの取り付け.....	123
拡張カードライザー3からの拡張カードの取り外し.....	125
拡張カードライザー3への拡張カードの取り付け.....	126
IDSDM.....	128
内蔵 SD カードの取り外し.....	129
内蔵 SD カードの取り付け.....	130
オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り外し.....	131
オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り付け.....	132
ネットワークドーターカード.....	133
ネットワークドーターカードの取り外し.....	133
ネットワークドーターカードの取り付け.....	135
内蔵 USB メモリキー (オプション)	136
オプションの内蔵 USB メモリキーの取り付け.....	136
システムバッテリー.....	137
システムバッテリーの交換.....	137
ハードドライブ.....	138
ホットスワップ対応ハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り外し.....	139
ホットスワップ対応ハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け.....	140
2.5 インチハードドライブダミーの取り外し.....	141
2.5 インチハードドライブダミーの取り付け.....	142
ハードドライブキャリアからのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り外し.....	143
ハードドライブキャリアへのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け.....	143
光学ドライブ (オプション)	144
光学ドライブの取り外し.....	144
光学ドライブの取り付け.....	145
スリム光学ドライブダミーの取り外し.....	146
スリム光学ドライブダミーの取り付け.....	147
ハードドライブバックプレーン.....	148
ハードドライブバックプレーンの取り外し.....	148
ハードドライブバックプレーンの取り付け.....	153
コントロールパネル.....	154
コントロールパネルの取り外し.....	154

コントロールパネルの取り付け	157
システム基板.....	159
システム ボードの取り外し.....	159
システム ボードの取り付け.....	160
Trusted Platform Module.....	163
Trusted Platform Module の取り付け.....	163
BitLocker ユーザー向け TPM の初期化.....	164
TXT ユーザー向け TPM の初期化.....	164
章 7: システム診断プログラムの使用.....	166
Dell 組み込み型システム診断.....	166
組み込み型システム診断プログラムを使用する状況.....	166
起動マネージャからの組み込み型システム診断プログラムの実行.....	166
Dell Lifecycle Controller からの組み込み型システム診断プログラムの実行.....	166
システム診断プログラムのコントロール.....	167
章 8: ジャンパとコネクタ.....	168
システム基板のジャンパ設定.....	168
システム ボード コネクタ.....	168
パスワードを忘れたとき.....	171
章 9: システムのトラブルシューティング.....	172
システムの起動エラーのトラブルシューティング.....	172
外部接続のトラブルシューティング.....	172
ビデオサブシステムのトラブルシューティング.....	173
USB デバイスのトラブルシューティング.....	173
iDRAC ダイレクト (USB XML 設定) のトラブルシューティング.....	174
iDRAC ダイレクト (ノートパソコン接続) のトラブルシューティング.....	175
シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング.....	175
NIC のトラブルシューティング.....	175
システムが濡れた場合のトラブルシューティング.....	176
システムが損傷した場合のトラブルシューティング.....	177
システム バッテリーのトラブルシューティング.....	178
電源供給ユニットのトラブルシューティング.....	178
電源の問題のトラブルシューティング.....	178
電源供給ユニット問題のトラブルシューティング.....	179
冷却問題のトラブルシューティング.....	179
冷却ファンのトラブルシューティング.....	180
システムメモリーのトラブルシューティング.....	180
内蔵 USB キーのトラブルシューティング.....	181
microSD カードのトラブルシューティング.....	182
光学ドライブのトラブルシューティング.....	182
テープバックアップユニットのトラブルシューティング.....	183
ドライブまたは SSD のトラブルシューティング.....	184
ストレージコントローラーのトラブルシューティング.....	184
拡張カードのトラブルシューティング.....	185
プロセッサのトラブルシューティング.....	186
システムメッセージ.....	186
警告メッセージ.....	186

診断メッセージ.....	187
アラートメッセージ.....	187
章 10: ヘルプ.....	188
Dell EMC へのお問い合わせ.....	188
マニュアルのフィードバック.....	188
QRL によるシステム情報へのアクセス.....	188
R830 用 QR コード.....	189

Dell PowerEdge R830 の概要

Dell PowerEdge R830 は、8 ドライブまたは 16 ドライブベイシャーシ搭載の 2U ラックシステムで、次をサポートしています。

- Intel Xeon E5-4600 v4 プロセッサ最大 4 台
- DIMM 最大 48 個
- ハードドライブまたはソリッドステートドライブ最大 16 台
-  **メモ:** お使いのシステムは、ホットスワップ対応のハードドライブのみをサポートします。
- 電源装置ユニット最大 2 台

トピック：

- [PowerEdge R830 システムでサポートされている構成](#)
- [前面パネル](#)
- [背面パネル](#)
- [前面パネルの診断インジケータ](#)
- [お使いのシステムのサービスタグの位置](#)

PowerEdge R830 システムでサポートされている構成

Dell PowerEdge R830 システムは、次の構成をサポートしています。

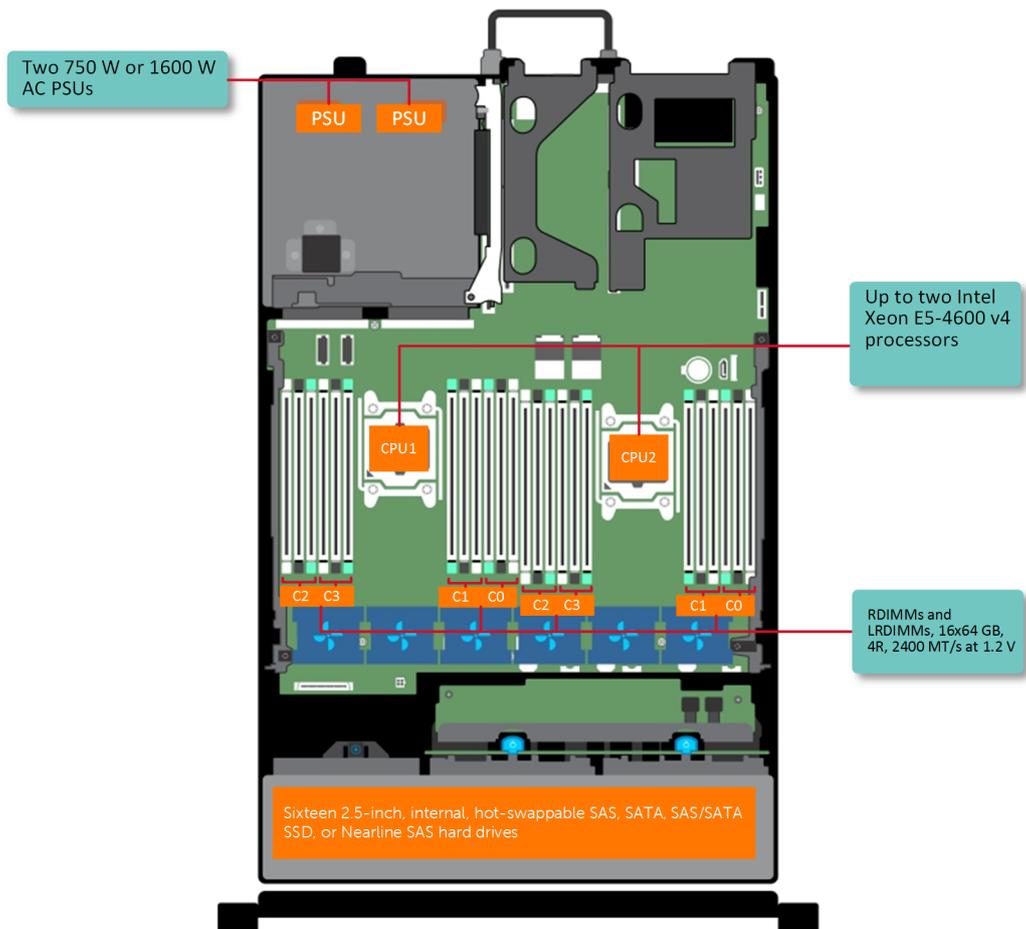


図 1. プロセッサ 2 個搭載の PowerEdge R830 システムでサポートされている構成

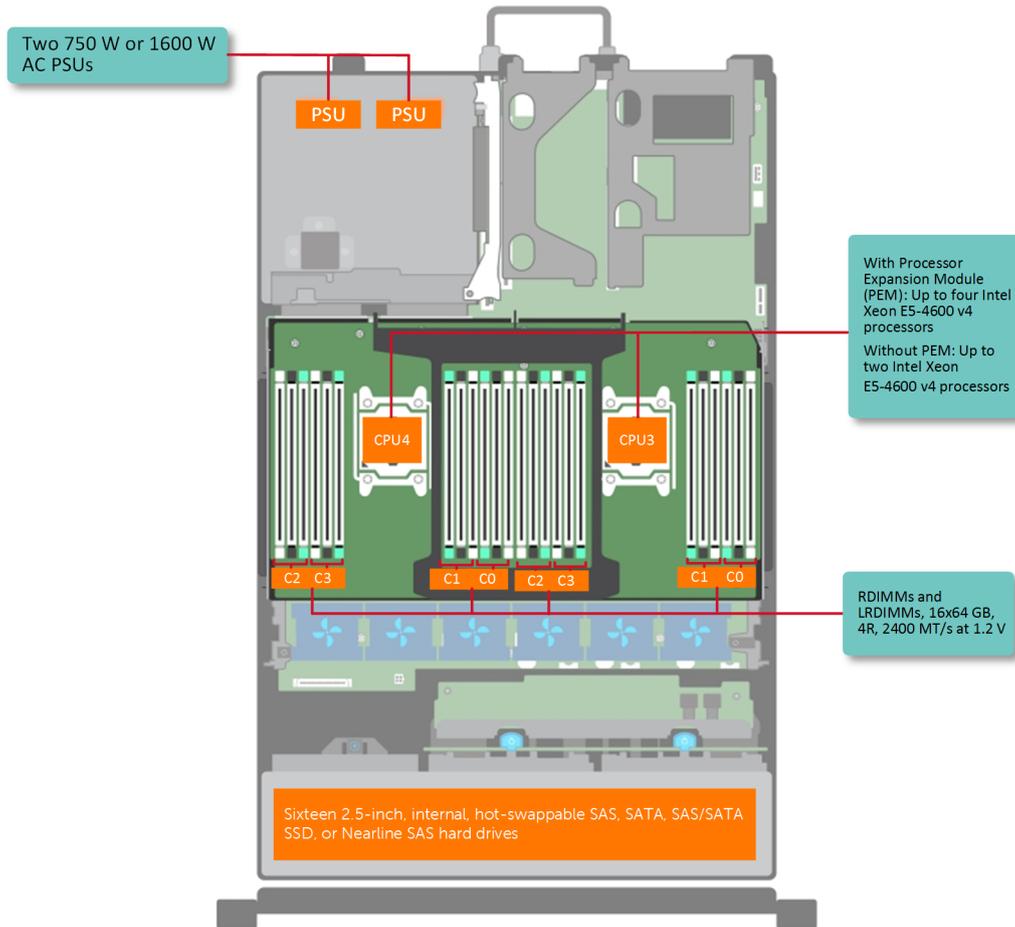


図 2. プロセッサ 4 個搭載の PowerEdge R830 システムでサポートされている構成

前面パネル

前面パネルでは、電源ボタン、NMI ボタン、システム識別タグ、システム識別ボタン、USB ポート、VGA ポートなど、サーバー前面の機能にアクセスできます。診断 LED または LCD パネルは、前面パネルに分かりやすく配置されています。ホットスワップ対応のハードドライブには、前面パネルからアクセスできます。

2.5 インチハードドライブシャーシ

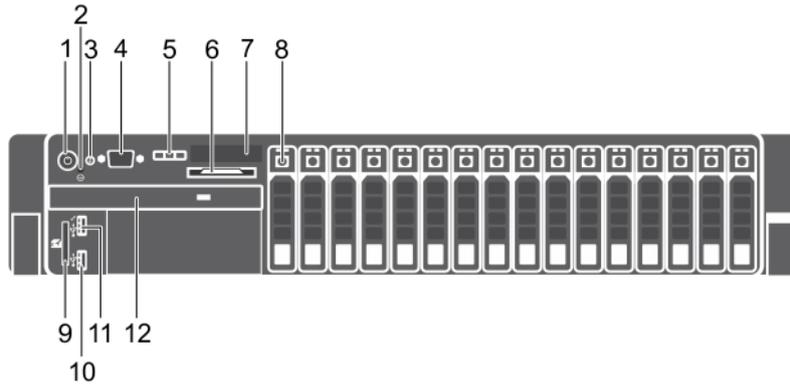


図 3. 前面パネルの機能 (2.5 インチハード ドライブシャーシ)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 電源ボタン | 2. NMI ボタン |
| 3. システム識別ボタン | 4. ビデオコネクタ |
| 5. LCD メニューボタン | 6. 情報タグ |
| 7. LCD パネル | 8. ハードドライブ |
| 9. vFlash メディアカード スロット | 10. USB ポート |
| 11. USB 管理ポート/iDRAC ダイレクト | 12. 光学ドライブ |

表 1. 前面パネルの機能 (2.5 インチハード ドライブシャーシ)

アイテム	インジケータ、ボタン、またはアイコンコネクタ	説明
1	電源ボタン 	電源ボタンを押してシステムをオンまたはオフにします。ボタン上のインジケータは、システムがオンかオフかを示します。 メモ: ACPI 対応のオペレーティングシステムを正常にシャットダウンするには、この電源ボタンを押します。
2	NMI ボタン 	特定のオペレーティングシステムを実行中に、NMI ボタンを押して、ソフトウェアおよびデバイスドライバのエラーをトラブルシューティングします。ペーパークリップの先端を使って NMI ボタンを押します。 メモ: NMI ボタンは、オペレーティングシステムのマニュアルで指示されているか、または認定を受けたサポート担当者によって指示された場合のみ使用してください。
3	システム識別ボタン 	次の作業を行うために、システム ID ボタンを押します。 <ul style="list-style-type: none"> ラック内の特定のシステムの位置を確認します。 システム ID をオンまたはオフにします。 iDRAC をリセットするには、このボタンを 15 秒以上長押しします。 メモ: <ul style="list-style-type: none"> システム ID を使用して iDRAC をリセットするには、システム ID ボタンが iDRAC セットアップで有効になっていることを確認します。 POST 中にシステムの反応が停止した場合は、システム ID ボタンを (5 秒以上) 押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。
4	ビデオコネクタ 	ビデオ/VGA ポートを使用して、ディスプレイをシステムに接続します。サポートされているビデオ/VGA ポートの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。

表 1. 前面パネルの機能 (2.5 インチハードドライブシャーシ) (続き)

アイテム	インジケータ、ボタン、またはアイコン コネクタ	説明
5	LCD メニューボタン	この LCD メニューボタンを押して、コントロール パネル LCD メニューを操作します。
6	情報タグ	サービス タグ、NIC、MAC アドレスなどのシステム情報が表示されます。 メモ: 情報タグは引き出し式のラベルパネルです。
7	LCD パネル	システム ID、ステータス情報、システムエラーメッセージが表示されます。詳細については、「LCD パネル」の項を参照してください。
8	ハードドライブ	サポートされているハードドライブの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。
9	vFlash メディアカード スロット 	この vFlash メディアカード スロットを使用して、vFlash メディアカードを挿入します。
10	USB 2.0 ポート 	USB 2.0 ポートを使用して、USB デバイスをシステムに接続します。このポートは 4 ピンで、USB 2.0 対応です。
11	USB 管理ポート/iDRAC ダイレクトコネクタ 	USB 管理ポート/iDRAC ダイレクトポートを使用して、USB デバイスのシステムへの接続や、iDRAC ダイレクト機能へのアクセスが可能です。USB 管理ポートは USB 2.0 対応です。詳細については、Dell.com/idracmanuals の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズ ガイド』を参照してください。
12	光学ドライブ (オプション)	サポートされている光学ドライブの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。

関連参照文献

仕様詳細、p. 24

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システムカバーの取り外し、p. 68

LCD パネル

お使いのシステムの LCD パネルには、システムが正常に機能しているかどうか、またはシステムに注意が必要かどうかを示す、システム情報、ステータス、およびエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージの詳細については、**Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage software** (OpenManage ソフトウェア) で『Dell Event and Error Messages Reference Guide』(Dell イベントおよびエラーメッセージリファレンスガイド) を参照してください。

- 正常な動作中は、LCD バックライトが青色に点灯します。
- システムに注意が必要な場合は、LCD が橙色に点灯し、エラーコードと、エラーコードに続いてエラーの内容を説明するテキストが表示されます。
メモ: システムが電源に接続されている状態でエラーが検知されると、システムの電源がオンかオフかに関係なく、LCD が橙色に点灯します。
- システムがスタンバイモードのとき、LCD バックライトは消灯しますが、LCD パネルの Select (選択) ボタン、Left (左) ボタン、または Right (右) ボタンのいずれかを押しすと点灯します。
- iDRAC ユーティリティ、LCD パネル、またはその他のツールを使用して LCD メッセージをオフにしている場合、LCD バックライトは消灯のままです。

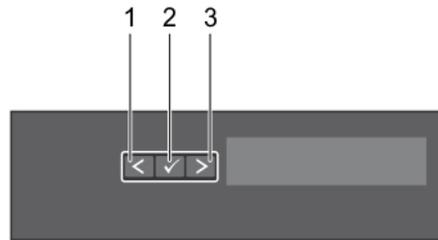


図 4. LCD パネルの機能

表 2. LCD パネルの機能

アイテム	ボタン	説明
1	左	カーソルが後方に1つ分移動します。
2	電源アイコンを	カーソルによってハイライト表示されているメニュー項目を選択します。
3	右	カーソルが前方に1つ分移動します。 メッセージのスクロール中に次の操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ボタンを押したままにして、スクロールの速度を上げます。 ● ボタンを放すと停止します。 <p>メモ: ボタンを放すと、画面のスクロールが停止します。無活動の状態が45秒続くと、画面はスクロールを開始します。</p>

ホーム画面の表示

[ホーム] 画面には、システムに関するユーザー設定可能な情報が表示されます。この画面は、通常のシステムの操作中、ステータスメッセージやエラーがない場合に表示されます。システムがオフになり、エラーがない場合は、5分間操作が行われないとLCDがスタンバイモードになります。LCDをオンにするには、LCDの任意のボタンを押します。

手順

1. **Home (ホーム)** 画面を表示するには、3つのナビゲーションボタン (Select (選択)、Left (左)、または Right (右)) のいずれかを選択します。
2. 別のメニューから **Home (ホーム)** 画面に移動するには、次の手順を実行します。
 - a. 上矢印  が表示されるまで、ナビゲーション ボタンを押したままにします。
 - b. 上矢印  を使用して  に移動します。
 - c. **Home (ホーム)** アイコンを選択します。
 - d. **Home (ホーム)** 画面で **Select (選択)** ボタンを押して、メインメニューを選択します。

セットアップメニュー

メモ: セットアップメニューでオプションを選択すると、次の動作に進む前にオプションを確認する必要があります。

オプション	説明
iDRAC	DHCP または Static IP (静的 IP) を選択してネットワークモードを設定します。 Static IP (静的 IP) を選択した場合の使用可能なフィールドは、 IP 、 Subnet (Sub) (サブネット (サブ)) および Gateway (Gtw) (ゲートウェイ (Gtw)) です。 Setup DNS (DNS のセットアップ) を選択して DNS を有効化し、ドメインアドレスを表示します。2つの個別の ENS エントリが利用できます。
Set error (エラーの設定)	SEL の IPMI 記述に一致するフォーマットで LCD エラーメッセージを表示させるには、 SEL を選択します。これにより、LCD メッセージと SEL エントリを一致させることができます。

オプション	説明
	Simple (シンプル) を選択すると、LCD エラーメッセージが簡潔で分かりやすい説明で表示されます。エラーメッセージの詳細については、 Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage software (OpenManage ソフトウェア) で『 <i>Dell Event and Error Messages Reference Guide</i> 』(Dell イベントおよびエラーメッセージリファレンスガイド) を参照してください。
Set home (ホームの設定)	Home (ホーム) 画面に表示されるデフォルト情報を選択します。 Home (ホーム) 画面でデフォルトとして設定できるオプションおよびオプション項目については、「ビューメニュー」の項を参照してください。

関連参照文献

ビューメニュー、p.14

ビューメニュー

メモ: 表示メニューでオプションを選択すると、次の動作に進む前にオプションを確認する必要があります。

オプション	説明
iDRAC IP	iDRAC8 の IPv4 または IPv6 アドレスを表示します。アドレスには、 DNS (Primary (プライマリ) および Secondary (セカンダリ))、 Gateway (ゲートウェイ)、 IP 、および Subnet (サブネット)(IPv6 にはサブネットはありません) が含まれます。
MAC	iDRAC、iSCSI、または Network (ネットワーク) デバイスの MAC アドレスを表示します。
名前	システムの Host (ホスト)、 Model (モデル)、または User String (ユーザー文字列) の名前を表示します。
番号	システムの Asset tag (アセットタグ) または Service Tag (サービスタグ) を表示します。
電源	システムの電源出力を BTU/時 または ワットで表示します。表示フォーマットは、 Setup (セットアップ) メニューの Set Home (ホームの設定) サブメニューで設定できます。
温度	システムの温度を摂氏または華氏で表示します。 Setup (セットアップ) メニューの Set Home (ホームの設定) サブメニューで設定できます。

背面パネル

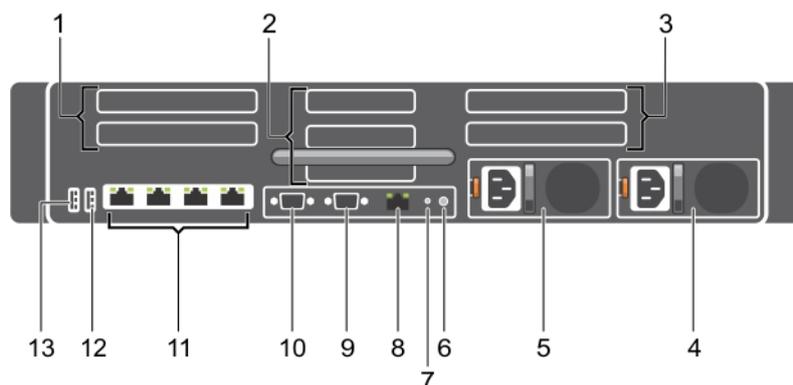


図 5. 背面パネルの機能

1. ライザー1上のフルハイト PCIe 拡張カード スロット (2)
2. ライザー2のハーフハイト PCIe 拡張カード スロット (3)
3. ライザー3上のフルハイト PCIe 拡張カード スロット (2)
4. 電源供給ユニット 2
5. 電源供給ユニット 1
6. システム識別ボタン
7. システム識別ポート
8. iDRAC8 Enterprise ポート
9. ビデオポート
10. シリアル ポート

- 11. Ethernet ポート
- 13. USB 2.0 ポート

- 12. USB 3.0 ポート

表 3. 背面パネルの機能

アイテム	インジケータ、ボタン、またはアイコン	説明
1	ライザー 1 上のフルハイット PCIe 拡張カード スロット (2)	このカード スロットを使用して、ライザー 1 に最大 2 枚のフルハイット PCIe 拡張カードを接続します。
2	ライザー 2 のハーフハイット PCIe 拡張カード スロット (3)	このカード スロットを使用して、ライザー 2 に最大 3 枚のハーフハイット PCIe 拡張カードを接続します。
3	ライザー 3 上のフルハイット PCIe 拡張カード スロット (2)	このカード スロットを使用して、ライザー 3 に最大 2 枚のフルハイット PCIe 拡張カードを接続します。
4	電源供給ユニット (PSU2)	サポートされている PSU の詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。
5	電源供給ユニット (PSU1)	
6	システム識別ボタン 	
7	システム識別ポート	このシステム識別ポートを使用して、システムステータスインジケータアセンブリーをオプションのケーブル管理アームで接続します。
8	iDRAC8 Enterprise ポート 	iDRAC8 Enterprise ポートを使用して、iDRAC にリモートアクセスします。詳細については、 Dell.com/idracmanuals の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズ ガイド』を参照してください。
9	ビデオポート 	ビデオ/VGA ポートを使用して、ディスプレイをシステムに接続します。サポートされているビデオ/VGA ポートの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。
10	シリアル ポート 	シリアル ポートを使用して、シリアル デバイスをシステムに接続します。サポートされているシリアル ポートの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。
11	Ethernet ポート (4) 	Ethernet ポートを使用して、ローカル エリア ネットワーク (LAN) をシステムに接続します。サポートされている Ethernet ポートの詳細については、「仕様詳細」の項を参照してください。
12	USB 3.0 ポート 	USB 3.0 ポートを使用して、USB デバイスをシステムに接続します。これらのポートは 4 ピンで、USB 3.0 対応です。
13	USB 2.0 ポート 	USB 2.0 ポートを使用して、USB デバイスをシステムに接続します。このポートは 4 ピンで、USB 2.0 対応です。

関連参照文献

[仕様詳細](#)、p. 24

前面パネルの診断インジケータ

メモ: システムの電源がオフの場合、診断インジケータは点灯しません。システムを起動するには、機能している電源に差し込み電源ボタンを押します。

表 4. 診断インジケータ

アイコン	説明	状態	対応処置
	ヘルスインジケータ	<p>システムが良好な状態である場合は、インジケータが青色に点灯します。</p> <p>次の場合はインジケータが橙色に点滅します。</p> <ul style="list-style-type: none"> システムがオンになっている場合。 システムがスタンバイ状態になっている場合。 すべてのエラー条件が存在する場合があります。エラー状態が存在する場合、例えば、ファン、PSU、またはハードドライブが故障しているなど。 	<p>不要。</p> <p>特定の問題については、「システムイベント ログ」または「システムメッセージ」を参照してください。エラーメッセージの詳細については、Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage software にある <i>Dell イベントおよびエラー メッセージ リファレンス ガイド</i> を参照してください。</p> <p>メモリーの構成が無効であることが原因で、POST プロセスがビデオ出力なしで中断されます。「困ったときは」の項を参照してください。「困ったときは」の項を参照してください。</p>
	ハードドライブインジケータ	ハードドライブのエラーが発生している場合、インジケータは橙色に点滅します。	エラーが発生したハードドライブを特定するには、システム イベント ログを確認してください。適切なオンライン Diagnostics (診断) テストを実行します。システムを再起動し、内蔵された診断 (ePSA) を実行します。ハードドライブが RAID アレイ内で構成されている場合は、システムを再起動してから、ホストアダプターの構成ユーティリティプログラムを起動してください。
	電気インジケータ	システムに電氣的なエラー (例えば、電圧の異常、電源供給ユニット (PSU) や電圧レギュレーターの障害など) が発生している場合、インジケータは橙色に点滅します。	特定の問題については、「システムイベント ログ」または「システムメッセージ」を参照してください。PSU が原因である場合は、PSU の LED を確認します。PSU を抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。
	温度インジケータ	システムに温度に関するエラー (例えば、周囲温度が許容範囲を超えている、またはファンの故障など) が発生している場合、インジケータが橙色に点滅します。	<p>次の状態が発生していないことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷却ファンが取り外されているか、故障している。 システムカバー、冷却用エアフローカバー、EMI フィラパネル、メモリモジュールのダミー、または背面フィラブラケットが取り外されている。 室温が高すぎる。 外部のエアフローが遮断されている。 <p>「困ったときは」の項を参照してください。</p>
	メモリーインジケータ	メモリエラーが発生すると、このインジケータが橙色に点滅します。	障害が発生したメモリーの位置については、システム イベント ログまたはシステムメッセージを参照してください。メモリーモジュールを取付け直してください。問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

ハードドライブインジケータコード

各ハードドライブキャリアには、アクティビティインジケータとステータスインジケータがあります。これらのインジケータは、ハードドライブの現在のステータスに関する情報を提供します。アクティビティ LED はハードドライブが使用中かどうかを示します。ステータス LED は、ハードドライブの電源状態を示します。

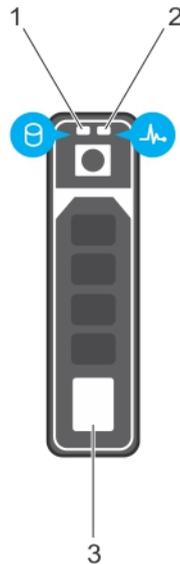


図 6. ハードドライブインジケータ

1. ハードドライブアクティビティインジケータ
2. ハードドライブステータスインジケータ
3. ハードドライブ

メモ: ハードドライブが Advanced Host Controller Interface (AHCI) モードの場合、ステータスインジケータ (右側) は点灯しません。

表 5. ハードドライブインジケータコード

ドライブステータスインジケータのパターン	状態
1 秒間に 2 回緑色に点滅 オフ	ドライブの識別中または取り外し準備中 ドライブの挿入または取り外し可 メモ: システムへの電源投入後、すべてのハードディスクドライブが初期化されるまで、ドライブステータスインジケータは消灯したままです。消灯している間、ドライブの挿入または取り外しの準備はできていません。
緑色、橙色に点滅後、消灯	予期されたドライブの故障
1 秒間に 4 回橙色に点滅	ドライブに障害発生
緑色にゆっくり点滅	ドライブの再構築中
緑色の点灯	ドライブオンライン状態
緑色に 3 秒間点滅、橙色に 3 秒間点滅、その後 6 秒後に消灯	再構築が停止

NIC インジケータコード

背面パネルの NIC には、ネットワーク動作およびリンク状態に関する情報を提供するインジケータがあります。アクティビティ LED は、NIC が接続されているかどうかを示します。リンク LED は接続したネットワークのスピードを示します。

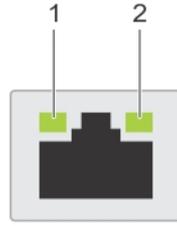


図 7. NIC インジケータコード

1. リンクインジケータ
2. アクティビティインジケータ

表 6. NIC インジケータ

表記法	ステータス	状態
A	リンクおよびアクティビティ インジケータが消灯している。	NIC がネットワークに接続されていません。
B	リンク インジケータが緑色。	NIC は、最大ポートスピード (1 Gbps または 10 Gbps) で有効なネットワークに接続されています。
C	リンクインジケータが橙	NIC が最大ポートスピード未満で有効なネットワークに接続されています。
D	アクティビティ インジケータが点滅している。緑色	ネットワークデータの送信中または受信中です。

電源供給ユニットインジケータコード

AC 電源供給ユニット (PSU) にはインジケータの役割を果たす光源付きの透明なハンドルがあります。このインジケータにより、電源が入っているか、または電源障害が発生しているかどうかわかります。



図 8. AC PSU ステータスインジケータ

1. AC PSU ステータスインジケータ / ハンドル

表 7. AC PSU ステータスインジケータ

表記規則	電源インジケータのバターン	状態
A	緑色	有効な電源が PSU に接続されているか、PSU が動作中です。
B	緑色の点滅	PSU のファームウェアがアップデート中は、PSU ハンドルが緑色に点滅します。
C	緑色の点滅と消灯	PSU のホットアド時に、PSU ハンドルが 4 Hz レートで緑色に 5 回点滅して消灯します。これは、効率、機能設定、正常性ステータス、サポートする電圧に関して PSU の不整合があることを示します。 ⓘ メモ: 両方の PSU の容量が同じであることを確認してください。 ⚠ 注意: AC PSU の場合は、背面に拡張電源パフォーマンス (EPP) のラベルが貼付されている PSU のみを使用してください。 ⓘ メモ: 旧世代の Dell PowerEdge サーバーからの PSU を混在させると、PSU の不一致状態が発生する、またはシステムへの電源投入に失敗する場合があります。
D	橙色の点滅	PSU に問題があることを表示します。 ⚠ 注意: 電源ユニット (PSU) の不整合を修正する場合は、インジケータが点滅している PSU のみ交換してください。ペアを一致させるために他の PSU をリプレースすると、エラー状態および予期しないシステム シャットダウンの原因となります。高出力構成から低出力構成、またはその逆へ変更するには、システムの電源を切る必要があります。 ⚠ 注意: AC PSU は、220 V のみをサポートする Titanium PSU を除き、220 V と 110 V の両方の電圧をサポートします。2 台の PSU に異なる入力電圧が供給されると、出力されるワット数が異なり、不整合を招くことがあります。 ⚠ 注意: 2 台の PSU を使用する場合は、両方のタイプと最大出力電力が同一である必要があります。
E	消灯	電源が接続されていません。

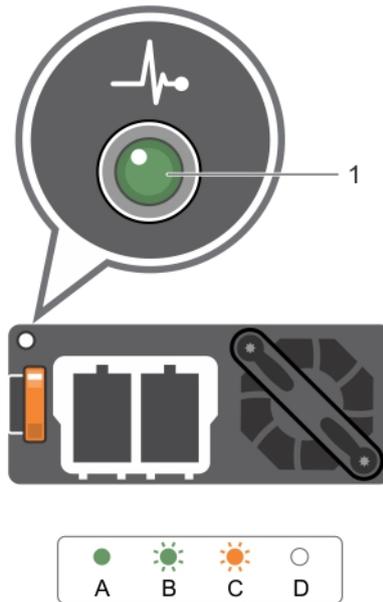


図 9. DC PSU ステータスインジケータ

1. DC PSU ステータスインジケータ

お使いのシステムのサービスタグの位置

お使いのシステムは一意のエキスプレスサービスコードおよびサービスタグ番号によって識別されます。エキスプレスサービスコードおよびサービスタグは、システムの前面で情報タグを引き出して確認します。または、システムのシャーシに貼られたステッカーに情報が記載されている場合があります。この情報は、デルが電話によるサポートのお問い合わせを適切な担当者に転送するために使用されます。

マニュアルリソース

本項では、お使いのシステムのマニュアルリソースに関する情報を提供します。

マニュアル リソースの表に記載されているマニュアルを参照するには、次の手順を実行します。

- Dell EMC サポート サイトにアクセスします。
 1. 表の「場所」列に記載されているマニュアルのリンクをクリックします。
 2. 目的の製品または製品バージョンをクリックします。
 - ① **メモ:** 製品名とモデルを確認する場合は、お使いのシステムの前面を調べてください。
 3. [製品サポート] ページで、**マニュアルおよび文書**をクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

表 8. お使いのシステムのためのその他マニュアルのリソース

タスク	文書	場所
システムのセットアップ	<p>システムをラックに取り付けて固定する方法の詳細については、お使いのラック ソリューションに同梱の『ルール取り付けガイド』を参照してください。</p> <p>お使いのシステムのセットアップの詳細については、システムに同梱の『はじめに』マニュアルを参照してください。</p>	www.dell.com/poweredgemanuals
システムの設定	<p>iDRAC 機能、iDRAC の設定と iDRAC へのログイン、およびシステムのリモート管理についての情報は、『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズ ガイド』を参照してください。</p> <p>RACADM (Remote Access Controller Admin) サブコマンドとサポートされている RACADM インターフェイスを理解するための情報については、『RACADM CLI Guide for iDRAC』を参照してください。</p> <p>iDRAC に実装されている、Redfish とそのプロトコル、サポートされているスキーマ、および Redfish Eventing の詳細については、『Redfish API Guide』を参照してください。</p> <p>iDRAC プロパティ データベース グループとオブジェクトの記述の詳細については、『Attribute Registry Guide』を参照してください。</p>	www.dell.com/poweredgemanuals
	<p>以前のバージョンの iDRAC マニュアルの詳細については、iDRAC のマニュアルを参照してください。</p>	www.dell.com/idracmanuals

表 8. お使いのシステムのためのその他マニュアルのリソース (続き)

タスク	文書	場所	
	お使いのシステムで使用可能な iDRAC のバージョンを特定するには、iDRAC Web インターフェイスで ? 、 About の順にクリックします。		
	オペレーティングシステムのインストールについての情報は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。	www.dell.com/operatingsystemmanuals	
	ドライバおよびファームウェアのアップデートについての情報は、本書の「ファームウェアとドライバをダウンロードする方法」の項を参照してください。	www.dell.com/support/drivers	
システムの管理	デルが提供するシステム管理ソフトウェアについての情報は、『Dell OpenManage Systems Management 概要ガイド』を参照してください。	www.dell.com/poweredgemanuals	
	OpenManage のセットアップ、使用、およびトラブルシューティングについての情報は、『Dell OpenManage Server Administrator ユーザーズガイド』を参照してください。	www.dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Server Administrator	
	Dell OpenManage Essentials のインストール、使用、およびトラブルシューティングについての情報は、『Dell OpenManage Essentials ユーザーズガイド』を参照してください。	www.dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Essentials	
	Dell OpenManage Enterprise のインストール、使用、およびトラブルシューティングについての情報は、『Dell OpenManage Essentials ユーザーズガイド』を参照してください。	www.dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Enterprise	
		パートナープログラムのエンタープライズシステム管理についての情報は、OpenManage Connections Enterprise Systems Management マニュアルを参照してください。	www.dell.com/openmanagemanuals
Dell PowerEdge RAID コントローラーの操作		Dell PowerEdge RAID コントローラー (PERC)、ソフトウェア RAID コントローラー、BOSS カードの機能を把握するための情報や、カードの導入に関する情報については、ストレージコントローラーのマニュアルを参照してください。	www.dell.com/storagecontrollermanuals
イベントおよびエラーメッセージの理解	システム ファームウェア、およびシステム コンポーネントをモニタリングするエージェントによって生成されたイベント メッセージおよびエラー メッセージの情報については、「Error Code Lookup」を参照してください。	www.dell.com/qr1	

表 8. お使いのシステムのためのその他マニュアルのリソース (続き)

タスク	文書	場所
システムのトラブルシューティング	PowerEdge サーバーの問題を特定してトラブルシューティングを行うための情報については、『サーバトラブルシューティングガイド』を参照してください。	www.dell.com/poweredgemanuals

仕様詳細

本項では、お使いのシステムの仕様詳細と環境仕様の概要を示します。

トピック：

- システムの寸法
- シャーシの重量
- プロセッサの仕様
- PSU の仕様
- システムバッテリーの仕様
- 拡張バスの仕様
- メモリの仕様
- ドライブの仕様
- ポートおよびコネクタの仕様
- ビデオの仕様
- 環境仕様

システムの寸法

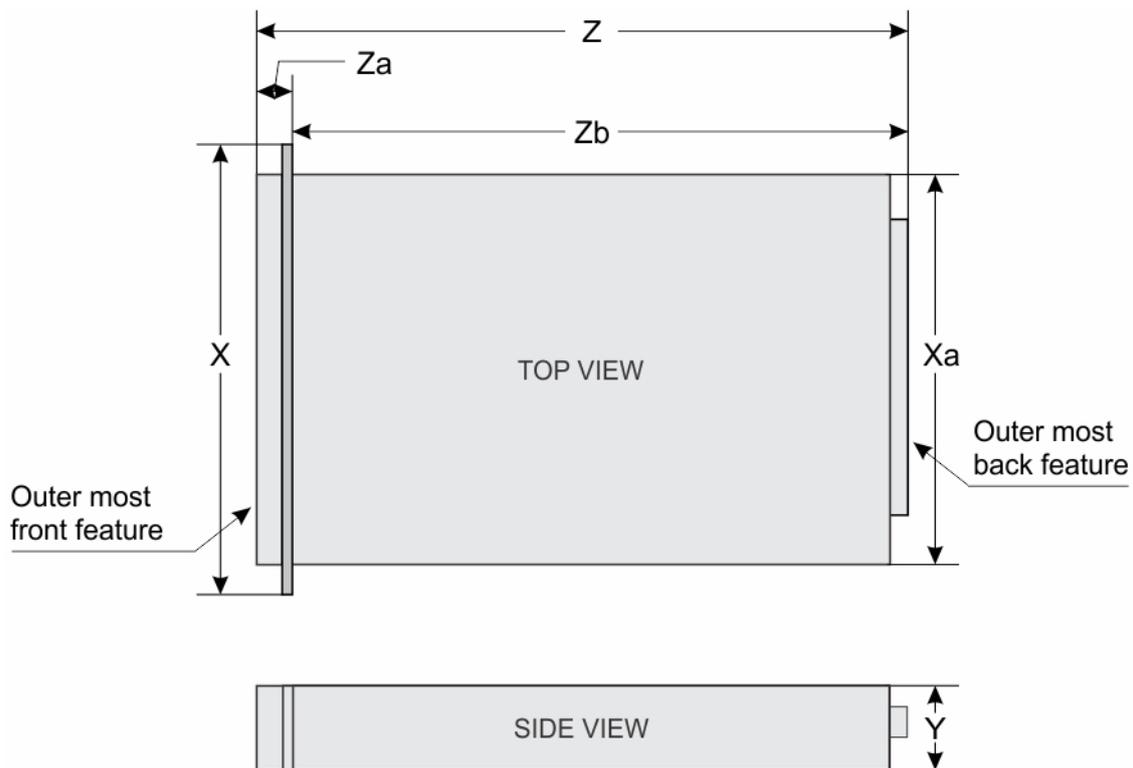


図 10. PowerEdge R830 システムの寸法

表 9. PowerEdge R830 システムの寸法

X	Xa	Y	Z (ベゼルを含む)	Zb (ベゼルを含まない)	Za (ベゼルを含む)	Za (ベゼルを含まない)
482.4 mm (18.99 インチ)	434.0 mm (17.08 インチ)	86.8 mm(3.42 インチ)	777.6 mm (30.61 インチ)	740.6 mm (29.16 インチ)	35.7 mm (1.41 インチ)	20.4 mm(0.80 インチ)

シャーシの重量

表 10. シャーシの重量

システム	最大重量 (すべてのハードドライブ/SSDを含む)	最小重量 (ハードドライブなし)
PowerEdge R830	31.7 kg (69.89 ポンド)	10.5 kg (23.15 ポンド)

プロセッサの仕様

PowerEdge R830 システムは、最大 4 個の Intel Xeon E5-4600 v4 製品シリーズプロセッサをサポートします。

PSU の仕様

PowerEdge R830 システムは、最大 2 台の AC 冗長電源装置ユニット (PSU) をサポートします。

表 11. PSU の仕様

PSU	クラス	熱消費 (最大)	周波数	電圧
AC 750 W	プラチナ		50/60 Hz	100 ~ 240 V AC、オートレンジ
1600 W AC	プラチナ			100 ~ 240 V AC、オートレンジ ⓘ メモ: 1600 W の PSU 搭載のシステムを 100 ~ 120 V で稼働する場合、PSU あたりの電源定格は 800 W に下げられます。

- ⓘ **メモ:** 熱消費は PSU のワット定格を使用して算出されています。
- ⓘ **メモ:** このシステムは、線間電圧が 230 V 以下の IT 電力システムに接続できるようにも設計されています。
- ⓘ **メモ:** 定格 1600 W 以上の PSU については、定格容量に合った高ライン電圧 (200 ~ 240 V) が必要になります。

システムバッテリーの仕様

PowerEdge R830 システムは、CR 2032 3.0-V コイン型リチウム電池システムバッテリーをサポートします。

拡張バスの仕様

PowerEdge R830 システムは PCI express (PCIe) 第 3 世代拡張カードに対応しています。これらの拡張カードは、拡張カードライザーを使用してシステム基板に取り付ける必要があります。このシステムでは 3 種類の拡張カードがサポートされています。

メモリの仕様

PowerEdge R830 システムは、DDR4 レジスタード DIMM (RDIMM)、および負荷軽減 DIMM (LRDIMM) をサポートしています。

表 12. メモリの仕様

メモリモジュールソケット	メモリー容量	最小 RAM	最大 RAM
48 個の DIMM ソケット	<ul style="list-style-type: none"> 64 GB クアッドランク (LRDIMM) 8 GB シングル ランク (RDIMM) 16 Gb、または 32 GB デュアルランク (RDIMM) 	デュアルプロセッサで 8 GB (各プロセッサに最低 1 枚のメモリモジュール)	4 基のプロセッサで最大 6144 GB (LRDIMM)

ドライブの仕様

ハードドライブ

PowerEdge R830 システムは、SAS、SATA、または Nearline SAS ハードドライブをサポートしています。

表 13. PowerEdge R830 システムでサポートされているハードドライブオプション

ハードドライブ 16 台のシステム	最大 16 台のホットスワップ対応 2.5 インチ内蔵 SAS、SATA、SAS/SATA SSD、または Nearline SAS ハードドライブ
-------------------	--

光学ドライブ

システムは、オプションの SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD+/-RW ドライブを 1 台サポートします。

ポートおよびコネクタの仕様

USB ポート

PowerEdge R830 システムは、次をサポートしています。

- 前面パネルと背面パネル上の USB 2.0 対応ポート
- 背面パネル上の USB 3.0 対応ポート

次の表には、USB の仕様についての詳細が記載されています。

表 14. USB の仕様

システム	前面パネル	背面パネル
PowerEdge R830	<ul style="list-style-type: none"> 4 ピン USB 2.0 対応ポート (1) USB 管理ポート /iDRAC Direct (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 4 ピン USB 2.0 対応ポート (1) 4 ピン、USB 3.0 対応ポート 1 個

NIC ポート

PowerEdge R830 システムは、背面パネルで 4 個のネットワークインタフェースコントローラ (NIC) ポートをサポートしており、次の NIC 構成で使用できます。

- 4 個の 1 Gbps、または
- 2 個の 10 Gbps

 **メモ:** 最大 6 枚の PCIe アドオン NIC カードを取り付けることができます。

シリアルコネクタ

シリアルコネクタは、シリアルデバイスをシステムに接続します。PowerEdge R830 システムは、背面パネルでシリアルコネクタ 1 個をサポートしており、このコネクタは、9 ピンコネクタ、データ端末装置 (DTE)、16550 準拠です。

VGA ポート

ビデオグラフィックアレイ (VGA) ポートでは、システムを VGA ディスプレイに接続することができます。PowerEdge R830 システムは、前面および背面パネルで 15 ピン VGA ポートを 2 つサポートしています。

内蔵デュアル SD モジュール

PowerEdge R830 システムは、内蔵デュアル SD モジュールを備えたオプションのフラッシュメモリカードスロットを 2 個サポートします。

 **メモ:** カードスロット 1 個は冗長専用。

ビデオの仕様

PowerEdge R830 システムは、容量が 16 MB の Matrox G200eR2 グラフィックスカードをサポートしています。

表 15. サポートされているビデオ解像度のオプション

解像度	リフレッシュレート (Hz)	色深度 (ビット)
640x480	60、70	8、16、32
800x600	60、75、85	8、16、32
1024x768	60、75、85	8、16、32
1152x864	60、75、85	8、16、32
1280x1024	60、75	8、16、32
1440x900	60	8、16、32

環境仕様

 **メモ:** 特定のシステム構成でのその他の環境条件の詳細については、[Dell.com/environmental_datasheets](https://www.dell.com/environmental_datasheets) を参照してください。

表 16. 温度の仕様

温度	仕様
保管時	-40 ~ 65°C (-40 ~ 149°F)
継続動作 (高度 950 m (3117 フィート) 未満)	5 ~ 40°C (41 ~ 104°F)、装置への直射日光なし。
外気	外気に関する詳細については、拡張動作温度の項を参照してください。
最大温度勾配 (動作時および保管時)	20°C/h (68°F/h)

表 17. 相対湿度の仕様

相対湿度	仕様
保管時	最大露点 33 °C (91 °F) で 5 ~ 95 % の相対湿度。空気は常に非結露状態であること。
動作時	最大露点 29°C (84.2°F) で 5 ~ 85% の相対湿度。

表 18. 最大振動の仕様

最大振動	仕様
動作時	0.26 G _{rms} (5 ~ 350 Hz) (全稼働方向)。
保管時	1.88 G _{rms} (10 ~ 500 Hz) で 15 分間 (全 6 面で検証済)。

表 19. 最大衝撃の仕様

最大衝撃	仕様
動作時	x、y、z 軸の正および負方向に 6 連続衝撃パルス、11 ミリ秒以下で 6 G。
保管時	x、y、z 軸の正および負方向に 6 連続衝撃パルス (システムの各面に対して 1 パルス)、2 ミリ秒以下で 71 G。

表 20. 最大高度の仕様

最大高度	仕様
動作時	30482000 m (10,0006560 フィート)
保管時	12,000 m (39,370 フィート)

表 21. 動作時温度ディレーティングの仕様

動作時温度ディレーティング	仕様
最高 35 °C (95 °F)	950 m (3117 フィート) を越える高度では、最高温度は 300 m (547 フィート) ごとに 1 °C (1 °F) 低くなります。
35 ~ 40 °C (95 ~ 104 °F)	950 m (3117 フィート) を越える高度では、最高温度は 175 m (319 フィート) ごとに 1 °C (1 °F) 低くなります。
40 ~ 45 °C (104 ~ 113 °F)	950 m (3117 フィート) を越える高度では、最高温度は 125 m (228 フィート) ごとに 1 °C (1 °F) 低くなります。

関連参照文献

動作時の拡張温度、p. 29

粒子状およびガス状汚染物質の仕様

次の表は、粒子状およびガス状の汚染物質による機器の損傷または故障を回避するのに役立つ制限を定義しています。粒子状またはガス状の汚染物質物のレベルが指定された制限を超え、結果として機器が損傷または故障する場合は、環境条件の修正が必要になることがあります。環境条件の改善はお客様の責任において行ってください。

表 22. 粒子状汚染物質の仕様

粒子汚染	仕様
空気清浄	<p>データセンターの空気清浄レベルは、ISO 14644-1 の ISO クラス 8 の定義に準じて、95% 上限信頼限界です。</p> <p>① メモ: この条件は、データセンター環境にのみ適用されます。空気清浄要件は、事務所や工場現場などのデータセンター外での使用のために設計された IT 装置には適用されません。</p> <p>① メモ: データセンターに吸入される空気は、MERV11 または MERV13 フィルタで濾過する必要があります。</p>
伝導性ダスト	<p>空気中に伝導性ダスト、亜鉛ウィスカ、またはその他伝導性粒子が存在しないようにする必要があります。</p> <p>① メモ: この条件は、データセンター環境と非データセンター環境に適用されます。</p>

表 22. 粒子状汚染物質の仕様 (続き)

粒子汚染	仕様
腐食性ダスト	<ul style="list-style-type: none"> • 空気中に腐食性ダストが存在しないようにする必要があります。 • 空気中の残留ダストは、潮解点が相対湿度 60% 未満である必要があります。 <p>① メモ: この条件は、データセンター環境と非データセンター環境に適用されます。</p>

表 23. ガス状汚染物質の仕様

ガス状汚染物	仕様
銅クーポン腐食度	クラス G1 (ANSI/ISA71.04-1985 の定義による) に準じ、ひと月あたり 300 Å 未満。
銀クーポン腐食度	AHSRAE TC9.9 の定義に準じ、ひと月あたり 200 Å 未満。

① **メモ:** 50% 以下の相対湿度で測定された最大腐食汚染レベル

標準動作温度

表 24. 動作時の標準温度の仕様

標準動作温度	仕様
継続動作 (高度 950 m (3117 フィート) 未満)	5 ~ 40°C (41 ~ 104°F)、装置への直射日光なし。 ① メモ: シャーシは最大 135 W のプロセッサをサポート。

動作時の拡張温度

表 25. 動作時の拡張温度の仕様

動作時の拡張温度	仕様
継続動作	<p>相対湿度 5 ~ 85%、露点温度 29°C (84.2°F) で、5 ~ 40°C。</p> <p>① メモ: 標準動作温度 (10 ~ 35°C) の範囲外では、下は 5°C まで、上は 40°C までで、システムは継続的に動作できます。</p> <p>35 ~ 40°C の場合、950 m を超える場所では 175 m (319 フィート) 上昇するごとに最大許容温度を 1°C (1°F) 下げます。</p>
年間動作時間の 1 パーセント以下	<p>相対湿度 5 ~ 90 パーセント、露点温度 29°C で、-5 ~ 45°C。</p> <p>① メモ: 標準動作温度範囲 (10 ~ 35°C) 外で使用する場合は、最大年間動作時間の最大 1% まで -5 ~ 45°C の範囲で動作することができます。</p> <p>40 ~ 45°C の場合、950 m を超える場所では 125 m (228 フィート) 上昇するごとに最大許容温度を 1°C (1°F) 下げます。</p>

① **メモ:** 動作時の拡張温度範囲で使用すると、システムのパフォーマンスに影響が生じる場合があります。

① **メモ:** 拡張温度範囲でシステムを使用しているときに、LCD パネルとシステムイベントログに周囲温度警告が報告される場合があります。

動作時の拡張温度範囲に関する制約

- 5°C 未満でコールドブートを行わないでください。
- 指定されている動作温度は、最大高度 950 m を対象にしています。

- PCIe カードはスロット 1 とスロット 2 ではサポートされません。
- 135 W プロセッサ搭載のシステムでは、最大 8 台のハードドライブがサポートされています。
- 冗長電源ユニットが必要です。
- デル認定外の周辺機器カードおよび / または 25 W を超える周辺機器カードは非対応です。

システムの初期セットアップと設定

トピック：

- システムのセットアップ
- iDRAC 設定
- オペレーティングシステムをインストールするオプション

システムのセットアップ

次の手順を実行して、システムを設定します。

手順

1. システムを開梱します。
2. システムをラックに取り付けます。ラックへのシステム取り付けの詳細については、システムの「ラック取り付けブレースマット」(Dell.com/poweredgedmanuals) を参照してください。
3. 周辺機器をシステムに接続します。
4. システムを電源コンセントに接続します。
5. 電源ボタンを押す、または iDRAC を使用してシステムの電源を入れます。
6. 接続されている周辺機器の電源を入れます。

iDRAC 設定

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) は、システム管理者の生産性を向上させ、Dell EMC システムの全体的な可用性を高めるように設計されています。iDRAC は、システムの問題についての管理者へのアラート送信、リモートシステム管理の実施の支援、およびシステムへの物理的なアクセスの必要性の軽減を行います。

iDRAC の IP アドレスを設定するためのオプション

iDRAC との双方向通信を有効にするには、お使いのネットワーク インフラストラクチャに基づいて初期ネットワーク設定を行う必要があります。IP アドレスを設定するには、次のいずれかのインターフェイスを使用します。

インターフェイス マニュアル/項

iDRAC 設定ユーティリティ	Dell.com/idracmanuals の『 <i>Dell Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide</i> 』(Dell Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。
Dell Deployment Toolkit	Dell.com/openmanagemanuals の『 <i>Dell Deployment Toolkit User's Guide</i> 』(Dell Deployment Toolkit ユーザーズガイド) を参照してください。
Dell Lifecycle Controller	Dell.com/idracmanuals の『 <i>Dell Lifecycle Controller User's Guide</i> 』(Dell Lifecycle Controller ユーザーズガイド) を参照してください。
シャーシまたはサーバーの LCD パネル	「LCD パネル」の項を参照してください。

iDRAC 用の DHCP または静的 IP のセットアップを含む初期ネットワーク設定は、デフォルトの iDRAC IP アドレス 192.168.0.120 を使用して行う必要があります。

 **メモ:** iDRAC にアクセスするには、ネットワークケーブルをシステム基板上のイーサネットコネクタに接続します。

 **メモ:** iDRAC IP アドレスをセットアップした後は、デフォルトのユーザー名とパスワードを変更してください。

関連参考文献

LCD パネル、p. 12

iDRAC へのログイン

iDRAC には、次の資格でログインできます。

- iDRAC ユーザー
- Microsoft Active Directory ユーザー
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザー

デフォルトのユーザー名とパスワードは、root と calvin です。シングル サイン オンまたはスマート カードを使用してログインすることもできます。

 **メモ:** iDRAC にログインするには、iDRAC 資格情報が必要です。

iDRAC へのログイン、および iDRAC ライセンスの詳細については、**Dell.com/idracmanuals** で最新の『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』(Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。

オペレーティングシステムをインストールするオプション

システムがオペレーティングシステムのインストールなしで出荷された場合、次のリソースのいずれかを使用して対応するオペレーティングシステムをインストールします。

表 26. オペレーティングシステムをインストールするリソース

リソースを見つける	場所
Dell Systems Management Tools and Documentation メディア	https://www.dell.com/operatingsystemmanuals
Dell Lifecycle Controller	https://www.dell.com/idracmanuals
Dell OpenManage Deployment Toolkit	https://www.dell.com/openmanagemanuals
デル認証の VMware ESXi	https://www.dell.com/virtualizationsolutions
Dell PowerEdge システム対応のオペレーティングシステム	www.dell.com/ossupport
Dell PowerEdge システム対応のオペレーティングシステム用のインストールと使い方のビデオ	https://www.youtube.com/playlist?list=PLe5xhhyFjDPfTCaDRFfIB_VsoLpL8x84G

ファームウェアとドライバをダウンロードする方法

次の方法のいずれかを使用して、ファームウェアとドライバをダウンロードできます。

表 27. ファームウェアおよびドライバ

メソッド	場所
デルサポートサイトから	グローバル テクニカル サポート
Dell Remote Access Controller Lifecycle Controller (iDRAC with LC) を使用	Dell.com/idracmanuals
Dell Repository Manager (DRM) を使用	Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Deployment Toolkit
Dell OpenManage Essentials (OME) を使用	Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Deployment Toolkit
Dell Server Update Utility (SUU) を使用	Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Deployment Toolkit
Dell OpenManage Deployment Toolkit (DTK) を使用	Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage Deployment Toolkit

ドライバとファームウェアのダウンロード

Dell EMC では、お使いのシステムに最新の BIOS、ドライバ、システム管理ファームウェアをダウンロードしてインストールすることを推奨しています。

前提条件

ドライバとファームウェアをダウンロードする前に、ウェブブラウザのキャッシュをクリアするようにしてください。

手順

1. 次を参照してください。 Dell.com/support/drivers.
2. **Drivers & Downloads** (ドライバおよびダウンロード) セクションで、**Service Tag or Express Service Code** (サービスタグまたはエクスプレスサービスコード) ボックスにお使いのシステムのサービスタグを入力し、**Submit** (送信) をクリックします。
 **メモ:** サービスタグがない場合は、**Detect My Product** (製品の検出) を選択してシステムにサービスタグを自動的に検出させるか、**製品サポート**でお使いの製品を選択します。
3. **Drivers & Downloads** (ドライバおよびダウンロード) をクリックします。
ユーザーの選択した項目に該当するドライバが表示されます。
4. ドライバを USB ドライブ、CD、または DVD にダウンロードします。

プレオペレーティングシステム管理アプリケーション

システムのファームウェアを使用して、オペレーティングシステムを起動せずにシステムの基本的な設定や機能を管理することができます。

トピック：

- [プレオペレーティングシステムアプリケーションを管理するためのオプション](#)
- [セットアップユーティリティ](#)
- [Dell Lifecycle Controller](#)
- [ブートマネージャ](#)
- [PXE 起動](#)

プレオペレーティングシステムアプリケーションを管理するためのオプション

お使いのシステムには、プレオペレーティングシステムアプリケーションを管理するための次のオプションがあります。

- [セットアップユーティリティ](#)
- [ブートマネージャ](#)
- [Dell Lifecycle Controller](#)
- [Preboot Execution Environment \(PXE \)](#)

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

[ブートマネージャ](#)、p. 62

[Dell Lifecycle Controller](#)、p. 62

[PXE 起動](#)、p. 64

セットアップユーティリティ

System Setup (セットアップユーティリティ) 画面を使用して、お使いのシステムの BIOS 設定、iDRAC 設定、およびデバイス設定を行うことができます。

 **メモ:** デフォルトでは、選択したフィールドのヘルプテキストはグラフィカルブラウザ内に表示されます。テキストブラウザ内でヘルプテキストを表示するには、F1を押してください。

セットアップユーティリティには、次の2つの方法を使ってアクセスできます。

- 標準グラフィカルブラウザ — デフォルトでは有効になっています。
- テキストブラウザ — コンソールリダイレクトの使用によって有効になります。

関連参照文献

[セットアップユーティリティ詳細](#)、p. 35

関連タスク

[セットアップユーティリティの表示](#)、p. 35

セットアップユーティリティの表示

System Setup (セットアップユーティリティ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

関連参考文献

[セットアップユーティリティ詳細](#)、p. 35

セットアップユーティリティ詳細

System Setup Main Menu (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面の詳細は次のとおりです。

オプション	説明
System BIOS (システム BIOS)	System BIOS を設定できます。
iDRAC Settings (iDRAC 設定)	iDRAC を設定できます。 iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) を使用することで iDRAC パラメーターをセットアップして設定するためのインターフェースです。iDRAC 設定ユーティリティを使用することで、さまざまな iDRAC パラメーターを有効または無効にすることができます。このユーティリティの詳細については、 Dell.com/idracmanuals にある『 <i>Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide</i> 』(Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。
Device Settings (デバイス設定)	デバイスを設定できます。

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

[システム BIOS](#)、p. 35

関連参考文献

[iDRAC 設定ユーティリティ](#)、p. 61

[デバイス設定](#)、p. 62

関連タスク

[セットアップユーティリティの表示](#)、p. 35

システム BIOS

System BIOS (システム BIOS) 画面を使って、起動順序、システムパスワード、セットアップパスワードのような特定の機能の編集、RAID モードの設定、USB ポートの有効/無効の切り替えが可能です。

関連参照文献

- [システム BIOS 設定の詳細](#)、p. 36
- [起動設定](#)、p. 37
- [ネットワーク設定](#)、p. 39
- [システムセキュリティ](#)、p. 42
- [システム情報](#)、p. 45
- [メモリ設定](#)、p. 47
- [プロセッサ設定](#)、p. 48
- [SATA 設定](#)、p. 50
- [内蔵デバイス](#)、p. 54
- [シリアル通信](#)、p. 56
- [システムプロファイル設定](#)、p. 57
- [その他の設定](#)、p. 59
- [iDRAC 設定ユーティリティ](#)、p. 61
- [デバイス設定](#)、p. 62

関連タスク

- [システム BIOS の表示](#)、p. 36

システム BIOS の表示

System BIOS (システム BIOS) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。

関連参照文献

- [システム BIOS](#)、p. 35
- [システム BIOS 設定の詳細](#)、p. 36

システム BIOS 設定の詳細

このタスクについて

システム BIOS 設定画面の詳細は次の通りです。

オプション	説明
システム情報	システムモデル名、BIOS バージョン、サービスタグといったシステムに関する情報を指定します。
メモリー設定	取り付けられているメモリに関連する情報とオプションを指定します。
プロセッサ設定	速度、キャッシュサイズなど、プロセッサに関連する情報とオプションを指定します。
SATA 設定	内蔵 SATA コントローラとポートの有効/無効を切り替えるオプションを指定します。
起動設定	起動モード (BIOS または UEFI) を指定するオプションが表示されます。UEFI と BIOS の起動設定を変更することができます。
ネットワーク設定	ネットワーク設定を変更するオプションを指定します。

オプション	説明
内蔵デバイス	内蔵デバイスコントローラとポートの管理、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションを指定します。
シリアル通信	シリアルポートの管理、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションを指定します。
システムプロファイル設定	プロセッサの電力管理設定、メモリ周波数などを変更するオプションを指定します。
システムセキュリティ	システムパスワード、セットアップパスワード、Trusted Platform Module (TPM) セキュリティなどのシステムセキュリティ設定を行うオプションを指定します。システムの電源ボタンや NMI ボタンもこれで管理します。
その他の設定	システムの日時などを変更するオプションを指定します。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[システム BIOS の表示](#)、p. 36

起動設定

Boot Settings (起動設定) 画面を使用して、起動モードを **BIOS** または **UEFI** に設定します。起動順序を指定することも可能です。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

[システム起動モードの選択](#)、p. 38

関連タスク

[起動設定の詳細](#)、p. 38

[起動設定の表示](#)、p. 37

[起動順序の変更](#)、p. 39

起動設定の表示

Boot Settings (起動設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu (セットアップユーティリティメインメニュー)** 画面で、**System BIOS (システム BIOS)** をクリックします。
4. **System BIOS (システム BIOS)** 画面で、**Boot Settings (起動設定)** をクリックします。

関連参照文献

[起動設定](#)、p. 37

[システム起動モードの選択](#)、p. 38

関連タスク

[起動設定の詳細](#)、p. 38

[起動順序の変更](#)、p. 39

起動設定の詳細

このタスクについて

Boot Settings (起動設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
Boot Mode (起動モード)	<p>システムの起動モードを設定できます。</p> <p> 注意: オペレーティングシステムのインストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えると、システムが起動しなくなることがあります。</p> <p>オペレーティングシステムが UEFI をサポートしている場合は、このオプションを UEFI に設定できます。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI 非対応のオペレーティングシステムとの互換性が有効になります。このオプションはデフォルトでは BIOS に設定されています。</p> <p> メモ: このフィールドを UEFI に設定すると、BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定) メニューが無効になります。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定) メニューが無効になります。</p>
Boot Sequence Retry (起動順序再試行)	<p>起動順序再試行機能を有効または無効にします。このオプションが Enabled (有効) に設定されていて、システムが起動に失敗した場合、システムは 30 秒後に起動を再試行します。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。</p>
Hard-Disk Failover (ハードディスクフェイルオーバー)	<p>ハードドライブの障害発生時に起動するハードドライブを指定します。デバイスは、Boot Option Setting (起動オプション設定) メニューの Hard-Disk Drive Sequence (ハードディスクドライブ順序) で選択します。このオプションが Disabled (無効) に設定されている場合は、リストの先頭にあるハードドライブのみ起動が試行されます。このオプションが Enabled (有効) に設定されている場合は、Hard-Disk Drive Sequence (ハードディスクドライブ順序) で選択された順に、すべてのハードドライブに対して起動が試行されます。このオプションは、UEFI 起動モードでは使用できません。</p>
Boot Option Settings (起動オプション設定)	<p>起動順序と起動デバイスを設定します。</p>
BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定)	<p>BIOS 起動オプションを有効または無効にします。</p> <p> メモ: このオプションは、起動モードが BIOS の場合にのみ有効になります。</p>
UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定)	<p>UEFI 起動オプションを有効または無効にします。起動オプションを含めるには IPV4 PXE および IPV6 PXE を押します。このオプションは、デフォルトで Last (前回) に設定されています。</p> <p> メモ: このオプションは、起動モードが UEFI の場合にのみ有効になります。</p>

関連参考文献

[起動設定](#)、p. 37

[システム起動モードの選択](#)、p. 38

関連タスク

[起動設定の表示](#)、p. 37

[起動順序の変更](#)、p. 39

システム起動モードの選択

セットアップユーティリティでは、以下のオペレーティングシステムのいずれかのインストール用起動モードを指定することができます。

- BIOS 起動モード (デフォルト) は、標準的な BIOS レベルの起動インターフェースです。

- Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) (デフォルト) の起動モードは、拡張 64 ビット起動インターフェイスです。UEFI モードで起動するようシステムを設定すると、システム BIOS の設定が置換されます。
1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティのメインメニュー) で、 **Boot Settings** (起動設定) をクリックし、 **Boot Mode** (起動モード) を選択します。
 2. 起動モードを選択し、このモードでシステム起動されるようにします。
 **注意:** OS インストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えるとシステムが起動しなくなることがあります。
 3. 指定した起動モードでシステムを起動した後、そのモードからオペレーティングシステムのインストールに進みます。

メモ:

- UEFI 起動モードからインストールする OS は UEFI 対応である必要があります。DOS および 32 ビットの OS は UEFI 非対応で、BIOS 起動モードからのみインストールできます。
- 対応オペレーティングシステムの最新情報については、 Dell.com/ossupport を参照してください。

関連参照文献

[起動設定](#)、p. 37

関連タスク

[起動設定の詳細](#)、p. 38

[起動設定の表示](#)、p. 37

起動順序の変更

このタスクについて

USB キーまたは光学ドライブから起動する場合は、起動順序を変更する必要がある場合があります。 **Boot Mode** (起動モード) で **BIOS** を選択した場合は、以下の手順が異なる可能性があります。

手順

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、 **System BIOS** (システム BIOS) > **Boot Settings** (起動設定) の順にクリックします。
2. **Boot Option Settings** (起動オプション設定) > **Boot Sequence** (起動順序) の順にクリックします。
3. 矢印キーを使用して起動デバイスを選択し、(+) キーと (-) キーを使用してデバイスの順番を上下に動かします。
4. 終了時に設定を保存するには、 **Exit** (終了) をクリックして、 **Yes** (はい) をクリックします。

関連参照文献

[起動設定](#)、p. 37

関連タスク

[起動設定の詳細](#)、p. 38

[起動設定の表示](#)、p. 37

ネットワーク設定

Network Settings (ネットワーク設定) 画面を使用して、PXE デバイスの設定を変更できます。ネットワーク設定オプションは UEFI モードでのみ使用できます。

-  **メモ:** BIOS モードでは、BIOS はネットワーク設定の制御を行いません。BIOS 起動モードの場合、ネットワークコントローラのオプションの起動 ROM がネットワーク設定を処理します。

関連概念

[UEFI iSCSI 設定](#)、p. 41

関連参照文献

[ネットワーク設定画面の詳細](#)、p. 40
[UEFI iSCSI 設定の詳細](#)、p. 41
[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[ネットワーク設定の表示](#)、p. 40
[UEFI iSCSI 設定の表示](#)、p. 41

ネットワーク設定の表示

Network Settings (ネットワーク設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Network Settings** (ネットワーク設定) をクリックします。

関連参照文献

[ネットワーク設定](#)、p. 39
[ネットワーク設定画面の詳細](#)、p. 40

ネットワーク設定画面の詳細

Network Settings (ネットワーク設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

このタスクについて

オプション 説明

PXE Device n(PXE デバイス n)(n = 1 ~4) デバイスを有効または無効にします。有効にすると、デバイスの UEFI 起動オプションが作成されます。

PXE Device n Settings(PXE デバイス n 設定)(n = 1 ~4) PXE デバイスの設定を制御できます。

関連参照文献

[ネットワーク設定](#)、p. 39

関連タスク

[ネットワーク設定の表示](#)、p. 40

UEFI iSCSI 設定

「iSCSI Settings (iSCSI 設定)」画面を使用して、iSCSI デバイスの設定を変更できます。iSCSI 設定オプションは UEFI 起動モードでのみ使用可能です。BIOS 起動モードでは、BIOS はネットワーク設定の制御を行いません。BIOS 起動モードの場合は、ネットワークコントローラのオプション ROM がネットワーク設定を処理します。

関連参考文献

[UEFI iSCSI 設定の詳細](#)、p. 41

関連タスク

[UEFI iSCSI 設定の表示](#)、p. 41

UEFI iSCSI 設定の表示

UEFI iSCSI Settings (UEFI iSCSI 設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

 **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Network Settings** (ネットワーク設定) をクリックします。
5. **Network Settings** (ネットワーク設定) 画面で、**UEFI iSCSI Settings** (UEFI iSCSI 設定) をクリックします。

関連概念

[UEFI iSCSI 設定](#)、p. 41

関連参考文献

[UEFI iSCSI 設定の詳細](#)、p. 41

UEFI iSCSI 設定の詳細

UEFI iSCSI 設定画面の詳細は、次の通りです。

オプション	説明
iSCSI Initiator Name	iSCSI イニシエータの名前を指定します (iqn 形式)。
iSCSI Device n (n = 1 to 4)	iSCSI デバイスを有効または無効にします。無効の場合は、UEFI 起動オプションが iSCSI デバイスに対して自動的に作成されます。

関連概念

[UEFI iSCSI 設定](#)、p. 41

関連タスク

[UEFI iSCSI 設定の表示](#)、p. 41

システムセキュリティ

System Security (システムセキュリティ) 画面を使用して、システムパスワードとセットアップパスワードの設定や、電源ボタンの無効化などの特定の機能を実行できます。

関連参照文献

セットアップパスワード使用中の操作、p. 45

システム BIOS、p. 35

関連タスク

システムセキュリティ設定の詳細、p. 42

システムセキュリティの表示、p. 42

システムパスワードおよびセットアップパスワードの作成、p. 43

システムを保護するためのシステムパスワードの使用、p. 44

システムおよびセットアップパスワードの削除または変更、p. 45

システムセキュリティの表示

System Security (システムセキュリティ) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) をクリックします。

関連参照文献

システムセキュリティ、p. 42

関連タスク

システムセキュリティ設定の詳細、p. 42

システムセキュリティ設定の詳細

このタスクについて

システムセキュリティ設定画面の詳細は次の通りです。

オプション	説明
Intel AES-NI	Advanced Encryption Standard Instruction Set (AES-NI) を使用して暗号化および復号を行うことによって、アプリケーションの速度を向上させます。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
System Password	システムパスワードを設定します。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されており、システムにパスワードジャンパーが取り付けられていない場合は、読み取り専用になります。
Setup Password	セットアップパスワードを設定します。システムにパスワードジャンパーが取り付けられていない場合、このオプションは読み取り専用です。
Password Status	システムパスワードをロックします。デフォルトでは、このオプションは ロック解除 に設定されています。

オプション	説明
TPM Security	 メモ: TPM メニューは、TPM モジュールがインストールされている場合のみ使用可能です。 TPM の報告モードを制御することができます。デフォルトでは、 TPM セキュリティオプション は オフ に設定されています。TPM Status (TPM ステータス)、TPM Activation (TPM の有効化)、および Intel TXT のフィールドを変更できるのは、 TPM ステータスフィールド が 起動前測定あり でオンまたは 起動前測定なし でオンのいずれかに設定されている場合に限られます。
TPM 情報	TPM の動作状態を変更することができます。このオプションは、デフォルトで 変更なし に設定されています。
TPM Status	TPM ステータスを指定します。
TPM Command	 注意: TPM をクリアすると、 TPM 内のすべてのキーが失われます 。TPM キーが失われると、オペレーティングシステムの起動に影響するおそれがあります。 TPM の全コンテンツをクリアします。デフォルトでは、 TPM のクリアーオプション は いいえ に設定されています。
Intel TXT	Intel Trusted Execution Technology (TXT) オプションを有効または無効にします。 インテル TXT オプションを有効にするには、仮想化テクノロジーと TPM セキュリティを起動前測定ありで有効にする必要があります。このオプションは、デフォルトで オフ に設定されています。
電源ボタン	システム前面の電源ボタンを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
NMI Button	システム前面の NMI ボタンを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで 無効 に設定されています。
AC Power Recovery	システムの AC 電源が回復した後の、システムの動作を設定します。このオプションは、デフォルトで 前回 に設定されています。
AC Power Recovery Delay	システムの AC 電源が回復した後のシステムへの電源投入の時間遅延を設定します。デフォルトでは、このオプションは 即時 に設定されています。
User Defined Delay (60 ~ 240 秒)	AC 電源リカバリー遅延 に ユーザー定義 オプションが選択されている場合、 ユーザー定義の遅延 オプションを設定します。
UEFI Variable Access	UEFI 変数を安全に維持するためのさまざまな手段を提供します。 標準 (デフォルト) に設定されている場合、UEFI 変数は UEFI 仕様によってオペレーティングシステムでアクセス可能です。 制御 に設定されている場合、選択した UEFI 変数は環境内で保護され、新しい UEFI 起動エントリは、現在の起動順序の最後に実行されます。
Secure Boot Policy	セキュア ブート ポリシーが 標準 に設定されている場合、BIOS はシステムの製造元のキーと証明書を使用して起動前イメージを認証します。セキュア ブートポリシーが カスタム に設定されている場合、BIOS はユーザー定義のキーおよび証明書を使用します。セキュア ブートポリシーはデフォルトで 標準 に設定されています。
Secure Boot Policy Summary	イメージを認証するためにセキュア ブートが使用する証明書とハッシュのリストを指定します。

関連参照文献

[システムセキュリティ](#)、p. 42

関連タスク

[システムセキュリティの表示](#)、p. 42

システムパスワードおよびセットアップパスワードの作成

前提条件

パスワードジャンパが有効になっているようにします。パスワードジャンパによって、システムパスワードとセットアップパスワードの機能を有効または無効にすることができます。詳細については、「システム基板のジャンパ設定」の項を参照してください。

 **メモ:** パスワードジャンパの設定を無効にすると、既存のシステムパスワードとセットアップパスワードは削除され、システムの起動にシステムパスワードを入力する必要がなくなります。

手順

1. セットアップユーティリティを起動するには、システムの電源投入または再起動の直後に F2 を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) > **System Security** (システムセキュリティ) の順にクリックします。
3. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で、**Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
4. **System Password** (システムパスワード) フィールドに、システムパスワードを入力して、Enter または Tab を押します。
以下のガイドラインに従ってシステムパスワードを設定します。

- パスワードの文字数は 32 文字までです。
- 0 から 9 までの数字を含めることができます。
- 特殊文字は、次の文字のみが利用可能です：スペース、()、(+)、(,)、(-)、(.)、(/)、(;)、([)、(\)、(])、(`)

システムパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。

5. システムパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
6. **Setup Password** (セットアップパスワード) フィールドに、セットアップパスワードを入力して、Enter または Tab を押します。
セットアップパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。
7. セットアップパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
8. Esc を押して System BIOS (システム BIOS) 画面に戻ります。もう一度 Esc を押します。
変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

 **メモ:** システムが再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

関連参照文献

システムセキュリティ、p. 42

システムを保護するためのシステムパスワードの使用

このタスクについて

セットアップパスワードを設定している場合、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け入れます。

手順

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. システムパスワードを入力し、Enter を押します。

次の手順

Password Status (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) に設定されている場合は、再起動時に画面の指示に従ってシステムパスワードを入力し、Enter を押します。

 **メモ:** 誤ったシステムパスワードを入力すると、パスワードの再入力を求めるメッセージがシステムによって表示されます。3 回目までに正しいパスワードを入力してください。誤ったパスワードを 3 回入力すると、システムが機能を停止し電源を切る必要があることを示すメッセージが、システムによって表示されます。システムの電源を切って再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。

関連参照文献

システムセキュリティ、p. 42

システムおよびセットアップパスワードの削除または変更

前提条件

- メモ:** **Password Status** (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) に設定されている場合、既存のシステムパスワードまたはセットアップパスワードを削除または変更することはできません。

手順

1. セットアップユーティリティを起動するには、システムの電源投入または再起動の直後に F2 を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) > **System Security** (システムセキュリティ) の順にクリックします。
3. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
4. **System Password** (システムパスワード) フィールドで、既存のシステムパスワードを変更または削除して、Enter または Tab を押します。
5. **Setup Password** (セットアップパスワード) フィールドで、既存のシステムパスワードを変更または削除して、Enter または Tab を押します。
システムパスワードおよびセットアップパスワードを変更する場合は、新しいパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。システムパスワードおよびセットアップパスワードを削除する場合は、削除の確認を求めるメッセージが表示されません。
6. Esc を押して **System BIOS** (システム BIOS) 画面に戻ります。もう一度 Esc を押すと、変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

関連参照文献

システムセキュリティ、p. 42

セットアップパスワード使用中の操作

Setup Password (セットアップパスワード) が **Enabled** (有効) に設定されている場合は、システムのセットアップオプションを変更する前に、正しいセットアップパスワードを入力します。

正しいパスワードを3回入力しなかった場合は、システムに次のメッセージが表示されます。

```
Invalid Password! Number of unsuccessful password attempts: <x> System Halted! Must power down.
```

システムの電源を切って再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。次のオプションは例外です。

- **System Password** (システムパスワード) が **Enabled** (有効) に設定されておらず、**Password Status** (パスワードステータス) オプションでロックされていない場合に、システムパスワードを割り当てることができます。詳細については、「システムセキュリティ設定画面」の項を参照してください。
- 既存のシステムのパスワードは、無効にすることも変更することもできません。

- メモ:** 不正な変更からシステムのパスワードを保護するために、パスワードステータスオプションをセットアップパスワードオプションと併用することができます。

関連参照文献

システムセキュリティ、p. 42

システム情報

System Information (システム情報) 画面を使用して、サービスタグ、システムモデル名、および BIOS バージョンなどのシステムプロパティを表示することができます。

関連参照文献

システム情報の詳細、p. 46

システム BIOS、p. 35

関連タスク

[システム情報の表示](#)、p. 46

システム情報の表示

System Information (システム情報) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

 **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Information** (システム情報) をクリックします。

関連参照文献

[システム情報](#)、p. 45

システム情報の詳細

このタスクについて

System Information (システム情報画面) の詳細は、次の通りです。

オプション	説明
System Model Name (システムモデル名)	システムモデル名を指定します。
System BIOS Version (システム BIOS バージョン)	システムにインストールされている BIOS バージョンを指定します。
System Management Engine Version (システム管理エンジンバージョン)	管理エンジンファームウェアの現在のバージョンを指定します。
System Service Tag (システムサービスタグ)	システムのサービスタグを指定します。
System Manufacturer (システム製造元)	システムメーカーの名前を指定します。
System Manufacturer Contact Information (システム製造元の連絡先情報)	システムメーカーの連絡先情報を指定します。
System CPLD Version (システム CPLD バージョン)	システムのコンプレックスプログラマブルロジックデバイス (CPLD) ファームウェアの現在のバージョンを指定します。

オプション 説明

UEFI Compliance Version (UEFI 準拠バージョン) システムファームウェアの UEFI 準拠レベルを指定します。

関連参照文献

[システム情報](#)、p. 45
[システム情報の詳細](#)、p. 46

関連タスク

[システム情報の表示](#)、p. 46

メモリ設定

Memory Settings (メモリ設定) 画面を使用して、メモリの設定をすべて表示し、メモリのテストやノードのインターリーピングなど特定のメモリ機能を有効または無効にできます。

関連参照文献

[メモリ設定の詳細](#)、p. 47
[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[メモリ設定の表示](#)、p. 47

メモリ設定の表示

Memory Settings (メモリ設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

```
F2 = System Setup
```

 **メモ:** F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Memory Settings** (メモリ設定) をクリックします。

関連参照文献

[メモリ設定](#)、p. 47
[メモリ設定の詳細](#)、p. 47

メモリ設定の詳細

このタスクについて

Memory Settings (メモリ設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
システムメモリのサイズ	システム内のメモリサイズを指定します。
システムメモリのタイプ	システムに取り付けられているメモリのタイプを指定します。
システムメモリ速度	メモリの速度を指定します。
システムメモリ電圧	メモリの電圧を指定します。
ビデオメモリ	ビデオメモリの容量を指定します。
システムメモリテスト	システム起動時にメモリテストを実行するかどうかを指定します。オプションは Enabled (有効) および Disabled (無効) です。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
メモリ動作モード	メモリの動作モードを指定します。使用可能なオプションは、 Optim�izer Mode 、 Advanced ECC Mode 、 Mirrored Mode 、 Spare Mode 、 Spare+Advanced ECC Mode 、 Dell Resilient Mode 、 Dell NUMA Resilient Mode です。デフォルトでは、このオプションは Optimizer Mode (最適化モード) に設定されています。 i メモ: メモリ動作モードオプションには、お使いのシステムのメモリ構成に基づいて、異なるデフォルトおよび利用可能オプションがあります。 i メモ: Dell Fault Resilient Mode (Dell 耐障害性モード) は、耐障害性を持つメモリ領域を確立します。このモードは、重要なアプリケーションをロードする機能を備えたオペレーティングシステム、または、オペレーティングシステムカーネルによりシステムの可用性を最大化できるオペレーティングシステムで使用できます。
ノードインターリーブ	NUMA (不均一メモリアーキテクチャ) をサポートするかどうかを指定します。このフィールドが Enabled (有効) になっている場合は、対称的なメモリ構成がインストールされている場合にメモリのインターリーブがサポートされます。 Disabled (無効) になっている場合は、システムは NUMA (非対称) メモリ構成をサポートします。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
スヌープモード	スヌープモードオプションを指定します。使用可能なスヌープモードオプションは、 Home Snoop 、 Early Snoop 、 Cluster On-Die です。デフォルトでは、このオプションは On (オン) に設定されています。このフィールドはのみ利用可能時に ノードインターリーブ がに設定を 無効 にしてください。

関連参照文献

[メモリ設定](#)、p. 47

関連タスク

[メモリ設定の表示](#)、p. 47

プロセッサ設定

Processor Setting (プロセッサ設定) 画面を使用して、プロセッサ設定を表示し、仮想化テクノロジー、ハードウェアプリフェッチャ、論理プロセッサアイドルなどの特定の機能を実行できます。

関連参照文献

[プロセッサ設定の詳細](#)、p. 49

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[プロセッサ設定の表示](#)、p. 48

プロセッサ設定の表示

Processor Settings (プロセッサ設定) 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **Processor Settings** (プロセッサ設定) をクリックします。

関連参照文献

プロセッサ設定、p. 48

プロセッサ設定の詳細、p. 49

プロセッサ設定の詳細

このタスクについて

プロセッサの設定画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
論理プロセッサ	論理プロセッサを有効または無効にして、論理プロセッサの数を表示します。このオプションが 有効 に設定されている場合、BIOS にはすべての論理プロセッサが表示されます。このオプションが 無効 に設定されている場合、BIOS にはコアあたり1個の論理プロセッサのみが表示されます。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
GPI Speed	QuickPath Interconnect データ率の設定の制御が可能になります。
代替 RTID (リクエスト トランザクション ID) 設定	QPI のリソースであるリクエスト トランザクション ID を変更します。このオプションは、デフォルトで 無効 に設定されています。 メモ: このオプションを有効にすると、全体的なシステムパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。
仮想化テクノロジー	仮想化のために提供されている追加のハードウェア機能の有効/無効を切り替えます。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
Address Translation Service (ATS)	デバイスのアドレス変換キャッシュ (ATC) を定義して、DMA トランザクションをキャッシュします。このオプションは、チップセットのアドレス変換と保護テーブルに CPU と DMA メモリー管理の間のインターフェイスを提供し、DMA アドレスをホストアドレスに変換します。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
隣接キャッシュラインのプリフェッチ	シーケンシャル メモリー アクセスを頻繁に使用する必要があるアプリケーション向けにシステムを最適化します。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。ランダム メモリー アクセスの使用率が高いアプリケーションを使用する場合は、このオプションを 無効 にできます。
ハードウェア プリフェッチャー	ハードウェア プリフェッチャーを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
DCU ストリーマープリフェッチャー	データ キャッシュユニット (DCU) ストリーマープリフェッチャーを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
DCU IP プリフェッチャー	データ キャッシュユニット (DCU) IP プリフェッチャーを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
Execute Disable	無効化メモリー保護テクノロジーを実行できます。このオプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
論理プロセッサのアイドルリング	システムのエネルギー効率性を改善できます。オペレーティングシステムのコア パーキング アルゴリズムを使用して、システムの論理プロセッサの一部を保留し、対応するプロセッサ コアを順番に低電力アイドル状態に遷移できます。このオプションは、オペレーティングシステムがサポートする場合のみ有効にすることができます。このオプションは、デフォルトで 無効 に設定されています。

オプション	説明
設定可能 TDP	システムの電力および温度送出機能に基づいて、POST 中にプロセッサの熱設計電力 (TDP) のレベルを再設定することができます。TDP は冷却システムが熱分散に必要な最大熱量を確認します。このオプションは、デフォルトで Nominal に設定されています。 メモ: このオプションは、プロセッサの特定の最小在庫管理単位 (SKU) でのみ利用可能です。
X2Apic モード	X2Apic モードを有効または無効にします。
Dell Controlled Turbo	ターボエンゲージメントを制御します。このオプションは、システムプロファイルがパフォーマンスに設定されている場合のみ有効になります。 メモ: インストールされている CPU の数に応じて、最大 4 台のプロセッサのリストがあります。
プロセッサあたりのコア数	プロセッサごとの有効なコアの数を制御します。このオプションは、デフォルトですべてに設定されています。
プロセッサ 64 ビットサポート	プロセッサが 64 ビット拡張をサポートするかどうかを指定します。
プロセッサ コア速度	プロセッサの最大コア周波数を指定します。
プロセッサ 1	メモ: CPU の数に応じて、最大 4 個のプロセッサがリストされている場合があります。 システムに取り付けられている各プロセッサについて、次の設定が表示されます。

オプション 説明

シリーズ - モデル - ステッピング	インテルによって定義されているとおりにプロセッサのファミリー、モデル、およびステッピングを指定します。
ブランド	ブランド名を指定します。
レベル 2 キャッシュ	L2 キャッシュの合計を指定します。
レベル 3 キャッシュ	L3 キャッシュの合計を指定します。
コア数	プロセッサごとのコア数を指定します。

関連参考文献

[プロセッサ設定](#)、p. 48

関連タスク

[プロセッサ設定の表示](#)、p. 48

SATA 設定

SATA Settings (SATA 設定) 画面を使用して、SATA デバイスの SATA 設定を表示し、お使いのシステムで RAID を有効にすることができます。

関連参考文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[SATA 設定の詳細](#)、p. 51

[SATA 設定の表示](#)、p. 51

SATA 設定の表示

SATA Settings (SATA 設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**SATA Settings** (SATA 設定) をクリックします。

関連参照文献

SATA 設定、p. 50

関連タスク

SATA 設定の詳細、p. 51

SATA 設定の詳細

このタスクについて

SATA Settings (SATA 設定) 画面の詳細は、次の通りです。

オプション	説明
Embedded SATA (内蔵 SATA)	Embedded SATA (内蔵 SATA) オプションを Off (オフ)、 ATA 、 AHCI 、または RAID のいずれかのモードに設定できます。デフォルトでは、このオプションは AHCI に設定されています。
Security Freeze Lock (セキュリティフリーズロック)	POST 中に組み込み SATA ドライブにセキュリティフリーズロックコマンドを送信します。このオプションは、ATA および AHCI モードにのみ適用されます。
Write Cache (書き込みキャッシュ)	POST 中に組み込み SATA ドライブの コマンドを有効または無効にします。
Port A (ポート A)	選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、 OFF (オフ) に設定します。 AHCI または RAID モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model (モデル)	選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。
Drive Type (ドライブタイプ)	SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。
Capacity (容量)	ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port B (ポート B)	選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、 OFF (オフ) に設定します。 AHCI または RAID モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。
-----------------------	---

オプション

説明

オプション 説明

Model (モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type (ドライブタイプ) SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity (容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port C (ポート C) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings** (組み込み SATA 設定) が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto** (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF** (オフ) に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model (モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type (ドライブタイプ) SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity (容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port D (ポート D) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings** (組み込み SATA 設定) が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto** (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF** (オフ) に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model (モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type (ドライブタイプ) SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity (容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port E (ポート E) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings** (組み込み SATA 設定) が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto** (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF** (オフ) に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model (モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type (ドライブタイプ) SATA ポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity (容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port F (ポート F) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings** (組み込み SATA 設定) が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto** (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF** (オフ) に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model (モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

オプション

説明

オプション 説明

Drive Type(ドライブタイプ) SATAポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity(容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port G(ポート G) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings(組み込み SATA 設定)** が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto(自動)** に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF(オフ)** に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model(モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type(ドライブタイプ) SATAポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity(容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port H(ポート H) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings(組み込み SATA 設定)** が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto(自動)** に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF(オフ)** に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model(モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type(ドライブタイプ) SATAポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity(容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port I(ポート I) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings(組み込み SATA 設定)** が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto(自動)** に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF(オフ)** に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model(モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type(ドライブタイプ) SATAポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

Capacity(容量) ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

Port J(ポート J) 選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。**Embedded SATA settings(組み込み SATA 設定)** が **ATA** モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを **Auto(自動)** に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、**OFF(オフ)** に設定します。

AHCI または **RAID** モードの場合、BIOS のサポートは常に有効です。

オプション 説明

Model(モデル) 選択されたデバイスのドライブモデルを指定します。

Drive Type(ドライブタイプ) SATAポートに接続されているドライブのタイプを指定します。

オプション

説明

オプション

説明

Capacity (容量)

ハードドライブの合計容量を指定します。光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイスに対しては未定義です。

関連参照文献

[SATA 設定](#)、p. 50

関連タスク

[SATA 設定の表示](#)、p. 51

内蔵デバイス

Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面を使用して、ビデオコントローラ、内蔵 RAID コントローラ、および USB ポートを含むすべての内蔵デバイスの設定を表示し設定することができます。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[内蔵デバイスの詳細](#)、p. 54

[内蔵デバイスの表示](#)、p. 54

内蔵デバイスの表示

Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) をクリックします。

関連参照文献

[内蔵デバイス](#)、p. 54

関連タスク

[内蔵デバイスの詳細](#)、p. 54

内蔵デバイスの詳細

このタスクについて

Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
USB 3.0 Setting (USB 3.0 の設定)	USB 3.0 のサポートを有効または無効にします。お使いの OS が USB 3.0 をサポートしている場合のみ、このオプションを有効にします。このオプションを無効にすると、デバイスは USB 2.0 速度で動作します。USB 3.0 はデフォルトで有効にします。
User Accessible USB Ports (ユーザーのアクセス可能な USB ポート)	USB ポートを有効または無効にします。 Only Back Ports On (バックポートのみをオン) を選択すると、前面 USB ポートが無効になり、 All Ports Off (すべてのポートをオフ) を選択すると、すべての USB ポートが無効になります。USB キーボードおよびマウスは、特定のオペレーティングシステム起動プロセスの間に動作します。起動プロセスが完了後、ポートが無効になっている場合、USB キーボードとマウスは機能しません。 メモ: Only Back Ports On (背面ポートのみオン) および All Ports Off (すべてのポートをオフ) を選択すると USB 管理ポートが無効になり、iDRAC 機能へのアクセスも制限されます。
Internal USB Port (内部 USB ポート)	内蔵 USB ポートを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Integrated RAID Controller (内蔵 RAID コントローラ)	内蔵 RAID コントローラを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Integrated Network Card 1(内蔵ネットワークカード 1)	内蔵ネットワークカードの有効/無効を切り替えます
Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2)	メモ: Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2) オプションは、 Integrated Network Card 1 (内蔵ネットワークカード 1) がないシステムでのみ利用できます。 Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2) オプションを有効または無効にします。 Disabled (無効) に設定されている場合、NIC は、組み込み管理コントローラにより共有ネットワークアクセス用に引き続き使用可能となっている可能性があります。Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2) オプションはネットワークドーターカード (NDC) がないシステムでのみ利用できます。このオプションは、内蔵ネットワークカード 1 オプションと同時に指定することはできません。Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2) オプションは、システムの NIC 管理ユーティリティを使用して設定します。
I/OAT DMA Engine (I/OAT DMA エンジン)	I/OAT オプションを有効または無効にします。ハードウェアとソフトウェアがこの機能をサポートしている場合にのみ、有効にできます。
I/O Snoop Holdoff Response (I/O スヌープレスポンスの先送り)	のサイクル数を PCI I/O、CPU から snoop リクエスト、それを独自の LLC の書き込みが完了する時間を許可することができます剥奪を選択します。この設定では、スループットを向上させ、レイテンシが重要な作業負荷でのパフォーマンスが向上できます。
Embedded Video Controller (内蔵ビデオコントローラ)	Embedded Video Controller (内蔵ビデオコントローラ) オプションを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Current State of Embedded Video Controller (内蔵ビデオコントローラの現在の状態)	内蔵ビデオコントローラの現在の状態を表示します。 Current State of Embedded Video Controller (内蔵ビデオコントローラの現在の状態) オプションは、読み取り専用フィールドです。内蔵ビデオコントローラがシステムで唯一の表示機能である (つまり、増設グラフィックスカードが取り付けられていない) 場合、 Embedded Video Controller (内蔵ビデオコントローラ) の設定が Disabled (無効) になっていても、内蔵ビデオコントローラが自動的にプライマリディスプレイとして使用されます。
SR-IOV Global Enable (SR-IOV グローバル有効)	シングルルート I/O 仮想化 (SR-IOV) デバイスの BIOS 設定を有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
OS Watchdog Timer (OS ウォッチドッグタイマー)	このウォッチドッグタイマーは、システムが応答を停止した場合のオペレーティングシステムのリカバリに有効です。このオプションが Enabled (有効) に設定されている場合、オペレーティングシステムはタイマーを初期化します。このオプションが Disabled (無効) に設定されている場合、タイマーはシステムに何の影響も及ぼしません。
Memory Mapped I/O above 4 GB (4 GB を超える I/O のメモリマップ化)	大量のメモリを必要とする PCIe デバイスに対するサポートを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。

オプション 説明

Slot Disablement (スロット無効化) システムで利用可能な PCIe スロットを有効または無効にします。スロット無効化機能を使用して、指定のスロットに取り付けられている PCIe カードの構成を制御できます。スロットの無効化は、取り付けられている周辺機器 (拡張) カードによって OS の起動が妨げられているか、またはシステムの起動の遅延が生じている場合のみに限定する必要があります。スロットが無効になると、Option ROM と UEFI ドライバの両方が無効になります。

関連参照文献

[内蔵デバイス](#)、p. 54

関連タスク

[内蔵デバイスの表示](#)、p. 54

シリアル通信

Serial Communication (シリアル通信) 画面を使用して、シリアル通信ポートのプロパティを表示します。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[シリアル通信の詳細](#)、p. 56

[シリアル通信の表示](#)、p. 56

シリアル通信の表示

Serial Communication (シリアル通信) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **Serial Communication** (シリアル通信) をクリックします。

関連参照文献

[シリアル通信](#)、p. 56

関連タスク

[シリアル通信の詳細](#)、p. 56

シリアル通信の詳細

このタスクについて

Serial Communication (シリアル通信) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
Serial Communication (シリアル通信)	BIOS でシリアル通信デバイス (シリアルデバイス 1 およびシリアルデバイス 2) を選択します。BIOS コンソールリダイレクトを有効にして、ポートアドレスを指定できます。このオプションは、デフォルトで Auto (自動) に設定されています。
Serial Port Address (シリアルポートアドレス)	シリアルデバイスのポートアドレスを設定することができます。このオプションはデフォルトで Serial Device 1=COM2, Serial Device 2=COM1 (シリアルデバイス 1 = COM2、シリアルデバイス 2 = COM1) に設定されています。 <i>i</i> メモ: シリアルオーバー LAN (SOL) 機能にはシリアルデバイス 2 のみ使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。 <i>i</i> メモ: システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。シリアル MUX 設定は、iDRAC で個別に変更できます。したがって、BIOS セットアップユーティリティから BIOS のデフォルト設定をロードしても、シリアル MUX の設定がシリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。
External Serial Connector (外付けシリアルコネクタ)	このオプションを使用して、External Serial Connector (外付けシリアルコネクタ) を Serial Device 1 (シリアルデバイス 1)、Serial Device 2 (シリアルデバイス 2)、または Remote Access Device (リモートアクセスデバイス) に関連付けることができます。 <i>i</i> メモ: SOL には Serial Device 2 (シリアルデバイス 2) のみ使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。 <i>i</i> メモ: システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。シリアル MUX 設定は、iDRAC で個別に変更できます。したがって、BIOS セットアップユーティリティから BIOS のデフォルト設定をロードしても、この設定がシリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。
Failsafe Baud Rate (フェイルセーフボーレート)	コンソールのリダイレクトに使用されているフェイルセーフボーレートが表示されます。BIOS は自動的にボーレートの決定を試みます。このフェイルセーフボーレートは、その試みが失敗した場合にのみ使用されます。また、値は変更しないでください。デフォルトでは、このオプションは 115200 に設定されています。
Remote Terminal Type (リモートターミナルタイプ)	リモートコンソールターミナルのタイプを設定します。このオプションは、デフォルトで VT 100/VT 220 に設定されています。
Redirection After Boot (起動後のリダイレクト)	OS のロード時に BIOS コンソールのリダイレクトの有効または無効を切り替えることができます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。

関連参照文献

[シリアル通信](#)、p. 56

関連タスク

[シリアル通信の表示](#)、p. 56

システムプロファイル設定

System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面を使用して、電源管理などの特定のシステムパフォーマンス設定を有効にできます。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[システムプロファイル設定の詳細](#)、p. 58

システムプロファイル設定の表示

System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) をクリックします。

関連参考文献

システムプロファイル設定、p. 57

関連タスク

システムプロファイル設定の詳細、p. 58

システムプロファイル設定の詳細

このタスクについて

System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
System Profile (システムプロファイル)	システムプロファイルを設定します。 System Profile (システムプロファイル) オプションを Custom (カスタム) 以外のモードに設定すると、BIOS が残りのオプションを自動的に設定します。モードを Custom (カスタム) に設定している場合に限り、残りのオプションを変更できます。このオプションは、デフォルトで Performance Per Watt Optimized (DAPC) (ワットあたりのパフォーマンス最適化 (DAPC)) に設定されています。DAPC とは Dell Active Power Controller の略です。 メモ: システムプロファイル設定画面のすべてのパラメーターは、 System Profile (システムプロファイル) オプションが Custom (カスタム) に設定されている場合のみ使用可能です。
CPU Power Management (CPU 電力の管理)	CPU 電力の管理を設定します。このオプションは、デフォルトで System DBPM (DAPC) (システム DBPM(DAPC)) に設定されています。
Memory Frequency (メモリ周波数)	メモリの速度を設定します。 Maximum Performance (最大パフォーマンス)、 Maximum Reliability (最大の信頼性)、または特定の速度を選択できます。
Turbo Boost (ターボブースト)	プロセッサがターボブーストモードで動作するかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Energy Efficient Turbo (省エネルギーターボ)	Energy Efficient Turbo (省エネルギーターボ) オプションを有効または無効にします。 省エネルギーターボ (EET) は、プロセッサのコア周波数を作業負荷に基いたターボ範囲内に調節する動作モードです。
C1E	アイドル時にプロセッサが最小パフォーマンス状態に切り替わるかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
C States (C ステート)	プロセッサが利用可能なすべての電源状態で動作するかどうかを設定できます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。

オプション	説明
Collaborative CPU Performance Control (CPU パフォーマンス協調制御)	CPU 自動設定オプションを有効または無効にします。有効に設定すると、CPU 電源管理が OS DBPM およびシステムの DBPM (DAPC) によって制御されます。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
Memory Patrol Scrub (メモリ巡回スクラブ)	メモリ巡回スクラブの周波数を設定することができます。デフォルトでは、このオプションは Standard (標準) に設定されています。
Memory Refresh Rate (メモリリフレッシュレート)	メモリリフレッシュレートを 1x または 2x に設定します。このオプションは、デフォルトで 1x に設定されています。
Uncore Frequency (アンコア周波数)	Processor Uncore Frequency (プロセッサアンコア周波数) オプションを選択することが可能になります。Dynamic mode (動的モード) では、プロセッサの実行時のコアおよびアンコアの全体に渡って電源リソースを最適化できます。電力を節約、またはパフォーマンスを最適化するためのアンコア周波数の最適化は、 Energy Efficiency Policy (省エネルギーポリシー) の設定の影響を受けます。
Energy Efficient Policy (省エネルギーポリシー)	Energy Efficient Policy (省エネルギーポリシー) オプションを選択することが可能になります。CPU はプロセッサの内部動作を操作するための設定を使用して、より高いパフォーマンスを求めるか、それともより良い省電力を求めかを判断します。
Number of Turbo Boost Enabled Cores for Processor 1 (プロセッサ 1 のターボブースト対応コア数)	<p> メモ: システムに取り付けられているプロセッサが 2 個ある場合は、Number of Turbo Boost Enabled Cores for Processor 2 (プロセッサ 2 のターボブースト対応コア数) のエントリが表示されます。</p> <p>プロセッサ 1 のターボブースト対応コア数を制御します。コアの最大数がデフォルトで有効にします。</p>
Monitor/Mwait	<p>プロセッサ内の Monitor/Mwait 命令を有効にします。このオプションは、デフォルトで Custom (カスタム) 以外のすべてのシステムプロファイルに対して Enabled (有効) に設定されています。</p> <p> メモ: このオプションは、Custom (カスタム) モードの C States (C ステート) オプションが Disabled (無効) に設定されている場合に限り、無効に設定できます。</p> <p> メモ: Custom (カスタム) モードで C States (C ステート) が Enabled (有効) に設定されている場合に、Monitor/Mwait 設定を変更しても、システムの電力またはパフォーマンスは影響を受けません。</p>

関連参照文献

[システムプロファイル設定](#)、p. 57

関連タスク

[システムプロファイル設定の表示](#)、p. 58

その他の設定

Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面を使用して、アセットタグの更新やシステムの日付と時刻の変更などの特定の機能を実行できます。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[その他の設定の詳細](#)、p. 60

[その他の設定の表示](#)、p. 60

その他の設定の表示

Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面を表示するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

メモ: F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、システムを再起動してもう一度やり直してください。

3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
4. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Miscellaneous Settings** (その他の設定) をクリックします。

関連参照文献

[その他の設定](#)、p. 59

関連タスク

[その他の設定の詳細](#)、p. 60

その他の設定の詳細

このタスクについて

Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面の詳細は、次のとおりです。

オプション	説明
System Time (システム時刻)	システムの時刻を設定することができます。
System Date (システム日付)	システムの日付を設定することができます。
Asset Tag (管理タグ)	資産タグを指定して、セキュリティと追跡のために変更することができます。
Keyboard NumLock (キーボード NumLock)	NumLock が有効または無効のどちらの状態でもシステムが起動するかを設定できます。デフォルトでは、このオプションは On (オン) に設定されています。 メモ: このフィールドは 84 キーのキーボードには適用されません。
F1/F2 Prompt on Error (エラー時 F1/F2 プロンプト)	エラー時の F1/F2 プロンプトを有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。F1/F2 プロンプトは、キーボードエラーも含まれます。
Load Legacy Video Option ROM (レガシービデオオプション ROM のロード)	システム BIOS でビデオコントローラからレガシービデオ (INT 10H) オプション ROM をロードするかどうかを決定できます。オペレーティングシステムで Enabled (有効) を選択すると、UEFI ビデオ出力標準をサポートしません。このフィールドは UEFI 起動モードでのみ有効です。 UEFI Secure Boot (UEFI セキュアブート) モードが Enabled (有効) の場合は、このオプションを有効に設定できません。
In-System Characterization (インシステムキャラクターライゼーション)	In-System Characterization (インシステムキャラクターライゼーション) を有効または無効にします。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。他の 2 つのオプションは、 Enabled (有効) および Enabled - No Reboot (有効 - 再起動なし) です。 メモ: In-System Characterization (インシステムキャラクターライゼーション) のデフォルト設定は今後の BIOS のリリースで変更されることがあります。

オプション 説明

有効にすると、ISC (インシステムキャラクタライゼーション) はシステムの設定で関連する変更を検出する POST 中に実行され、システムの電力とパフォーマンスを最適化します。ISC の実行には約 20 秒かかり、ISC の結果を適用するにはシステムのリセットが必要です。 **Enabled - No Reboot** (有効 - 再起動なし) オプションで ISC を実行すると、次回にシステムをリセットするまで ISC の結果は適用されずに続行されます。 **Enabled** (有効) オプションで ISC を実行すると、システムは即時に強制リセットされ、ISC の結果が適用されます。システムのリセットが強制的に実行されるため、システムの準備が整うまでに時間がかかります。無効にすると、ISC は実行されません。

関連参考文献

[その他の設定](#)、p. 59

関連タスク

[その他の設定の表示](#)、p. 60

iDRAC 設定ユーティリティ

iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI を使用して iDRAC パラメーターをセットアップおよび設定するためのインターフェイスです。iDRAC 設定ユーティリティを使用することで、さまざまな iDRAC パラメーターを有効または無効にすることができます。

 **メモ:** 一部の iDRAC 設定ユーティリティ機能へのアクセスには、iDRAC Enterprise ライセンスのアップグレードが必要です。

iDRAC 使用の詳細については、次の URL にある *Dell Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド* を参照してください。 Dell.com/idracmanuals

関連概念

[デバイス設定](#)、p. 62

関連参考文献

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[iDRAC 設定ユーティリティの起動](#)、p. 61

[温度設定の変更](#)、p. 61

iDRAC 設定ユーティリティの起動

手順

1. 管理対象システムの電源を入れるか、再起動します。
2. Power-on Self-test (POST) 中に <F2> を押します。
3. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) ページで **iDRAC Settings** (iDRAC 設定) をクリックします。
iDRAC Settings (iDRAC 設定) 画面が表示されます。

関連参考文献

[iDRAC 設定ユーティリティ](#)、p. 61

温度設定の変更

iDRAC 設定ユーティリティでは、お使いのシステムの温度制御設定を選択してカスタマイズすることができます。

1. **iDRAC Settings** (iDRAC 設定) > **Thermal** (温度) の順にクリックします。
2. **SYSTEM THERMAL PROFILE** (システムの温度プロファイル) > **Thermal Profile** (温度プロファイル) で、次のオプションのいずれかを選択します。

- デフォルトの温度プロファイル設定
 - 最大パフォーマンス (パフォーマンス最適化)
 - 最小電力 (1ワットあたりのパフォーマンス最適化)
3. **USER COOLING OPTIONS** (ユーザー冷却オプション) で、**Fan Speed Offset** (ファン速度オフセット)、**Minimum Fan Speed** (最小ファン速度)、および **Custom Minimum Fan Speed** (カスタム最小ファン速度) を設定します。
 4. **Back** (戻る) > **Finish** (終了) > **Yes** (はい) の順にクリックします。

関連参照文献

[iDRAC 設定ユーティリティ](#)、p. 61

デバイス設定

Device Settings (デバイス設定) では、デバイスパラメータを設定することができます。

関連参照文献

[システム BIOS](#)、p. 35

Dell Lifecycle Controller

Dell Lifecycle Controller (LC) は、システムの導入、構成、アップデート、保守、診断を含む、組み込み型の高度なシステム管理機能を実現します。LC は、iDRAC 帯域外ソリューション、および Dell EMC システムの内蔵 Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) アプリケーションの一部として提供されます。

関連参照文献

[組み込み型システム管理](#)、p. 62

組み込み型システム管理

Dell Lifecycle Controller により、システムのライフサイクル全体を通して、高度な組み込み型システムを管理できるようになります。Dell Lifecycle Controller は起動時にも開始することができ、オペレーティングシステムに依存せずに機能します。

 **メモ:** 一部のプラットフォーム構成では、Dell Lifecycle Controller の提供する機能の一部がサポートされない場合があります。

Dell Lifecycle Controller のセットアップ、ハードウェアとファームウェアの設定、およびオペレーティングシステムの導入の詳細については、[Dell.com/idracmanuals](#) の『Dell Lifecycle Controller マニュアル』を参照してください。

関連参照文献

[Dell Lifecycle Controller](#)、p. 62

ブートマネージャ

Boot Manager (起動マネージャ) 画面では、起動オプションと診断ユーティリティを選択できます。

関連参照文献

[起動マネージャのメインメニュー](#)、p. 63

[システム BIOS](#)、p. 35

関連タスク

[ブートマネージャの表示](#)、p. 63

ブートマネージャの表示

Boot Manager (ブートマネージャ) を起動するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムの電源を入れるか、または再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたら <F11> を押します。

```
F11 = Boot Manager
```

F11 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを起動してやり直してください。

関連参考文献

[ブートマネージャ](#)、p. 62

[起動マネージャのメインメニュー](#)、p. 63

起動マネージャのメインメニュー

メニュー項目	説明
Continue Normal Boot (通常の起動を続行)	システムは起動順序の先頭にあるデバイスから順に起動を試みます。起動が失敗すると、システムは起動順序内の次のデバイスから起動を試みます。起動が成功するか、起動オプションがなくなるまで処理は続行されます。
One Shot Boot Menu (ワンショット起動メニュー)	起動メニューにアクセスし、ワнтаイム起動デバイスを選択して、このデバイスから起動できます。
Launch System Setup (セットアップユーティリティの起動)	セットアップユーティリティにアクセスできます。
Launch Lifecycle Controller (Lifecycle Controller の起動)	起動マネージャを終了し、Dell Lifecycle Controller プログラムを起動します。
System Utilities (システムユーティリティ)	システム診断および UEFI シェルなどのシステムユーティリティメニューを起動できます。

関連参考文献

[ブートマネージャ](#)、p. 62

関連タスク

[ブートマネージャの表示](#)、p. 63

ワンショット BIOS 起動メニュー

One-shot BIOS boot menu (ワンショット BIOS 起動メニュー) では、起動元となる起動デバイスを選択することができます。

関連参考文献

[ブートマネージャ](#)、p. 62

システムユーティリティ

System Utilities (システムユーティリティ) には、起動可能な次のユーティリティが含まれています。

- 診断プログラムの起動
- BIOS/UEFI アップデート ファイル エクスプローラー
- システムの再起動

メモ: 選択する起動モードに応じて、BIOS または UEFI アップデート ファイル エクスプローラーの場合があります。

関連参考文献

ブートマネージャ、p. 62

PXE 起動

Preboot Execution Environment (PXE) オプションを使用してネットワーク接続されたシステムをリモートに起動および設定することができます。

メモ: PXE boot (PXE 起動) オプションにアクセスするには、システムを起動して F12 を押します。システムが、アクティブなネットワーク接続済みシステムをスキャンして表示します。

システムコンポーネントの取り付けと取り外し

トピック：

- 安全にお使いいただくために
- システム内部の作業を始める前に
- システム内部の作業を終えた後に
- 推奨ツール
- 前面ベゼル (オプション)
- システムカバー
- システムの内部
- プロセッサ拡張モジュール (オプション)
- 冷却エアフローカバー
- 冷却ファン
- 冷却ファンアセンブリ
- システムメモリ
- プロセッサとヒートシンク
- 電源装置ユニット
- 内蔵ストレージコントローラカード
- 拡張カードと拡張カードライザー
- IDSDM
- ネットワークドーターカード
- 内蔵 USB メモリキー (オプション)
- システムバッテリー
- ハードドライブ
- 光学ドライブ (オプション)
- ハードドライブバックプレーン
- コントロールパネル
- システム基板
- Trusted Platform Module

安全にお使いいただくために

ⓘ メモ: システムを持ち上げる必要がある場合は、誰かの手を借りてください。けがを防ぐため、決してシステムを1人で持ち上げようとしないでください。

⚠ 警告: システムの電源が入っている状態でシステムカバーを開いたり取り外したりすると、感電するおそれがあります。

⚠ 注意: システムは、カバー無しで5分以上動作させないでください。

⚠ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

ⓘ メモ: システム内部のコンポーネントでの作業中は、静電マットと静電ストラップを常に使用することをお勧めします。

ⓘ メモ: 正常な動作と冷却を確保するため、システム内のすべてのベイおよびシステムファンにはコンポーネント、またはダミーのいずれかを常時装着しておく必要があります。

システム内部の作業を始める前に

前提条件

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

1. システムとすべての周辺機器の電源を切ります。
2. システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
3. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
4. 必要に応じて、システムをラックから取り外します。
詳細については、Dell.com/poweredge manuals のラック取り付けブレスマットを参照してください。
5. システムのカバーを外します。

システム内部の作業を終えた後に

前提条件

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

1. システムカバーを取り付けます。
2. 必要に応じて、システムをラックに取り付けます。
詳細については、Dell.com/poweredge manuals のラック取り付けブレスマットを参照してください。
3. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。
4. 周辺機器を再度接続し、システムをコンセントに接続します。
5. システムとすべての周辺機器の電源を入れます。

関連参考文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[システムカバーの取り付け](#)、p. 69

推奨ツール

取り外しと取り付け手順を実行するには、以下のツールが必要になります。

- ベゼルロックのキー。
キーは、お使いのシステムにベゼルが含まれている場合にのみ必要となります。
- #2 プラスドライバー
- 静電気防止用リストバンド

前面ベゼル (オプション)

前面ベゼルはシステムの前面に取り付けてあり、ハードドライブの取り外し中、またはリセットボタンや電源ボタンを押したときの事故を防止します。前面ベゼルは、セキュリティ強化のためにロックすることもできます。

オプションの前面ベゼルの取り外し

前提条件

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

1. ベゼルキーの位置を確認して取り外します。
メモ: ベゼルキーはベゼルの背面に取り付けられています。
2. キーを使ってベゼルのロックを解除します。
3. リリースラッチを上スライドさせて、ベゼルの左端を引きます。
4. 右端のフックを外し、ベゼルを取り外します。

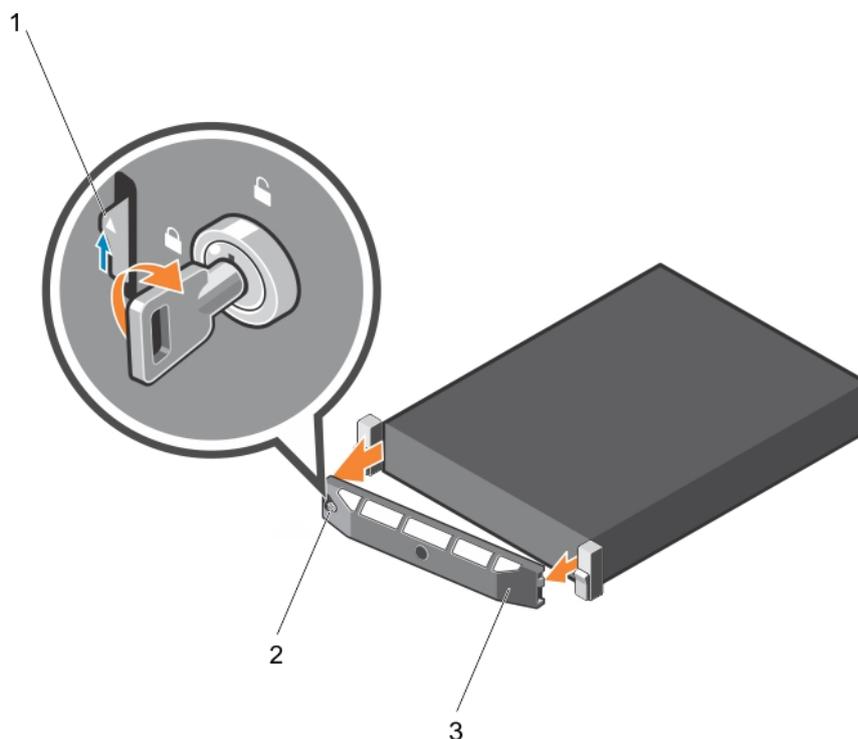


図 11. オプションの前面ベゼルの取り外し

- a. リリースラッチ
- b. ベゼルロック
- c. 前面ベゼル

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

オプションの前面ベゼルの取り付け、p. 67

オプションの前面ベゼルの取り付け

前提条件

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

1. ベゼルキーの位置を確認して取り外します。
① **メモ:** ベゼルキーはベゼルの背面に取り付けられています。
2. ベゼルの右端をシャーシに取り付けます。
3. ベゼルのもう一方の端をシステムにはめ込みます。
4. キーを使用してベゼルをロックします。

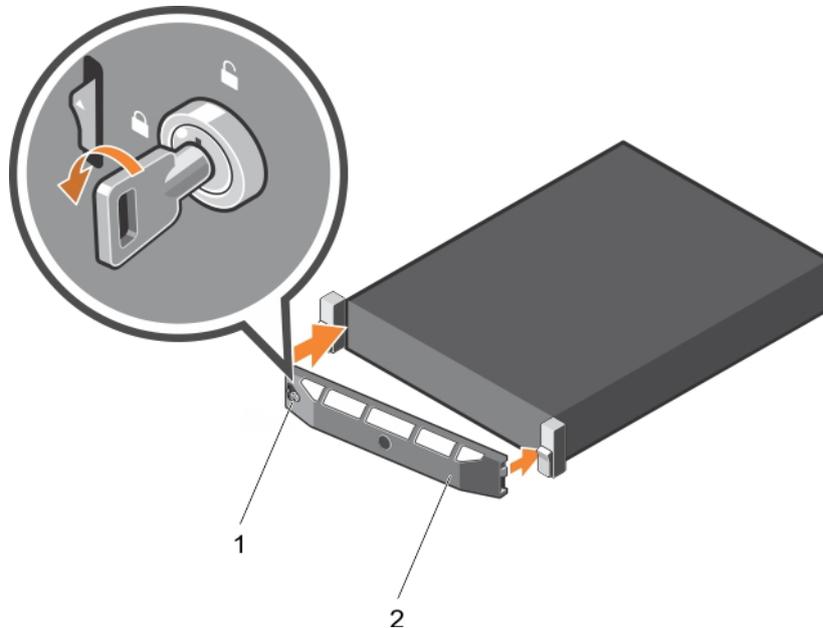


図 12. オプションの前面ベゼルの取り付け

- a. ベゼルロック
- b. 前面ベゼル

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

システムカバー

システムカバーはシステム内部のコンポーネントを保護すると共に、システム内の通気を維持するのに役立ちます。システムカバーを取り外すと、イントルージョンスイッチが作動します。

システムカバーの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. オプションのベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

1. ラッチリリースロックを反時計方向に回してロック解除位置にします。
2. ラッチをシステム後方に向けて持ち上げます。
システムカバーを後方にスライドさせると、システムカバーのタブがシャーシのスロットから外れます。
① **メモ:** ラッチの位置は、お使いのシステムの設定によって異なる場合があります。
3. カバーの両側をつかんで持ち上げて、システムから取り外します。

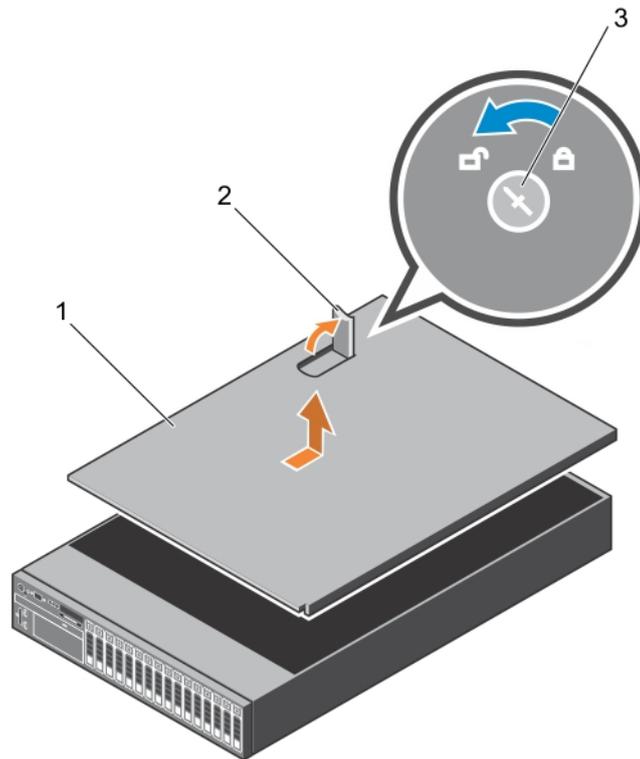


図 13. システムカバーの取り外し

- a. システムカバー
- b. ラッチ
- c. ラッチリリースロック

次の手順

1. システムカバーを取り付けます。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

オプションの前面ベゼルの取り外し、p. 67

システムカバーの取り付け、p. 69

システムカバーの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. すべての内部ケーブルが接続され、邪魔にならないように束ねられており、システム内部に工具や余分な部品が残っていないことを確認します。

手順

1. システムカバーのスロットをシャーシのタブに合わせます。
2. システムカバーのラッチを押し下げます。

システムカバーを前方にスライドさせると、システムカバーの-slotがシャーシのタブにはめ込まれます。システムカバーがシャーシのタブに完全にはめ込まれると、システムカバーラッチが所定の位置にロックされます。

- ラッチリリースロックを時計方向に回してロック位置にします。

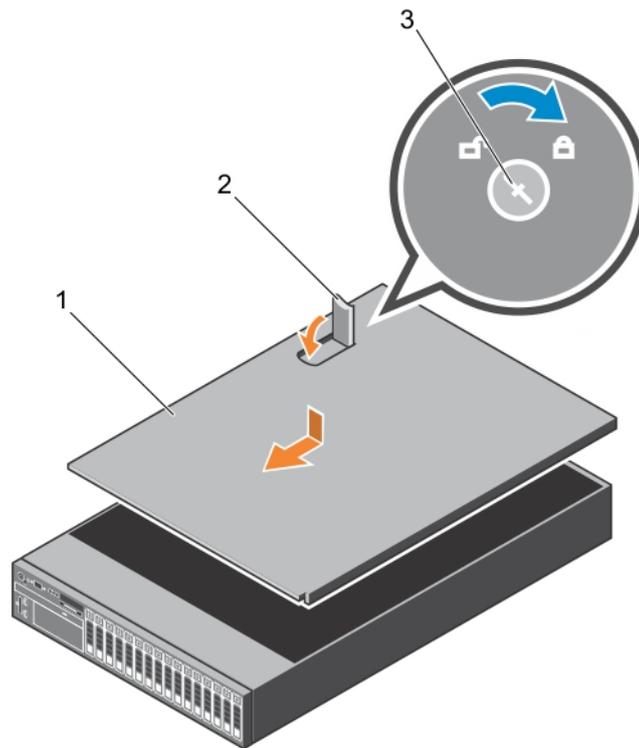


図 14. システムカバーの取り付け

- システムカバー
- ラッチ
- ラッチリリースロック

次の手順

- 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。
- 周辺機器を再度接続し、システムをコンセントに接続します。
- システムとすべての周辺機器の電源を入れます。
- 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

オプションの前面ベゼルの取り外し、 p. 67

システムの内

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

ⓘ メモ: ホットスワップ対応のコンポーネントは、オレンジ色のマークが付いています。

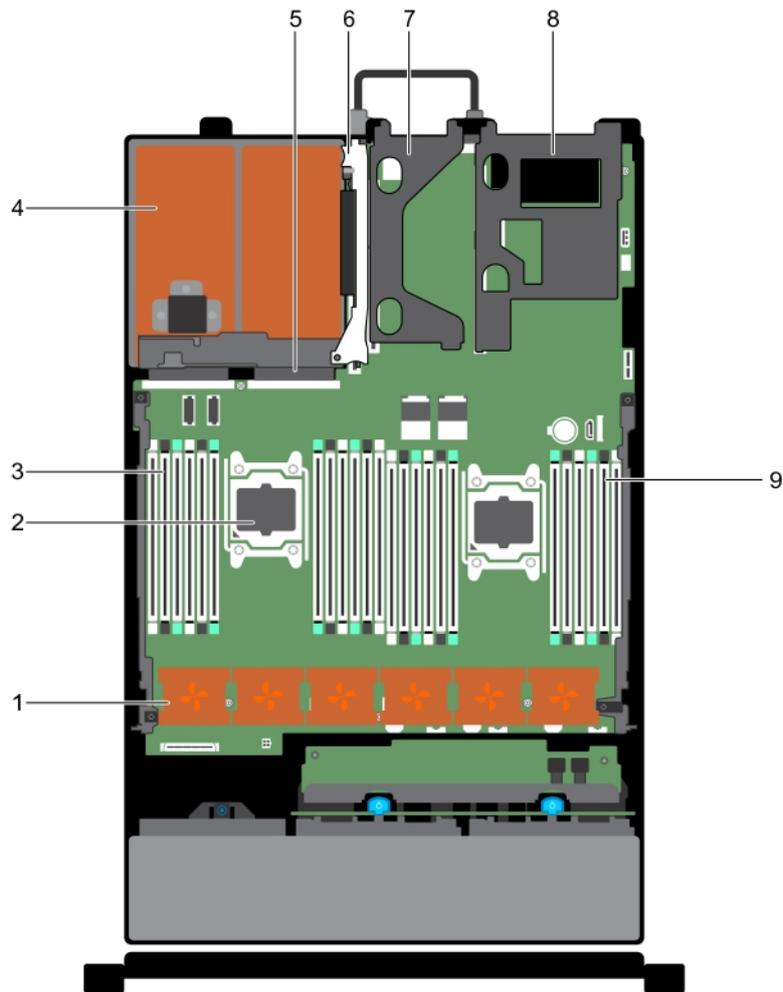


図 15. システムの内部 - プロセッサ 2 個搭載のシステム

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 冷却ファン (6) | 2. プロセッサ (2) |
| 3. DIMM (12) | 4. 電源装置ユニット (PSU) (2) |
| 5. PSU コネクタ | 6. ライザー 3 |
| 7. ライザー 2 | 8. ライザー 1 |
| 9. DIMM (12) | |

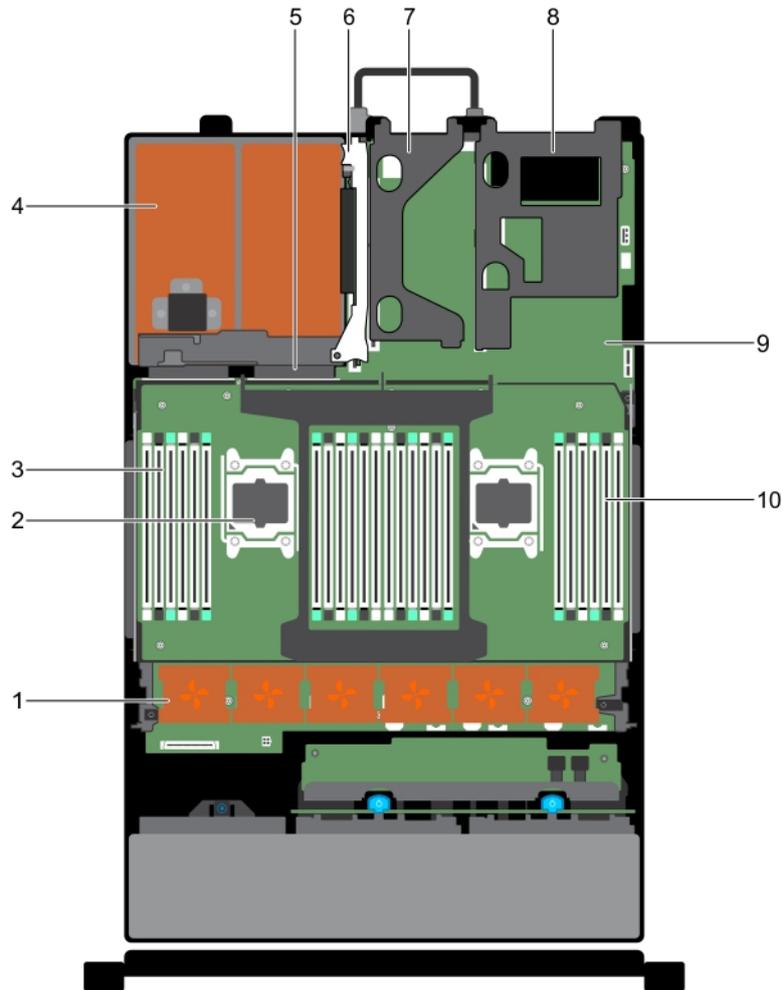


図 16. システム内部 - プロセッサ拡張モジュール (PEM) があるプロセッサ 4 個搭載のシステム

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 冷却ファン (6) | 2. プロセッサ (4) |
| 3. システム基板および PEM 上の DIMM (24) | 4. 電源装置ユニット (PSU) (2) |
| 5. PSU コネクタ | 6. ライザー 3 |
| 7. ライザー 2 | 8. ライザー 1 |
| 9. システム基板 | 10. システム基板および PEM 上の DIMM (24) |

プロセッサ拡張モジュール (オプション)

プロセッサ拡張モジュール (PEM) は、プロセッサ 4 個搭載のシステムのみに取り付けられています。

プロセッサ拡張モジュールの取り外し

前提条件

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** メモリモジュールまたはヒートシンクをつかんでプロセッサ拡張モジュールを持ち上げないでください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. PEM (プロセッサ拡張モジュール) がシャーシから外れるまで PEM のリリースレバーを上げます。

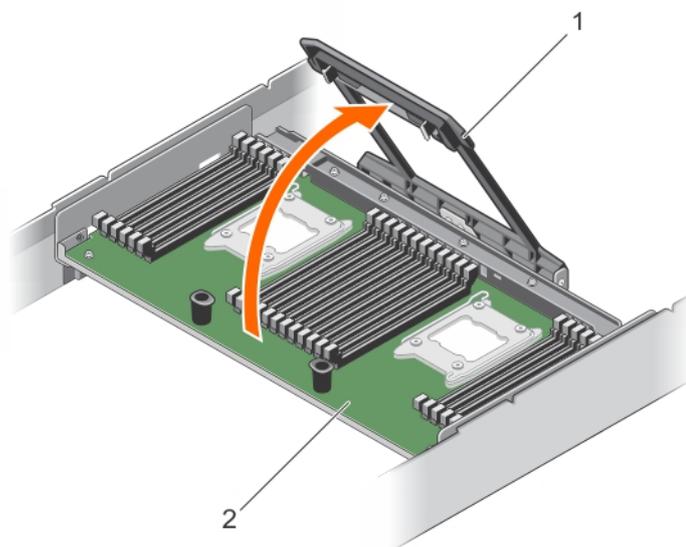


図 17. PEM の取り外し

- a. プロセッサ拡張モジュール
 - b. リリースレバー
2. リリースレバーとサポートピンを持って、PEM を持ち上げシャーシから取り外します。

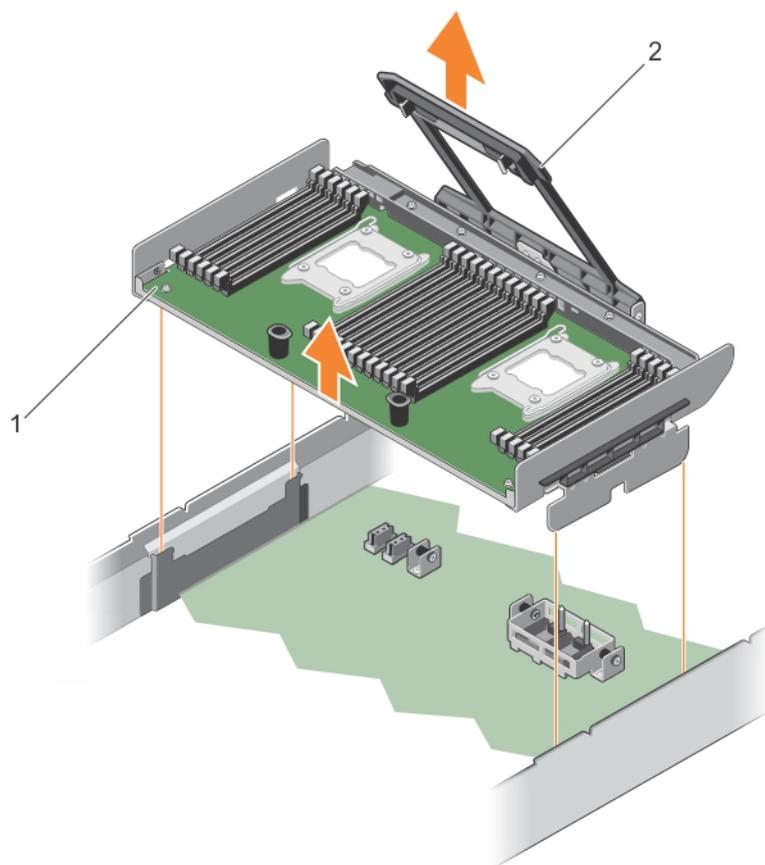


図 18. PEM の取り外し

- a. プロセッサ拡張モジュール
- b. リリースレバー

3. PEM を取り外したままにする場合は、QPI コネクタの上にフィラーブラケットを取り付け、冷却用エアフローカバーを取り付けます。

メモ: FCC (Federal Communications Commission) 認可規格にシステムを準拠させるには、QPI コネクタの上にフィラーブラケットを取り付ける必要があります。フィラーブラケットはシステム内へのごみやほこりの侵入を防ぎます。

4. フィラーブラケットを取り付けるには、フィラーブラケット上の切り込みを QPI コネクタのスタンドオフに合わせ、フィラーブラケットを所定の位置に押し入れます。

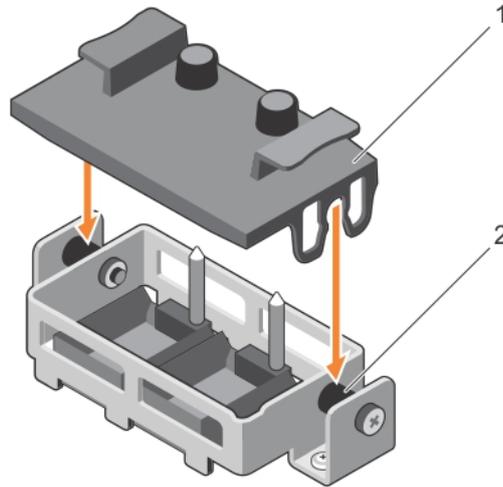


図 19. QPI コネクタへのフィラーブラケットの取り付け

- a. フィラーブラケット
- b. スタンドオフ (2)

5. PEM 電源コネクタキャップを取り付けます。

次の手順

1. 冷却用エアフローカバーが取り付けられていた場合は、取り付けます。
注意: 冷却用エアフローカバーを取り外した状態でプロセッサ 2 基のシステムを使用しないでください。システムが急激にオーバーヒートする可能性があり、システムのシャットダウンや、データ損失の原因となります。
2. 該当する場合は、PEM を取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、 p. 78

プロセッサ拡張モジュールの取り付け

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムをアップグレードする前に、Dell.com/support から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

メモ: システム BIOS のアップデートは Dell Lifecycle Controller を使用して行います。

2. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
3. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
4. 冷却用エアフローカバーが取り付けられていれば、外します。冷却用エアフローカバーは将来使用するために取っておきます。

手順

1. 該当する場合は、フィラーブラケットを取り外します。フィラーブラケットを取り外すには、タブを持ちフィラーブラケットを持ち上げて、QPI コネクタから取り外します。

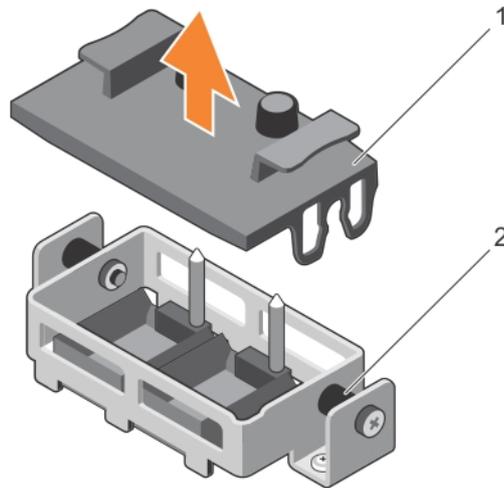


図 20. QPI コネクタからのフィラーブラケットの取り外し

- a. フィラーブラケット
 - b. スタンドオフ (2)
2. 該当する場合は、PEM 電源コネクタキャップを取り外します。
 3. サポートピンとリリースレバーを持ち、PEM の位置合わせガイドとシャーシの位置合わせガイドを合わせて、PEM をシャーシ内におろします。

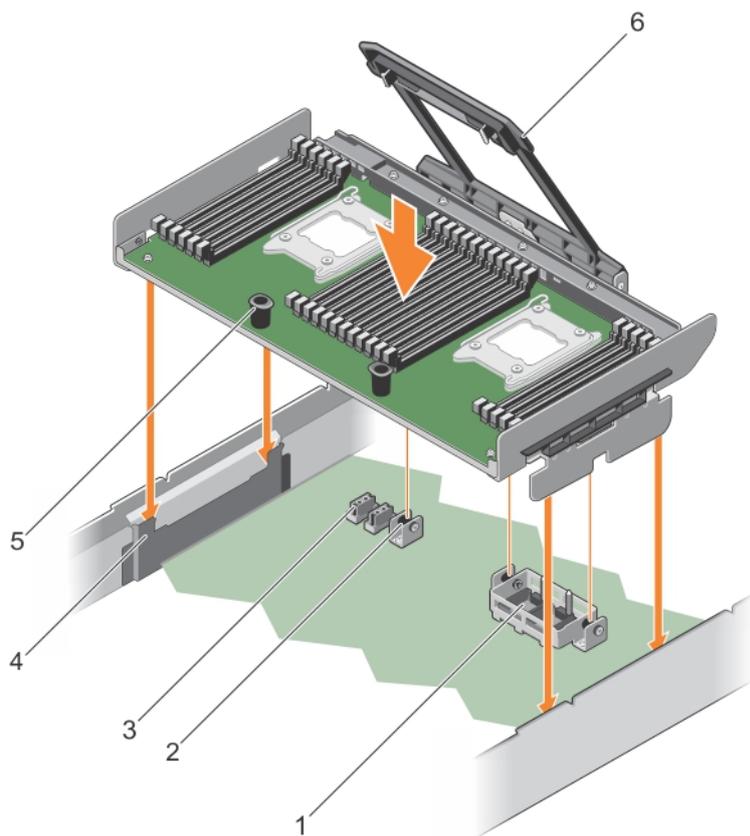


図 21. PEM の取り付け

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. QPI コネクタ | 2. 突起 (3) |
| 3. PEM 電源コネクタ (2) | 4. 位置合わせガイド (2) |
| 5. サポートピン (2) | 6. リリースレバー |

4. PEM が所定の位置にロックされるまで、リリースレバーをシャーシの方向に押します。

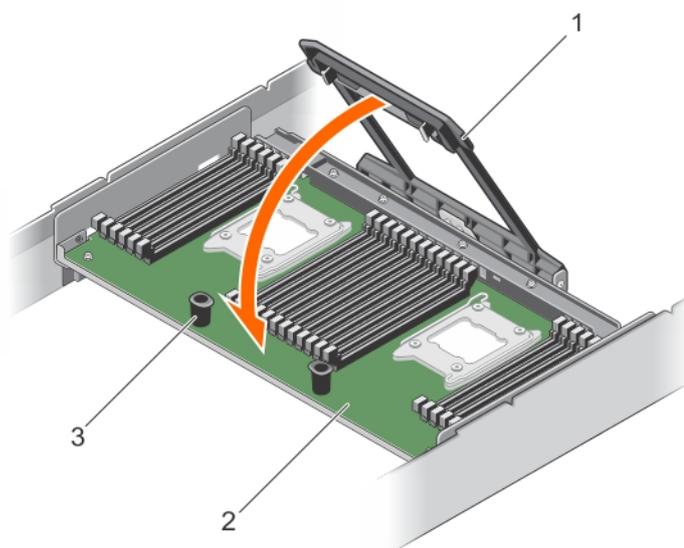


図 22. リリースレバーを使用したシャーシへの PEM の固定

- | |
|-----------------|
| a. プロセッサ拡張モジュール |
| b. サポートピン (2) |
| c. リリースレバー |

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
2. 初めてプロセッサ拡張モジュールを取り付ける場合は、<F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム構成と一致していることを確認します。
3. システム Diagnostics (診断) プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。利用できる Diagnostics (診断) テストについては「システム Diagnostics (診断) プログラムの使い方」を参照してください。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、 p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、 p. 66

[システム内部の作業を終えた後に](#)、 p. 66

冷却エアフローカバー

冷却エアフローカバーは、システム全体にわたって空気力学的に空気の流れを導きます。空気の流れは、システムのすべての重要なパーツを通過します。減圧により、ヒートシンクの表面領域全体で空気が引き込まれ、冷却効果が向上します。

冷却エアフローカバーの取り外し

前提条件

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** 冷却エアフローカバーをせずに、プロセッサが 2 基あるシステムを動作させないでください。システムが急激にオーバーヒートする可能性があり、システムのシャットダウンや、データ ロスの原因となります。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

手順

タッチポイントを持ち、冷却エアフローカバーを持ち上げてシステムから取り外します。

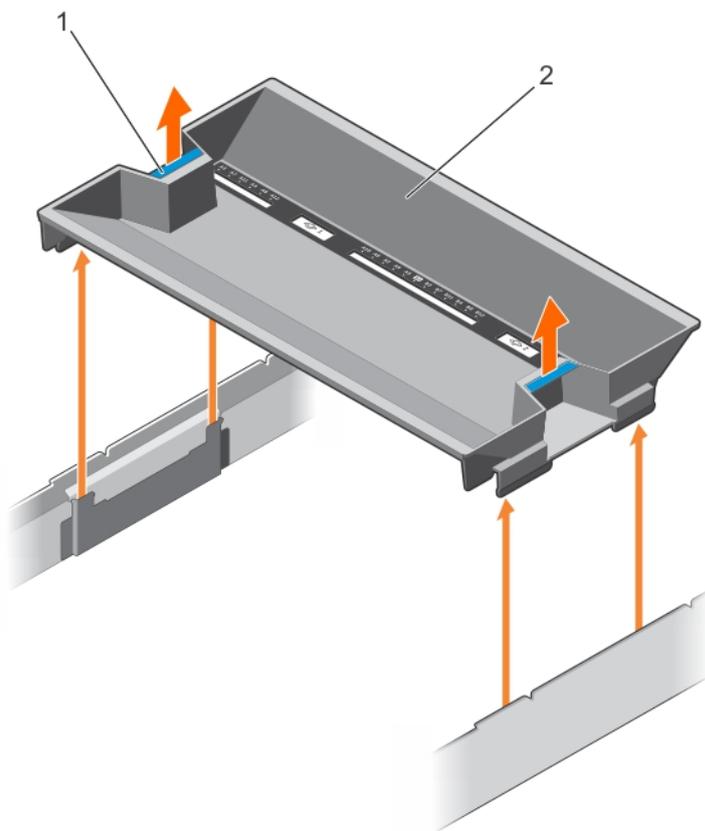


図 23. 冷却エアフローカバーの取り外し

1. シャーシ上のスロット (4)
2. タッチポイント (2)
3. 冷却エアフローカバー
4. 冷却エアフローカバーのガイドスロット (4)

次の手順

1. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
2. 必要な場合は、フルレンジ PCIe カードを取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、 p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、 p. 66

[冷却エアフローカバーの取り付け](#)、 p. 79

[システム内部の作業を終えた後に](#)、 p. 66

冷却エアフローカバーの取り付け

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 該当する場合は、シャーシ側面に沿ってシステム内部にケーブルを配線し、ケーブル保持ブラケットを使ってケーブルを固定します。

手順

1. 冷却エアフローカバーのガイドスロットをシャーシのスロットに合わせます。
2. しっかりと装着されるまで、冷却エアフローカバーをシャーシに押し下げます。

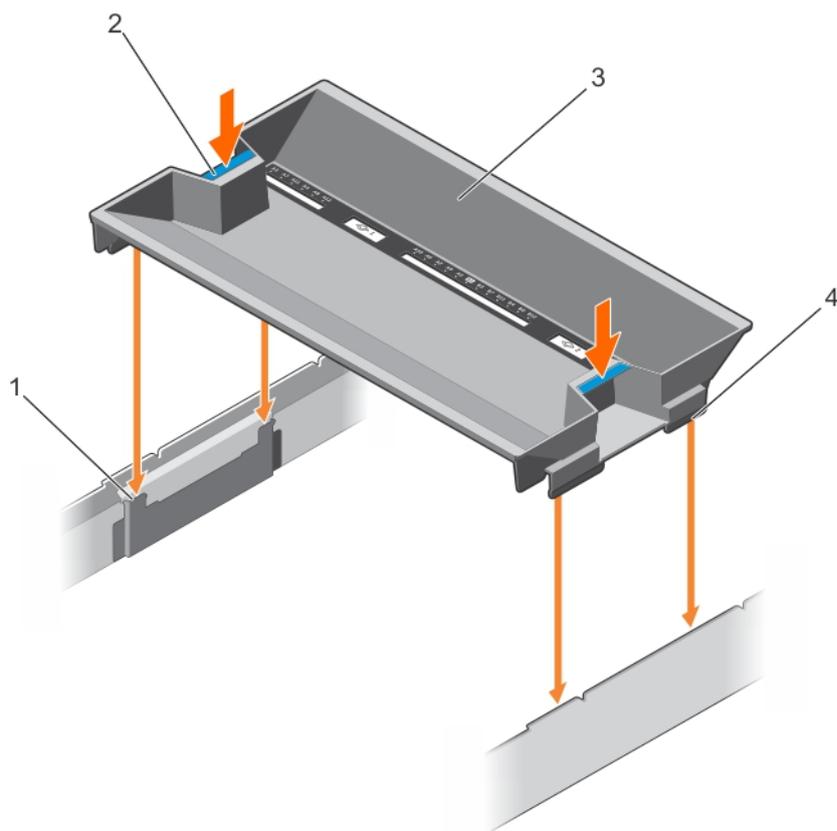


図 24. 冷却エアフローカバーの取り付け

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. シャーシ上のスロット (4) | 2. タッチポイント (2) |
| 3. 冷却エアフローカバー | 4. 冷却エアフローカバーのガイドスロット (4) |

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

冷却ファン

お使いのシステムは、ホットスワップ対応の冷却ファンを6台サポートします。

① メモ: 特定のファンに問題が発生した場合には、システム管理ソフトウェアによってファン番号が示されるため、冷却ファンアセンブリ上のファン番号をメモして、問題のファンを容易に識別し、交換することができます。

冷却ファンの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dellの許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** 冷却ファンはホットスワップ対応です。システムの電源が入っている間にも適切な冷却を維持するため、ファンは一度に一台のみを交換するようにしてください。

△ **注意:** カバーまたは冷却ファンを取り外した状態で5分間以上システムを動作させないでください。

① **メモ:** 各ファンの取り外し手順は同じです。

手順

ファンリリースタブを押し、冷却ファンを持ち上げて冷却ファンアセンブリーから取り外します。

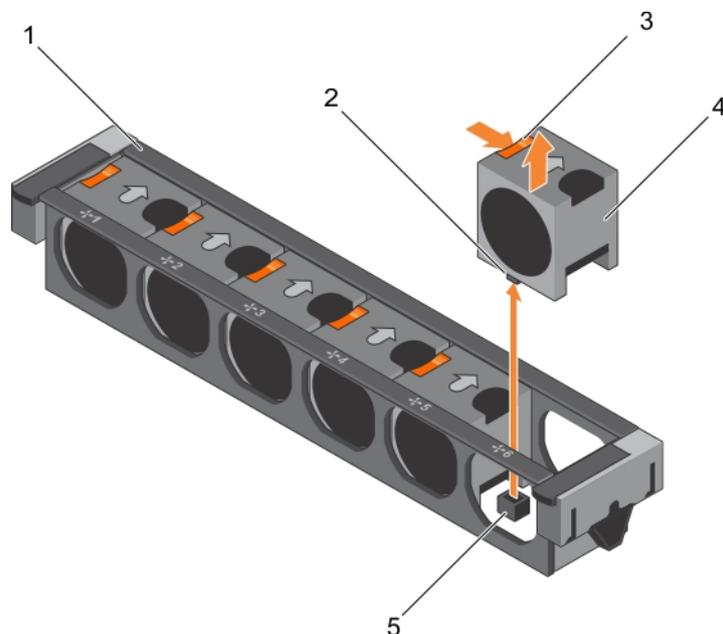


図 25. 冷却ファンの取り外し

1. 冷却ファン アセンブリー
2. 冷却ファンコネクタ (6)
3. ファンリリースタブ (6)
4. 冷却ファン (6)
5. システム ボード上の冷却ファンコネクタ (6)

次の手順

1. 冷却ファンをリプレースします。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却ファンの取り付け、p. 82

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

冷却ファンの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

 **メモ:** 各ファンの取り付け手順は同じです。

手順

1. 冷却ファンの底部にあるコネクタをシステム ボードのコネクタに合わせます。
2. タブが所定の位置にロックされるまで、冷却ファンを固定スロットに挿入します。

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

冷却ファンアセンブリ

冷却ファンアセンブリは、プロセッサ、ハードドライブ、およびメモリなどのサーバーの主要コンポーネントに十分な空気を循環させて冷却された状態を保ちます。サーバーの冷却システムが故障すると、サーバーの過熱や損傷につながる場合があります。

冷却ファンアセンブリーの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. リリースレバーを上げて、冷却ファン アセンブリーをシャーシからロック解除します。
2. 冷却ファン アセンブリーを持ち上げてシャーシから取り出します。

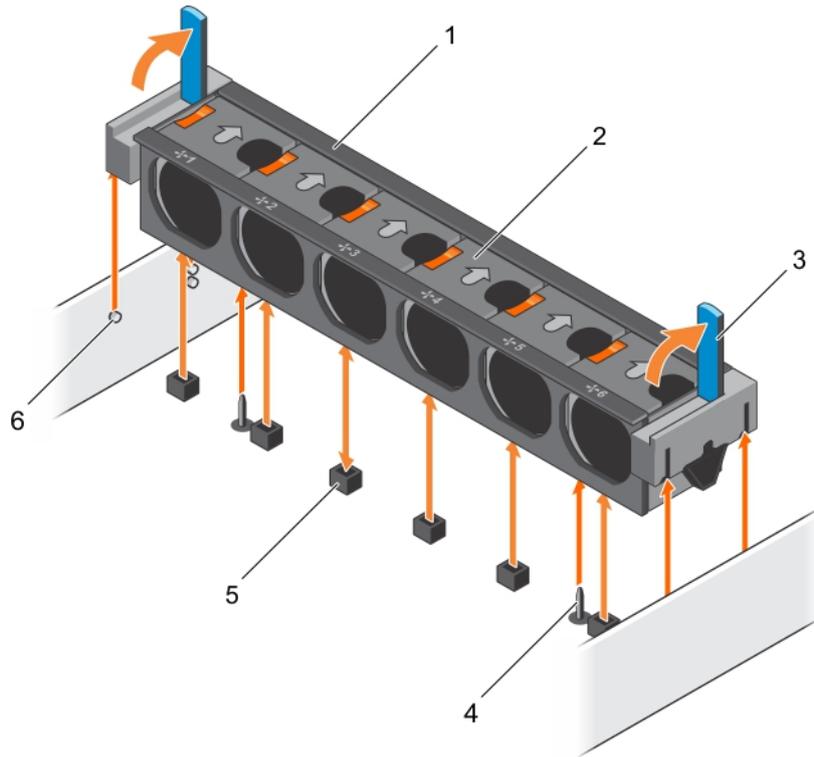


図 26. 冷却ファンアセンブリーの取り外し

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 冷却ファンアセンブリー | 2. 冷却ファン (6) |
| 3. リリースレバー (2) | 4. システムボード上のガイドピン (2) |
| 5. 冷却ファンコネクタ (6) | 6. シャーシのガイドピン (6) |

次の手順

1. 冷却ファンアセンブリーを取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却ファンアセンブリーの取り付け、p. 83

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

冷却ファンアセンブリーの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

注意: 冷却ファン アセンブリーを取り付ける前に、ケーブルが正しく接続され、ケーブル保持ブラケットによって支えられていることを確認します。ケーブルが正しく取り付けられていないと、損傷するおそれがあります。

手順

1. 冷却ファン アセンブリーのスロットをシャーシのガイドピンに合わせます。
2. 冷却ファン アセンブリーをシャーシに挿入します。
3. リリースレバーを下げて、冷却ファン アセンブリーをシャーシにロックし、確実に装着します。

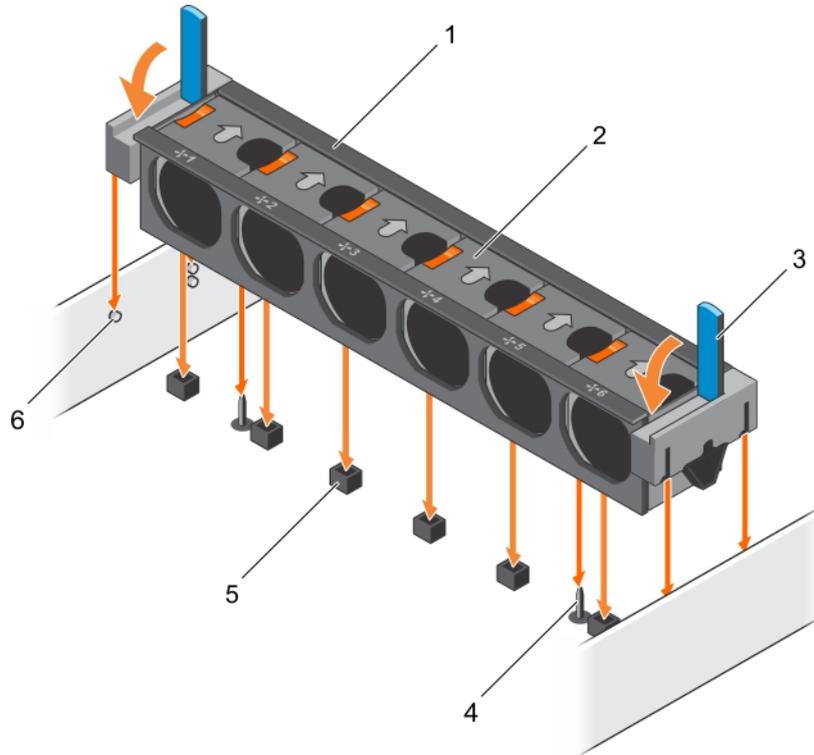


図 27. 冷却ファンアセンブリーの取り付け

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 冷却ファン アセンブリー | 2. 冷却ファン (6) |
| 3. リリースレバー (2) | 4. システム ボード上のガイドピン (2) |
| 5. 冷却ファンコネクタ (6) | 6. シャーシのガイドピン (6) |

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

システムメモリ

このシステムは、DDR4 レジスタード DIMM (RDIMM)、および負荷軽減 DIMM (LRDIMM) をサポートしています。システムメモリは、プロセッサによって実行される命令を保持します。

メモ: MT/s は DIMM の速度単位で、MegaTransfers/ 秒の略語です。

メモリアスの動作周波数は 1866 MT/s、2133 MT/s、2400 MT/s で、以下の要因に応じて異なります。

- DIMM のタイプ (RDIMM または LRDIMM)
- 各チャンネルに装着されている DIMM の数
- 選択されているシステムプロファイル (たとえば、Performance Optimized (パフォーマンス重視の構成)、Custom (カスタム)、または Dense Configuration Optimized (高密度設定最適化))
- プロセッサでサポートされている DIMM の最大周波数

お使いのシステムにはメモリソケットが 24 個あり、12 個ずつの 2 セット (各プロセッサに 1 セット) に分かれています。ソケット 12 個の各セットは、4 つのチャンネルで構成されています。どのチャンネルも、最初のソケットのリリースタブは白、2 番目のソケットのタブは黒、3 番目のソケットのタブは緑に色分けされています。

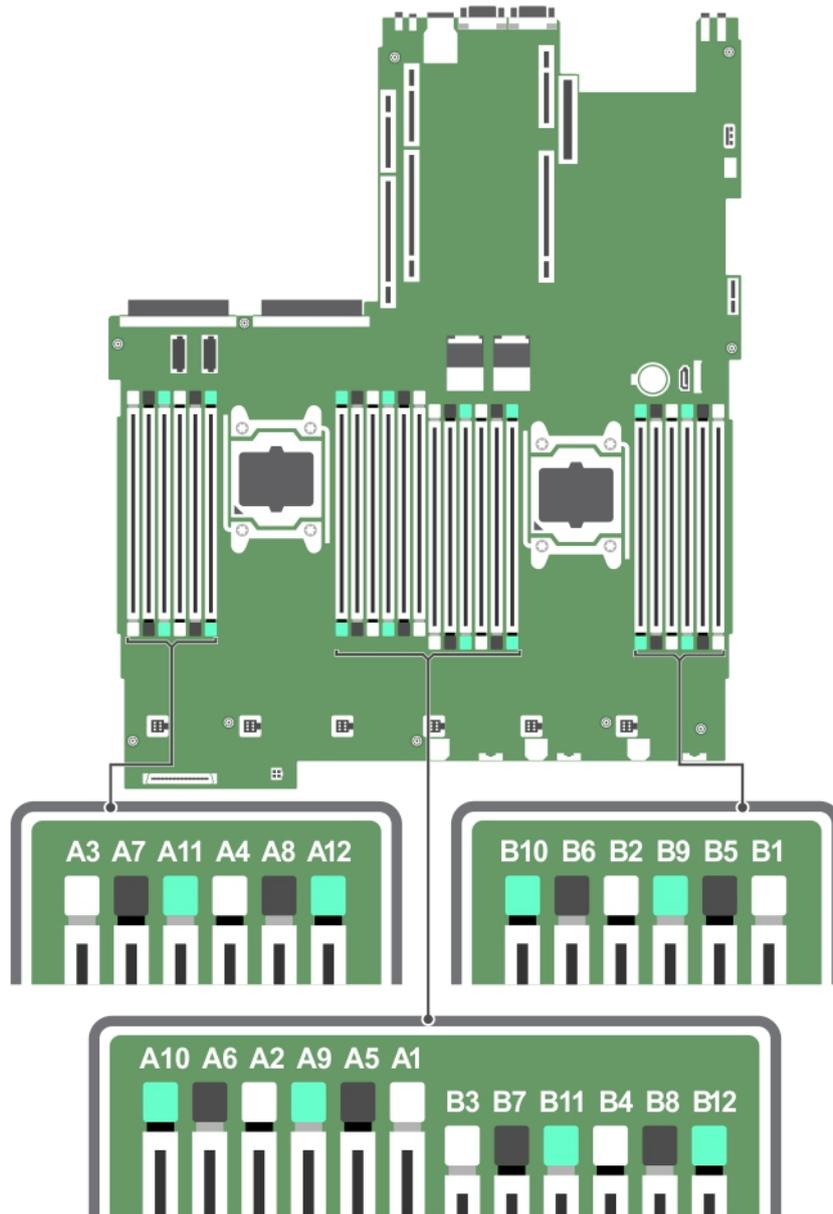


図 28. メモリソケットの位置

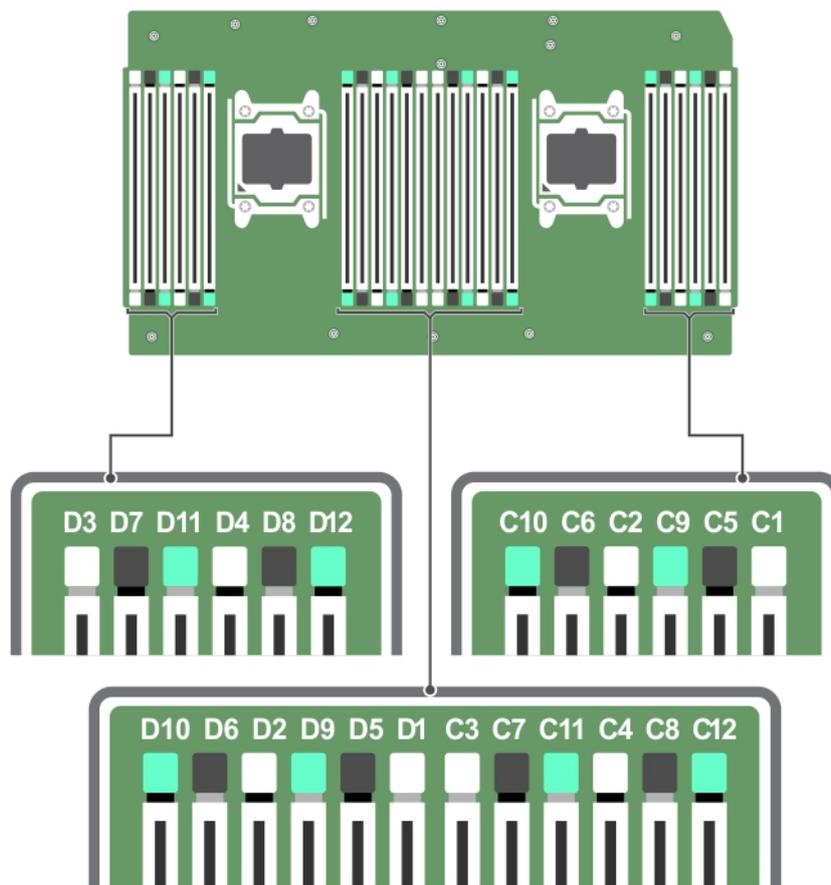


図 29. プロセッサ拡張モジュール上のメモリソケットの位置

メモリチャンネルの構成は次のとおりです。

表 28. メモリチャンネル

プロセッサ	チャンネル 0	チャンネル 1	チャンネル 2	チャンネル 3
プロセッサ 1	スロット A1、A5、および A9	スロット A2、A6、および A10	スロット A3、A7、および A11	スロット A4、A8、および A12
プロセッサ 2	スロット B1、B5、および B9	スロット B2、B6、および B10	スロット B3、B7、および B11	スロット B4、B8、および B12
プロセッサ 3	スロット C1、C5、および C9	スロット C2、C6、および C10	スロット C3、C7、および C11	スロット C4、C8、および C12
プロセッサ 4	スロット D1、D5、および D9	スロット D2、D6、および D10	スロット D3、D7、および D11	スロット D4、D8、および D12

次の表は、サポートされている構成のメモリ装着と動作周波数を示しています。

表 29. メモリ装着

DIMM のタイプ	装着 DIMM/ チャンネル	電圧	動作周波数 (単位: MT/s)	最大 DIMM ランク / チャンネル
RDIMM	1	1.2 V	2400、2133、1866	デュアルランクまたはシングルランク
	2		2400、2133、1866	デュアルランクまたはシングルランク

表 29. メモリ装着 (続き)

DIMM のタイプ	装着 DIMM/ チャンネル	電圧	動作周波数 (単位 : MT/s)	最大 DIMM ランク / チャンネル
	3		1866	デュアルランクまたはシングルランク
LRDIMM	1		2400、2133、1866	クアドランク
	2	1.2 V	2400、2133、1866	クアドランク
	3		2133、1866	クアドランク

メモリー モジュール取り付けガイドライン

メモ: メモリ構成がガイドラインに沿っていない場合、システムが起動しなかったり、メモリ構成中に反応しなくなったり、少ないメモリで動作したりすることがあります。

このシステムは柔軟なメモリー構成をサポートしているため、あらゆる有効なチップセットアーキテクチャ構成でシステムを構成し、実行することができます。次に、メモリーモジュールの設定に関する推奨ガイドラインを示します。

- RDIMM と LRDIMM を併用しないでください。
- x4 および x8 DRAM ベースのメモリーモジュールは併用できます。詳細については、「モードごとのガイドライン」の項を参照してください。
- デュアルまたはシングルランク RDIMM をチャンネルごとに 3 枚まで装着できます。
- ランクカウントに関係なく、LRDIMM は 3 枚まで装着できます。
- 速度の異なるメモリモジュールを取り付けた場合は、取り付けられているメモリモジュールのうちで最も遅いものの速度で動作します。または、システムの DIMM 構成によってはさらに遅い動作になります。
- プロセッサが取り付けられている場合に限り、メモリーモジュールを装着します。シングルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A12 が使用できます。デュアルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A12 と B1 ~ B12 が使用できます。
- 最初に、白色のリリースタブが付いているすべてのソケットに装着します。その後は、黒のリリースタブ、緑色のリリースタブの順で装着します。
- 容量の異なるメモリモジュールを混在させる場合は、最初に容量が最も多いメモリモジュールをソケットに装着します。たとえば、4 GB と 8 GB のメモリモジュールを併用する場合は、8 GB のメモリモジュールを白いリリースタブが付いたソケットに装着してから、黒いリリースタブが付いたソケットに 4 GB のメモリモジュールを装着します。
- デュアルプロセッサ構成では、各プロセッサのメモリ構成を同一にしてください。たとえば、プロセッサ 1 のソケット A1 に DIMM を装着した場合、プロセッサ 2 はソケット B1 に (...以下同様) DIMM を装着する必要があります。
- 他のメモリ装着ルールが守られていれば、異なる容量のメモリモジュールを併用できます (たとえば、4 GB と 8 GB のメモリモジュールを併用できます)。
- システム内で 2 つ以上のメモリーモジュールを併用することはできません。
- パフォーマンスを最大にするには、各プロセッサにつき 4 枚のメモリモジュールを一度に装着してください (各チャンネルに DIMM 1 枚)。

関連参考文献

モードごとのガイドライン、p. 87

モードごとのガイドライン

各プロセッサには 4 つのメモリチャンネルが割り当てられています。使用可能な構成は、選択するメモリモードによって異なります。

アドバンス エラー訂正コード

アドバンス エラー訂正コード (ECC) モードでは、SDDC が x4 DRAM ベースの DIMM から x4 と x8 の両方の DRAM に拡張されます。これにより、通常動作中のシングル DRAM チップ障害から保護されます。

メモリモジュールの取り付けガイドラインは次のとおりです。

- メモリモジュールは、サイズ、速度、テクノロジーが同一のものを取り付けてください。
- 白のリリースレバーが付いているメモリモジュールソケットには同一のメモリモジュールを取り付ける必要があります。黒色のリリースレバーが付いているソケットについても、同様のルールが当てはまります。このルールに従うことで、同一の DIMM が確実にペアで取り付けられます。たとえば、A1 と A2、A3 と A4、A5 と A6 という具合です。

メモリ最適化独立チャネルモード

このモードでは、使用するデバイス幅がx4のメモリモジュールについてのみ Single Device Data Correction (SDDC) がサポートされます。スロット装着に関する特定の要件はありません。

メモリスペアリング

①メモ: メモリスペアリングを使用するには、セットアップユーティリティでこの機能を有効にする必要があります。

このモードでは、各チャネルにつき1ランクがスペアとして予約されます。いずれかのランクで修正可能なエラーが絶えず検知される場合、そのランクからのデータがスペアランクにコピーされ、障害の発生したランクは無効になります。

メモリスペアリングを有効にすると、オペレーティングシステムに使用できるシステムメモリはチャネルごとに1ランク少なくなります。たとえば、4GBのシングルランクメモリモジュールを16個使用するデュアルプロセッサ構成では、利用可能なシステムメモリは16(メモリモジュール)×4GB=64GBとはならず、3/4(ランク/チャネル)×16(メモリモジュール)×4GB=48GBとなります。

①メモ: メモリスペアリングは、マルチビットの修正不能なエラーには対応できません。

①メモ: アドバンス ECC/ロックステップモードとオプティマイザーモードは、メモリスペアリングをサポートしています。

メモリミラーリング

メモリミラーリングは他のどのモードよりもメモリモジュールの信頼性に優れており、修正不能なマルチビットのエラーに対応する機能が向上しています。ミラーリング構成では、使用可能なシステムメモリの総量は取り付けられた総物理メモリの2分の1です。取り付けられたメモリの半分は、アクティブなDIMMのミラーリングに使用されます。修正不能なエラーが発生すると、システムはミラーリングされたコピーに切り替えられます。これにより、SDDCとマルチビットの保護が確保されます。

メモリモジュールの取り付けガイドラインは次のとおりです。

- メモリモジュールは、サイズ、速度、テクノロジーが同一のものを取り付けてください。
- 白のリリースレバーが付いているメモリモジュールソケットには同一のメモリモジュールを取り付ける必要があります。黒色と緑色のリリースタブが付いているソケットについても、同様のルールが当てはまります。このルールに従うことで、同一のメモリモジュールが確実に一致するペアで取り付けられます。たとえば、A1とA2、A3とA4、A5とA6という具合です。

表 30. プロセッサ構成

プロセッサ	構成	メモリ装着ルール	メモリ装着情報
シングル CPU	メモリ装着順序	{1,2}、{3,4}	「メモリミラーリング」のメモを参照してください

メモリー構成の例

次の表は、適切なメモリガイドラインに則したプロセッサ2個、およびプロセッサ4個のためのメモリ構成例を示しています。

①メモ: 次の表にある1R、2R、4Rおよび8Rは、シングル、デュアル、クアドおよびオクタランクDIMMを示します。

表 31. メモリ構成 - プロセッサ 2基

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	DIMM のランク、構成、周波数	装着する DIMM スロット
16	8	2	1R x8、1866 MT/s	A1、B1
			1R x8、2133 MT/s	
			1R x8、2,400 MT/s	
32	8	4	1R x8、1866 MT/s	A1、A2、B1、B2
			1R x8、2133 MT/s	
			1R x8、2,400 MT/s	

表 31. メモリ構成 – プロセッサ 2 基 (続き)

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	DIMM のランク、構成、周波数	装着する DIMM スロット
64	8	8	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
128	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
32	8	8	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
64	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
64	8	8	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
96	8	24	1R x8、1600 MT/s 1R x8、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
96	8	12	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6
128	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
128	16	8	2R x8、1866 MT/s 2R x8、2133 MT/s 2R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
160	8	20	1R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A11、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B11
160	16 および 8	12	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6

① メモ: 16 GB DIMM はスロット A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4 に、8 GB DIMM はスロット A5、A6、B5、B6 に取り付ける必要があります。

表 31. メモリ構成 – プロセッサ 2 基 (続き)

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	DIMM のランク、構成、周波数	装着する DIMM スロット
192	8	24	1R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
192	16	12	2R x8、1866 MT/s 2R x8、2133 MT/s 2R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6
256	16	16	2R x8、1866 MT/s 2R x8、2133 MT/s 2R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
	128	2	8R x4、2400 MT/s	A1、B1
384	16	24	2R x8、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
512	32	16	2R x4、1866 MT/s 2R x4、2133 MT/s 2R x4、2,400 MT/ 秒	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
	64	8	4R x4、2,400 MT/s 4R x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
	128	4	4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、B1、B2
768	32	24	2R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
	64	12	4R x4、2,400 MT/s 4R x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6
1024	64	16	4R x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
	128	8	4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
1536	64	24	4R x4、1866 MT/s 4R x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
	128	12	4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6
2048	128	16	4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8

表 31. メモリ構成 – プロセッサ 2 基 (続き)

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	DIMM のランク、構成、周波数	装着する DIMM スロット
2560	128	20	4R x4、2133 MT/s 4R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、A9、A10、B1、B2、B3、B4、 B5、B6、B7、B8、B9、B10
3072	128	24	4R x4、2133 MT/s 4R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、A9、A10、A11、A12、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、 B9、B10、B11、B12

表 32. メモリ構成 – プロセッサ 4 個

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
32	8	4	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、B1、C1、D1
64	8	8	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、B1、B2、C1、C2、D1、 D2
32	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、 B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、 D3、D4
64	8	32	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、 B7、B8、C1、C2、C3、C4、C5、 C6、C7、C8、D1、D2、D3、D4、 D5、D6、D7、D8
96	8	48	1R x8、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、A9、A10、A11、A12、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、 B9、B10、B11、B12、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、 C10、C11、C12、D1、D2、D3、 D4、D5、D6、D7、D8、D9、D10、 D11、D12
64	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、 B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、 D3、D4
96	8	24	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、D1、D2、D3、 D4、D5、D6
128	8	32	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、 B7、B8、C1、C2、C3、C4、C5、 C6、C7、C8、D1、D2、D3、D4、 D5、D6、D7、D8

表 32. メモリ構成 – プロセッサ 4 個 (続き)

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
128	8	16	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、 B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、 D3、D4
192	8	48	1R x8、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、A9、A10、A11、A12、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、 B9、B10、B11、B12、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、 C10、C11、C12、D1、D2、D3、 D4、D5、D6、D7、D8、D9、D10、 D11、D12
192	8	24	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、D1、D2、D3、 D4、D5、D6
256	16	16	2R x8、1866 MT/s 2R x8、2133 MT/s 2R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、 B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、 D3、D4
384	16	24	1R x8、1866 MT/s 1R x8、2133 MT/s 1R x8、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、D1、D2、D3、 D4、D5、D6
512	32	16	2R x4、1866 MT/s 2R x4、2133 MT/s 2R x4、2,400 MT/ 秒	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、 B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、 D3、D4
768	32	24	2R x4、1866 MT/s 2R x4、2133 MT/s 2R x4、2,400 MT/ 秒	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、D1、D2、D3、 D4、D5、D6
1024	32	32	2R x4、1866 MT/s 2R x4、2133 MT/s 2R x4、2,400 MT/ 秒	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、 B7、B8、C1、C2、C3、C4、C5、 C6、C7、C8、D1、D2、D3、D4、 D5、D6、D7、D8
1536	32	48	4R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、A9、A10、A11、A12、B1、 B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、 B9、B10、B11、B12、C1、C2、 C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、 C10、C11、C12、D1、D2、D3、 D4、D5、D6、D7、D8、D9、D10、 D11、D12
64 G LRDIMM				
2048	64	32	4R x4、1866 MT/s 4R x4、2133 MT/s 4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、 A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、 B7、B8、C1、C2、C3、C4、C5、

表 32. メモリ構成 – プロセッサ 4 個 (続き)

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
3072	64	48	4R x4、2133 MT/s 4R x4、1866 MT/s	C6、C7、C8、D1、D2、D3、D4、D5、D6、D7、D8 A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12、C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、C10、C11、C12、D1、D2、D3、D4、D5、D6、D7、D8、D9、D10、D11、D12
128 G LRDIMM				
4096	128	32	4R x4、1866 MT/s 4R x4、2133 MT/s 4R x4、2,400 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7、C8、D1、D2、D3、D4、D5、D6、D7、D8
6144	128	48	4R x4、2133 MT/s 4R x4、1866 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12、C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、C10、C11、C12、D1、D2、D3、D4、D5、D6、D7、D8、D9、D10、D11、D12

メモリモジュールの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 冷却シュラウドを取り外します。

ⓘ メモ: メモリ モジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリ モジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持ちます。メモリモジュール本体の部品には指を触れないでください。

△ 注意: システムの冷却状態を適正にしておくため、メモリモジュールを取り付けないメモリスロットには、メモリモジュールダミーを取り付ける必要があります。メモリモジュールダミーを取り外すのは、そのソケットにメモリモジュールを取り付けようとしている場合にのみしてください。

手順

1. 該当するメモリモジュールソケットの位置を確認します。

△ 注意: 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部や金属の接触部に触れないように取り扱ってください。

2. メモリモジュールをソケットから解除するには、メモリモジュールソケットの両端にあるイジェクタを同時に押します。
3. メモリモジュールを持ち上げてシステムから取り外します。

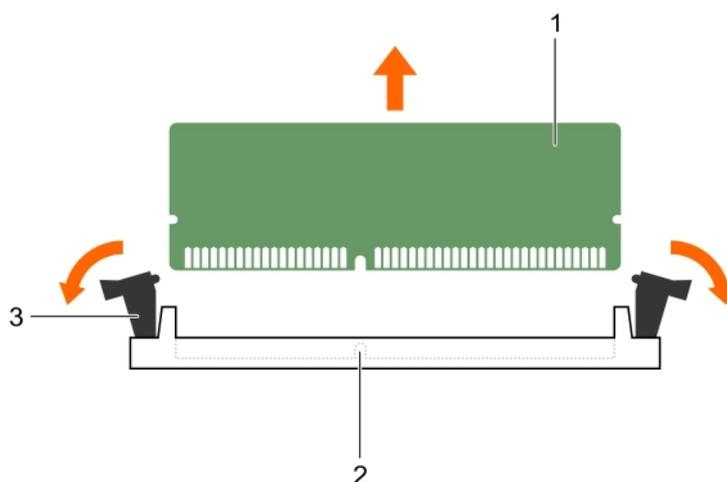


図 30. メモリモジュールの取り外し

- a. メモリモジュール
- b. メモリモジュールソケット
- c. メモリモジュールソケットのイジェクタ (2)

次の手順

1. メモリモジュールを取り付けます。
 ⓘ **メモ:** メモリモジュールを取り外したままにする場合は、メモリモジュールのダミーカードを取り付けます。
2. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78

メモリモジュールの取り付け、p. 94

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

メモリモジュールの取り付け

前提条件

- ⓘ **メモ:** メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持ちます。メモリモジュール本体の部品には指を触れないでください。
- ⚠ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. 該当するメモリモジュールソケットの位置を確認します。

 **注意:** 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部や金属の接触部に触れないように取り扱ってください。

2. メモリモジュールソケットのイジェクタを外側に向かって開き、メモリモジュールをソケットに挿入できる状態にします。
3. メモリモジュールのエッジコネクタをメモリモジュールソケットの位置合わせキーに合わせ、メモリモジュールをソケット内に挿入します。

 **注意:** メモリモジュールの中央にかけないようにしてください。メモリモジュールの両端に均等に力を加えてください。

 **メモ:** メモリモジュールソケットには位置合わせキーがあり、メモリモジュールをソケットに一方方向でしか取り付けられないようになっています。

4. ソケットレバーが所定の位置にしっかりと収まるまで、メモリモジュールを親指で押し込みます。
メモリモジュールがソケットに適切に装着されると、メモリモジュールソケットのレバーがメモリモジュールが装着されている別のソケットのレバーと同じ位置に揃います。

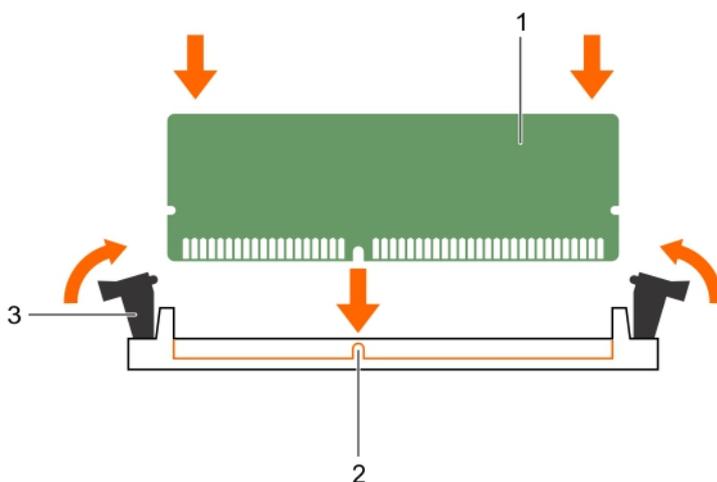


図 31. メモリモジュールの取り付け

- a. メモリモジュール
- b. 位置合わせキー
- c. メモリモジュールソケットのイジェクタ (2)

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
2. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** (システムメモリ) 設定を確認します。
システムの値は、増設されたメモリを反映して変更済みになっています。
3. 値が正しくない場合、1つ、または複数のメモリモジュールが適切に取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールがメモリモジュールソケットに確実に装着されているようにします。
4. システム診断プログラムでシステムメモリのテストを実行します。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、p. 66

プロセッサとヒートシンク

次の作業は下記の手順に従って行ってください。

- ヒートシンクの取り外しと取り付け
- 追加のプロセッサの取り付け
- プロセッサの交換

メモ: 正常な冷却状態を維持するために、空のプロセッサソケットすべてにプロセッサダミーを取り付ける必要があります。

ヒートシンクの取り外し

前提条件

注意: プロセッサを取り外す場合を除き、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

警告: ヒートシンクは高温で触れません。システムの電源を切った後、時間を取って、ヒートシンクを冷却してください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. フルレンジ PCIe カードが取り付けられている場合は、取り外します。
4. 冷却エアフローカバーを取り外します。
5. #2 プラスドライバを準備しておきます。

手順

1. ヒートシンクをシステム基板に固定しているネジのうち1つを緩めます。
ヒートシンクとプロセッサの接着が緩むまで、30 秒程待ちます。
2. 最初に取り外したネジの筋向いのネジを取り外します。
3. 手順1と2を繰り返して、残りの2つのネジを取り外します。
4. ヒートシンクを取り外します。

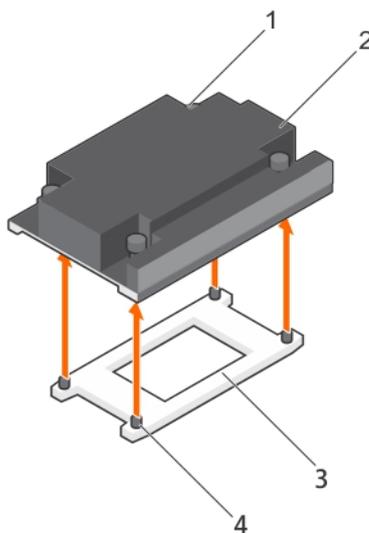


図 32. ヒートシンクの取り外し

1. 固定ネジ (4)

2. ヒートシンク

次の手順

1. ヒートシンクおよびプロセッサを取り付けます。
2. プロセッサとヒートシンクを交換します。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

プロセッサの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

ⓘ メモ: これは、フィールド交換可能ユニット (FRU) です。取り外しおよび取り付け手順は、デル認証のサービス技術者のみが行う必要があります。

ⓘ メモ: システムをアップグレードする場合は、**Dell.com/support** から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロード ファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

ⓘ メモ: システム BIOS のアップデートは Dell Lifecycle Controller を使用して行えます。

ⓘ メモ: システムの正常な冷却状態を維持するために、空のプロセッサ ソケットすべてにプロセッサ ダミーを取り付ける必要があります。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. #2 プラスドライバを準備しておきます。
4. 冷却シュラウドを取り外します。
5. ヒートシンクを取り外します。

⚠ 警告: プロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。プロセッサが冷えるのを待ってから取り外してください。

△ 注意: プロセッサは強い圧力でソケットに固定されています。リリースレバーはしっかりつかんでいないと突然跳ね上がるおそれがありますので、注意してください。

手順

1. アンロックアイコン  の近くにあるオープンファーストソケットレバーを押し下げてタブの下から引き出し、レバーを解除します。
2. ロックアイコン  の近くにあるクローズファーストソケットリリースレバーを押し下げてタブの下から引き出し、レバーを解除します。レバーを 90 度上に持ち上げます。
3. オープンファーストソケットリリースレバーを下ろし、プロセッサシールドを持ち上げます。

4. プロセッサシールドのタブを持ち、オープンファーストソケットリリースレバーが持ち上がるまで、プロセッサシールドを持ち上げます。

注意: ソケットピンは壊れやすく、損傷して修復できなくなることがあります。プロセッサをソケットから取り外す際には、ソケットのピンを曲げないように気をつけてください。

5. プロセッサを持ち上げてソケットから外し、オープンファーストソケットリリースレバーを上げたままにしておきます。

メモ: プロセッサを取り外したままにする場合は、ソケットピンを保護してソケットにほこりが入らないように空のソケットにソケット保護キャップを取り付ける必要があります。

メモ: プロセッサを取り外したら、再利用、返品、または一時的な保管のために静電気防止パッケージに入れておきます。プロセッサの底部に触れないでください。プロセッサは側面の端以外に触れないでください。

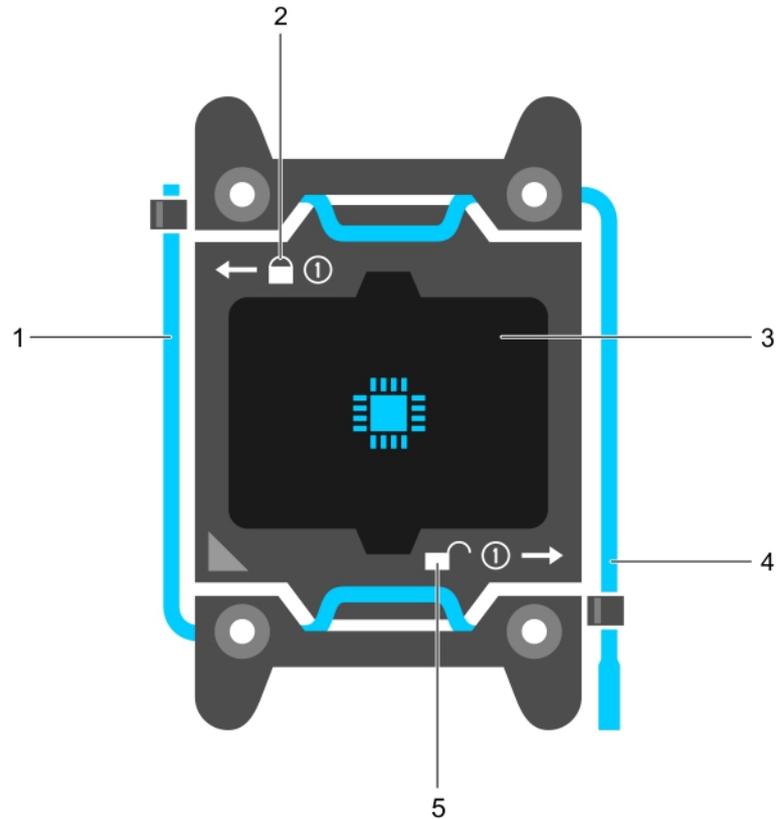


図 33. プロセッサシールド

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. クローズファーストソケットリリースレバー | 2. ロックアイコン |
| 3. プロセッサ | 4. オープンファーストソケットリリースレバー |
| 5. アンロックアイコン | |

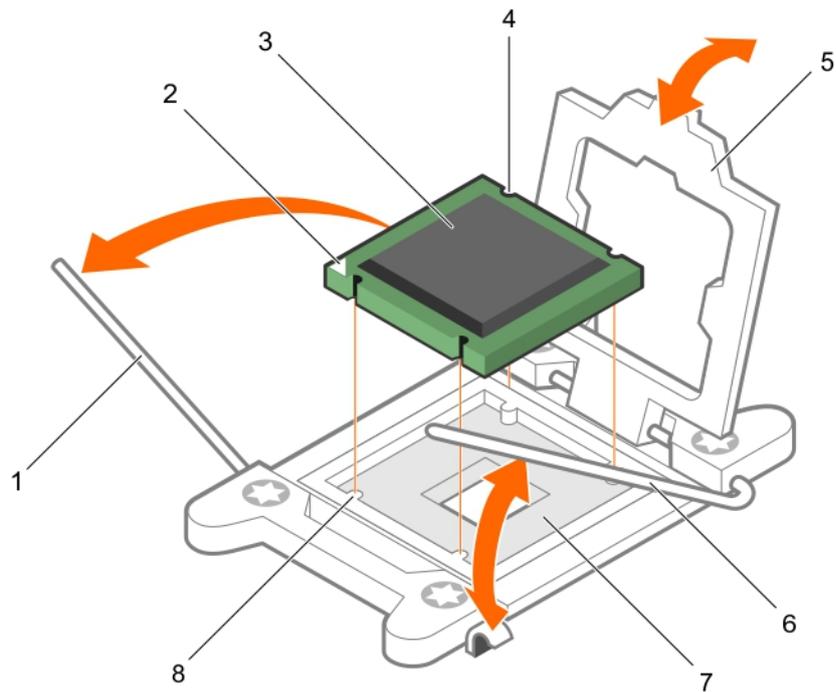


図 34. プロセッサの取り外し

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. クローズファーストソケットリリースレバー | 2. プロセッサのピン1インジケータ |
| 3. プロセッサ | 4. スロット (4) |
| 5. プロセッサシールド | 6. オープンファーストソケットリリースレバー |
| 7. ソケット | 8. ソケットキー (4) |

次の手順

1. プロセッサを取り付けます。
2. ヒートシンクを取り付けます。
3. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
4. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、p. 66
- 冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78
- ヒートシンクの取り外し、p. 96
- ヒートシンクの取り付け、p. 102
- 冷却エアフローカバーの取り付け、p. 79
- システム内部の作業を終えた後に、p. 66

プロセッサの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. #2 プラスドライバを準備しておきます。
4. システムをアップグレードする場合は、最新バージョンのシステム BIOS を **Dell.com/support** からダウンロードします。次に、圧縮されたダウンロードファイルで説明されている手順に従い、お使いのシステムにアップデートをインストールします。
i メモ: Dell Lifecycle Controller を使用してシステム BIOS をアップデートすることも可能です。
5. 冷却エアフローカバーを取り外します。
i メモ: 必要に応じて、冷却エアフローカバー上の拡張カードラッチを閉じ、フルレンジカードを外します。
6. ケーブルが接続されている場合は、拡張カードから外します。
7. 拡張カードライザーが取り付けられている場合は、取り外します。
i メモ: ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは非常に高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。

△ 注意: プロセッサを取り外す場合を除き、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

i メモ: プロセッサを 1 基だけ取り付けの場合は、CPU1 のソケットに取り付ける必要があります。

手順

1. 新しいプロセッサをパッケージから取り出します。
i メモ: プロセッサが以前にシステムで使用されていた場合は、糸くずの出ない布を使って、残っているサーマルグリースをプロセッサから拭き取ります。
2. プロセッサソケットの位置を確認します。
3. ソケット保護キャップが取り付けられている場合は、取り外します。
4. オープンファーストソケットリリースレバー (アンロックアイコン  の近くにあり) を押し下げて、タブの下から外して解除します。
5. 同様に、クローズファーストソケットリリースレバー (ロックアイコン  の近くにあり) のレバーを押し下げて、タブの下から外して解除します。レバーを 90 度上に持ち上げます。
6. プロセッサシールドのロック記号の近くにあるタブを持ち、シールドを持ち上げて、プロセッサが取り出せる状態にします。
△ 注意: プロセッサの取り付け位置を間違えると、システム基板またはプロセッサが完全に損傷してしまうおそれがあります。ソケットのピンを曲げないように注意してください。
△ 注意: プロセッサの取り外しまたは再取り付け時には、手に着いた汚れを拭き取ります。サーマルグリースやオイルのような汚れがプロセッサピンに付着すると、プロセッサを破損するおそれがあります。
7. プロセッサをソケットキーに合わせます。
△ 注意: プロセッサを無理に押し込まないでください。プロセッサの位置が合っていれば、簡単にソケットに入ります。
8. プロセッサのピン 1 インジケータの位置をシステム基板の三角形に位置に合わせます。
9. プロセッサのソケットがソケットキーに合うように、プロセッサをソケットに置きます。
10. プロセッサシールドを閉じます。
11. クローズファーストソケットリリースレバー (ロックアイコン  の近くにあり) を下げて、タブの下に押し込んで固定します。

12. 同様に、オープンファーストソケットリリースレバー（アンロックアイコン  の近くにありますが）を下げて、タブの下に押し込んで固定します。

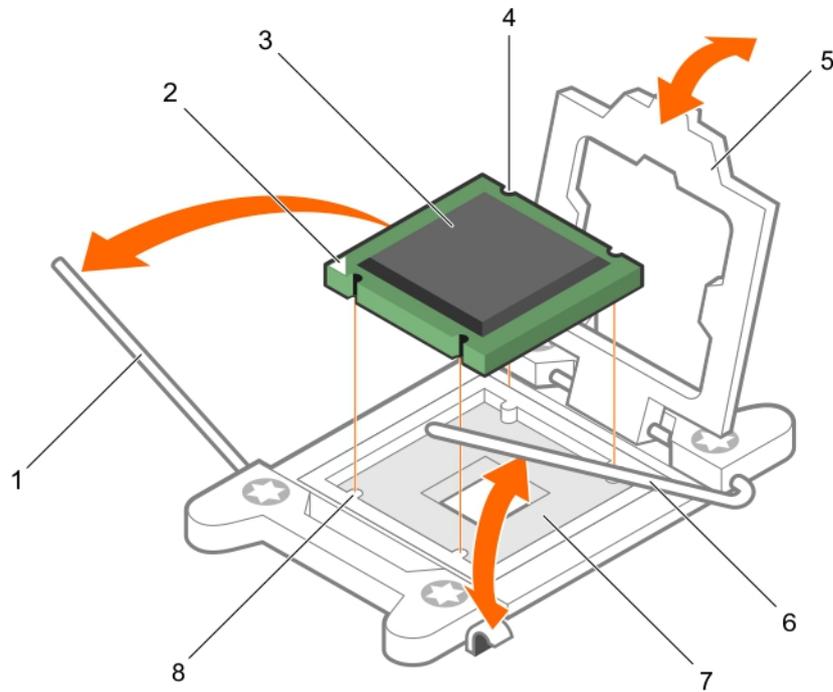


図 35. プロセッサの取り付け

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. ソケットリリースレバー1 | 2. プロセッサのピン1の角 |
| 3. プロセッサ | 4. スロット(4) |
| 5. プロセッサシールド | 6. ソケットリリースレバー2 |
| 7. プロセッサソケット | 8. タブ(4) |

次の手順

メモ: プロセッサを取り付けた後は、必ずヒートシンクを取り付けてください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

1. ヒートシンクを取り付けます。
2. PCIe 拡張カードライザーが取り外されている場合は、再度取り付けます。
3. ケーブルが外されている場合は、拡張カードに再度接続します。
4. 「システム内部の作業を終えた後に」に記載された手順に従います。
5. 起動時に F2 を押してセットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム構成と一致していることを確認します。
6. システム診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78

拡張カードライザーの取り外し、p. 112

ヒートシンクの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. プロセッサを取り付けます。
4. #2 プラスドライバを準備しておきます。

手順

1. 既存のヒートシンクを使用している場合は、糸くずの出ない清潔な布で、ヒートシンクからサーマルグリースを拭き取ります。
2. プロセッサキットに含まれているサーマルグリースアプリータ（注射器）で、グリースをプロセッサ上部に薄く、らせん状に塗布します。

△ 注意: 塗布するサーマルグリースの量が多すぎると、過剰グリースがプロセッサソケットに付着し、汚れるおそれがあります。

i メモ: サーマルグリースアプリータ（注射器）は、1回のみ使用することを目的としています。使用後は、破棄してください。

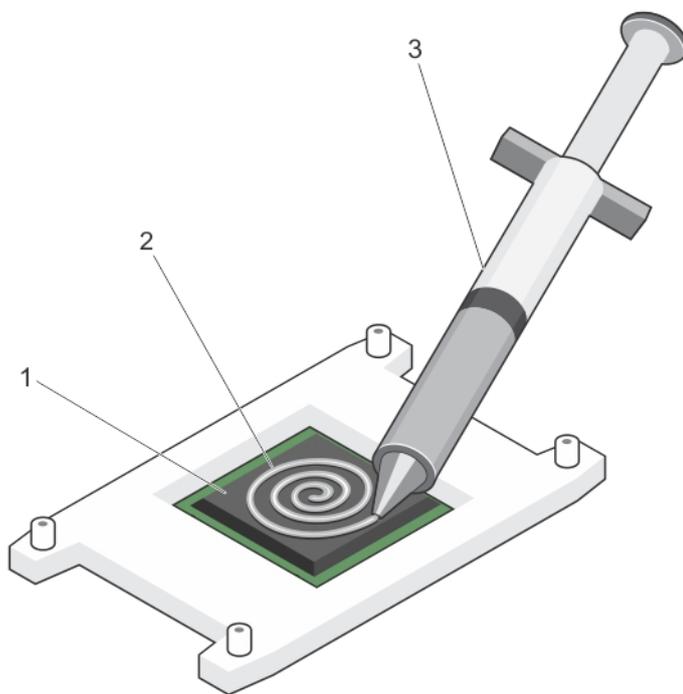


図 36. プロセッサの上部へのサーマルグリースの塗布

- a. プロセッサ
 - b. サーマルグリース
 - c. サーマルグリースアプリータ（注射器）
3. ヒートシンクをプロセッサの上に置きます。

4. 4本のうち1本のネジを締めて、ヒートシンクをシステム基板に固定します。
5. 残りの2本のネジについても同じ手順を繰り返します。

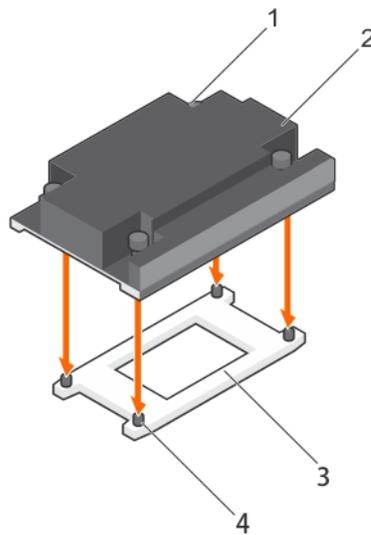


図 37. ヒートシンクの取り付け

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 固定ネジ (4) | 2. ヒートシンク |
| 3. プロセッサシールド | 4. 固定ネジスロット (4) |

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
2. 起動時に F2 を押してセットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム構成と一致していることを確認します。
3. システム診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

プロセッサの取り付け、p. 100

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

電源装置ユニット

お使いのシステムは2台のホットスワップ対応750 Wまたは1600 W AC電源装置ユニット (PSU) をサポートします。PSUを2台使用する場合は、2台の最大出力が同じである必要があります。

注意: AC PSU については、拡張電力パフォーマンス (EPP) ラベルが背面に貼付されている PSU のみを使用してください。旧世代のシステムからの PSU を混在させると、PSU の不整合が発生し、電源が入らなくなる可能性があります。

- メモ:** 1600 W の PSU のシステム 100 V から 120 V で動作している場合、PSU ごとの電力定格が 800 W に低下します。
- メモ:** 2台の同一 PSU を取り付けると、システム BIOS で電源装置の冗長性 (冗長性を伴う 1+1、または冗長性を伴わない 2+0) が設定されます。冗長モードでは、ホットスペアが無効になっているときに両方の PSU からシステムに半分ずつ電力が供給されます。ホットスペアが有効な場合、システムの効率性を最大化するために、システムの使用率が低いときにはいずれかの PSU がスタンバイになります。

ホットスペア機能

お使いのシステムではホットスペア機能がサポートされており、電源装置ユニット (PSU) の冗長性に関連する電力のオーバーヘッドが大幅に軽減されます。

ホットスペア機能を有効に設定すると、冗長 PSU のうち 1 台がスリープ状態に切り替わります。アクティブな PSU が負荷の 100% を支えるため、効率良く動作します。スリープ状態の PSU は、アクティブな PSU の出力電圧を監視します。アクティブな PSU の出力電圧が低下すると、スリープ状態の PSU がアクティブな出力状態に戻ります。

1 台の PSU をスリープ状態にするよりも、両方の PSU をアクティブする方が効率的な場合は、アクティブな PSU でスリープ状態の PSU をアクティブにできます。

デフォルトの PSU 設定は次の通りです。

- アクティブな PSU の負荷が 50% を超えている場合、冗長 PSU はアクティブ状態に切り替えられます。
- アクティブな PSU の負荷が 20% を下回った場合、冗長 PSU はスリープ状態に切り替えられます。

iDRAC 設定を使用してホットスペア機能を設定できます。iDRAC 設定の詳細については、『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』(*Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*) (Dell.com/idracmanuals) を参照してください。

電源装置ユニットダミーの取り外し

電源装置ユニット (PSU) ダミーを 2 つ目の PSU ベイにのみ取り付けます。

前提条件

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

2 台目の電源装置ユニット (PSU) を取り付けの場合は、PSU ダミーを外側へ引いて、ベイから取り外します。

△ **注意:** PSU ダミーは、2 台目の PSU を取り付けの場合にのみ取り外します。

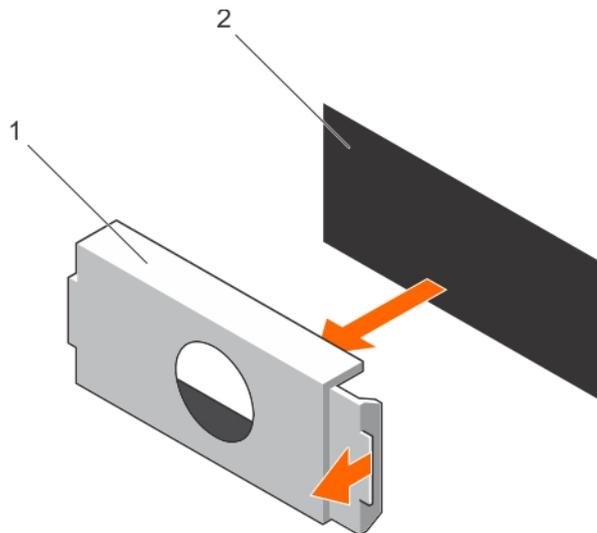


図 38. PSU ダミーの取り外し

- a. PSU ダミー
- b. PSU ベイ

次の手順

PSU、または PSU ダミーを取り付けます。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、 p. 65

関連タスク

[電源装置ユニットダミーの取り付け](#)、 p. 105

電源装置ユニットダミーの取り付け

電源装置ユニット (PSU) ダミーを 2 つ目の PSU ベイにのみ取り付けます。

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

電源装置ユニットダミーを電源装置ユニットスロットに合わせて、所定の位置にカチッと収まるまでダミーを電源装置ユニットスロットに押し込みます。

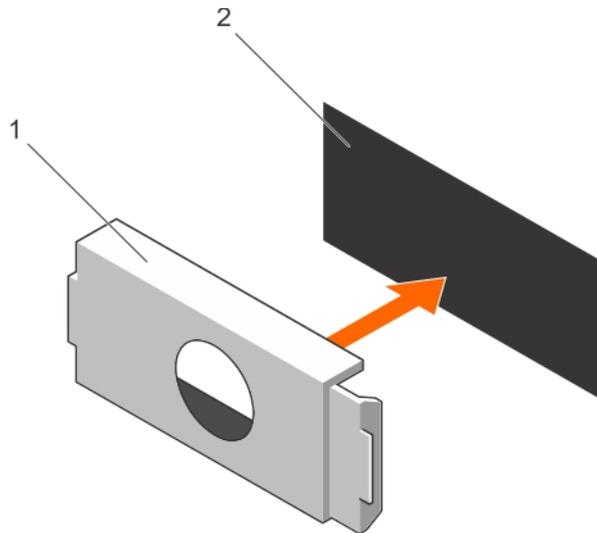


図 39. PSU ダミーの取り付け

- a. PSU ダミー
- b. PSU ベイ

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、 p. 65

関連タスク

[電源装置ユニットダミーの取り外し](#)、 p. 104

AC 電源装置ユニットの取り外し

前提条件

- △ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。
- △ **注意:** システムが正常に動作するには、PSU 1 台が必要です。冗長電源が装備されたシステムでも、システムに電源が入った状態で一度に取り外しと取り付けができる PSU は 1 台だけです。

PSU の取り外しに支障がある場合は、必要に応じて、オプションのケーブル管理アームのラッチを外して持ち上げます。ケーブル管理アームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。

「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

手順

1. 電源、および取り外す PSU から電源ケーブルを外し、ケーブルをストラップから外します。
2. リリースラッチを押し、PSU ハンドルを使用して PSU をシャーシから引き出します。

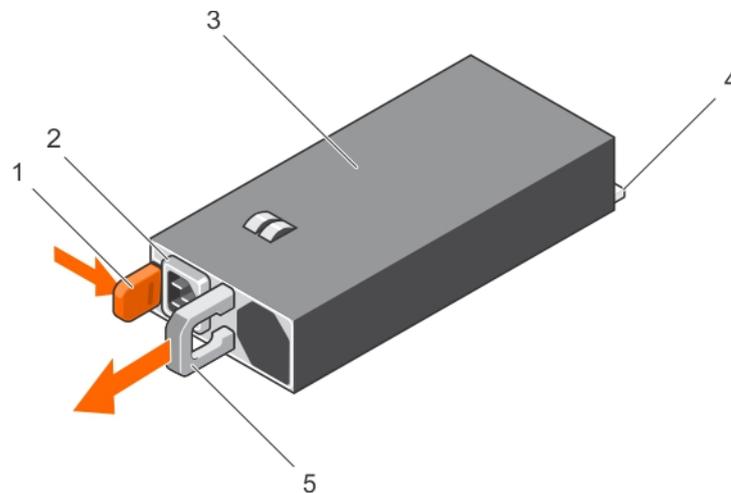


図 40. AC PSU の取り外し

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. リリースラッチ | 2. PSU ケーブルコネクタ |
| 3. PSU | 4. 電源コネクタ |
| 5. PSU ハンドル | |

次の手順

- 該当する場合は、AC PSU を取り付けます。
- 該当する場合は、PSU ダミーを取り付けます。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[AC 電源装置ユニットの取り付け](#)、p. 107

AC 電源装置ユニットの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: 最大出力電力（ワット数で表記）は PSU ラベルに記載されています。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 冗長電源ユニット（PSU）をサポートしているシステムでは、2 台の PSU のタイプと最大出力電力が同じになるようにします。
3. PSU のダミーが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

1. PSU が完全に装着され、リリースラッチが所定の位置にカチッとおさまるまで、PSU をシャーシに差し込みます。
2. 該当する場合は、ケーブル管理アームのラッチを再度かけます。
ケーブル管理アームの情報については、お使いのシステムのラック マニュアルを参照してください。
3. 電源ケーブルを PSU に接続し、ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。

△ 注意: 電源ケーブルを接続する際には、ケーブルをストラップで固定してください。

① メモ: 新しい PSU の通常の取り付けや、ホットスワップまたはホットアッドによって交換または取り付けを行う際には、システムが PSU を認識して状態を判断するまで 15 秒待ちます。電源の冗長性は、検出が完了するまで発生しない場合があります。新しい PSU が他の PSU を取り外す前に検出され、有効にするまで待機します。電源装置ステータスインジケータが緑色に点灯すれば、電源装置は正常に機能しています。

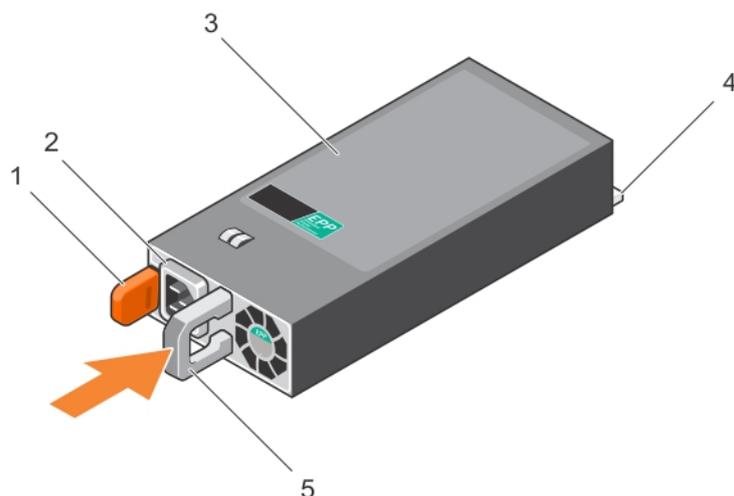


図 41. AC PSU の取り付け

1. リリースラッチ
2. PSU ケーブルコネクタ
3. PSU
4. 電源コネクタ
5. PSU ハンドル

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

内蔵ストレージコントローラカード

お使いのシステムには、システム基板上に内蔵ストレージコントローラカード専用の拡張カードスロットがあります。内蔵ストレージコントローラカードは、システムの内蔵ハードドライブ用の内蔵ストレージサブシステムを提供します。コントローラは SAS と SATA ハードドライブをサポートし、RAID 構成のハードドライブをセットアップすることもできます。RAID 構成は、システムに含まれるストレージコントローラのバージョンによって異なります。コントローラは SAS ハードドライブをサポートしています。

内蔵ストレージコントローラカードの取り外し

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 冷却エアフローカバーを取り外します。
4. #2 プラスドライバーを準備しておきます。

手順

1. スロットから拡張カードラッチを持ち上げます。
2. ライザーカード 3 のコネクタから、カードを引きスライドさせます。

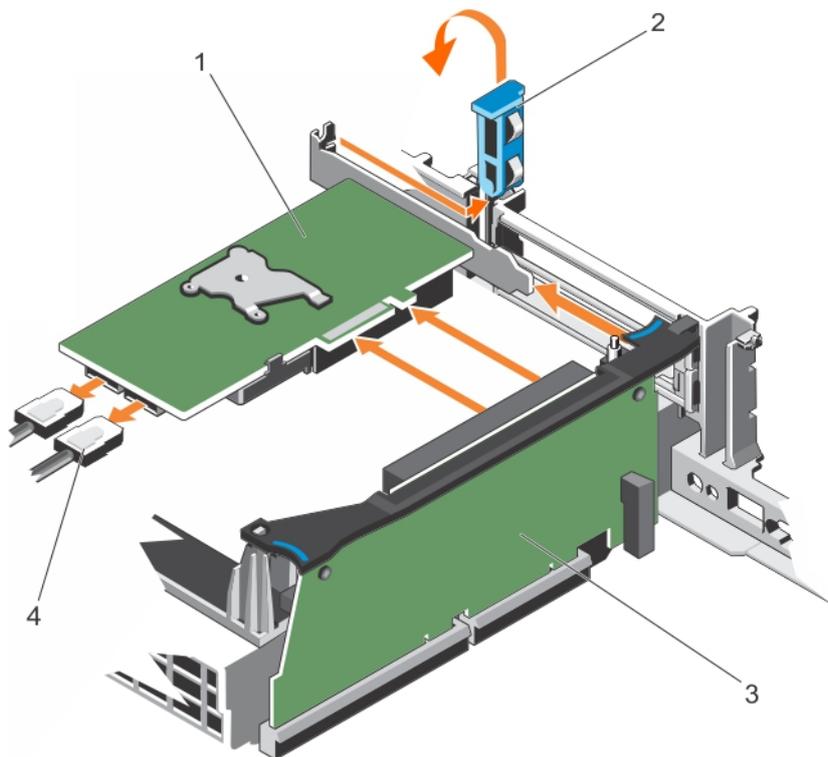


図 42. 内蔵ストレージコントローラカードの取り外し

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. ストレージコントローラカード | 2. 拡張カードラッチ |
| 3. ライザーカード 3 | 4. SAS ケーブル (2) |

3. 次の手順を実行して、カードに接続されているケーブルを外します。
 - a. SAS ケーブルコネクタのラッチを押します。
 - b. コネクタから SAS ケーブルを引き出します。
4. 拡張カードを取り外したままにする場合は、フィラーブラケットを取り付けます。

次の手順

1. 該当する場合は、内蔵ストレージコントローラカードを取り付けます。
 -  **メモ:** H330、H730、H730P、または HBA330 カードが、拡張カードライザーのスロット番号 7 のみに取り付けられていることを確認します。
2. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78

内蔵ストレージコントローラカードの取り付け、p. 109

冷却エアフローカバーの取り付け、p. 79

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

内蔵ストレージコントローラカードの取り付け

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 冷却エアフローカバーが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

1. 拡張カードラッチを開き、フィラーブラケットを取り外します。
 -  **メモ:** H330、H730、H730P および HBA330 カードが、拡張カードライザーのスロット番号 7 にのみ取り付けられていることを確認します。
2. カードの両端を持ち、カードのコネクタを拡張カードライザー上のコネクタに揃えます。
3. カードが完全に装着されるまで、カードを拡張カードコネクタにしっかりと挿入します。
4. 拡張カードラッチを閉じます。

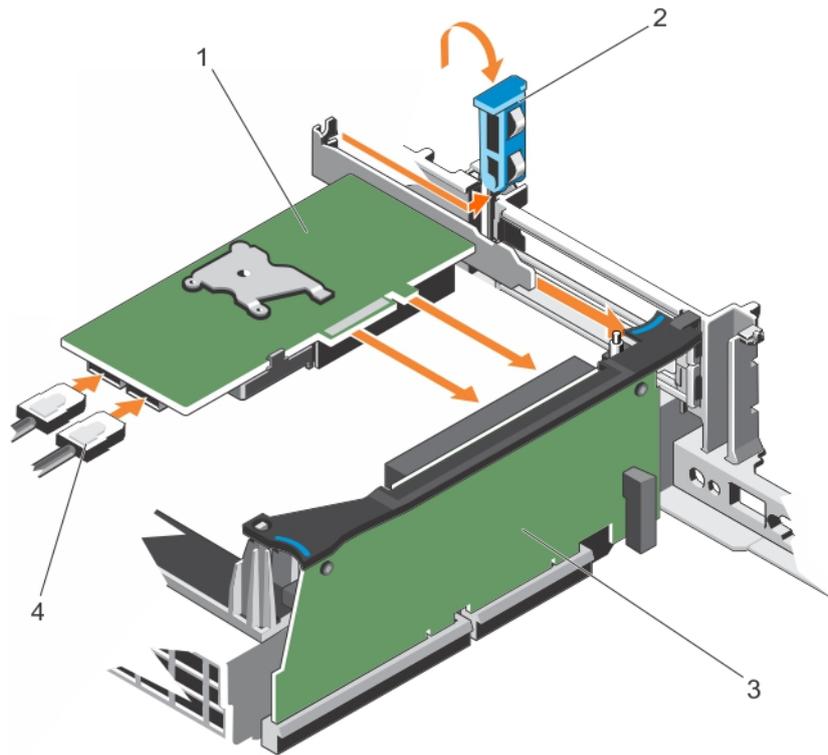


図 43. 内蔵ストレージコントローラカードの取り付け

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 内蔵ストレージコントローラカード | 2. 拡張カードラッチ |
| 3. ライザー 3 | 4. SAS ケーブル |

5. SAS データケーブルを内蔵ストレージコントローラカードの SAS データケーブルコネクタに接続します。

メモ: ケーブルは、必ずケーブルのコネクタラベルの表記に従って接続してください。向きが逆の場合、正しく動作しません。

6. SAS データケーブルをシステム基板に接続します。

次の手順

1. 拡張カードライザー1を取り付けます。
2. 冷却用エアフローカバーが取り付けられていた場合は、取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、 p. 66
- 冷却エアフローカバーの取り外し、 p. 78
- 冷却エアフローカバーの取り付け、 p. 79
- 拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け、 p. 121
- システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

拡張カードと拡張カードライザー

システム内の拡張カードは、システム基板上の拡張スロットに挿入可能なアドオンカード、あるいは拡張バスを介してシステムに拡張機能を追加するライザーカードです。

メモ: 拡張カードライザーがサポートされていない、または欠落している場合は、システムイベントログ (SEL) イベントが記録されます。システムへの電源投入には支障がなく、BIOS POST メッセージも F1/F2 一時停止も表示されません。

拡張カードの取り付けガイドライン

システムの設定に応じて、次の PCI Express (PCIe) Generation 3 拡張カードがサポートされます。

表 33. サポートする拡張カード

ライザー	PCIe スロット	プロセッサの接続	高さ	長さ	リンク幅	スロット幅
1	1	プロセッサ 2	フルハイト	ハーフレングス	x16	x16
1	2	プロセッサ 2	フルハイト	ハーフレングス	x8	x16
2	3	プロセッサ 1	ロープロファイル	ハーフレングス	x8	x16
2	4	プロセッサ 2	ロープロファイル	ハーフレングス	x8	x16
2	5	プロセッサ 2	ロープロファイル	ハーフレングス	x8	x16
3	6	プロセッサ 1	フルハイト	ハーフレングス	x16	x16
3	7	プロセッサ 1	フルハイト	ハーフレングス	x8	x8

メモ: ライザーの PCIe スロット 1、2、4、および 5 を使用するには、プロセッサ 1 および 2 が取り付けられている必要があります。

メモ: 拡張カードスロットはホットスワップ対応ではありません。

次の表は、冷却効果が確保され機械的にも適合するように拡張カードを取り付けるためのガイドラインです。表に示すスロットの優先順位に従って、優先度の最も高い拡張カードを最初に取り付ける必要があります。その他すべての拡張カードは、カードの優先順位とスロットの優先順位に従って取り付けてください。

表 34. 拡張カードの取り付け順序

カードの優先順位	カードタイプ	フォームファクタ	スロットの優先順位	可能な枚数
1	内蔵ストレージ(内蔵スロット)	フルハイト	7、6	2
2	外部接続 SAS コントローラ	フルハイト	7、6、2、1	2
		ロープロファイル	3、4、5	3
3	ファイバチャネル 16 Gb	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4、5	3
4	統合型ネットワークアダプタ	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4、5	2
5	インフィニバンド 40 Gb	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4、5	2
6	10 Gb イーサネットコントローラ	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4	2
		ロープロファイル	3、4、5	2

表 34. 拡張カードの取り付け順序（続き）

カードの優先順位	カードタイプ	フォームファクタ	スロットの優先順位	可能な枚数
7	ファイバチャネル 8 Gb デュアルポート	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4、5	2
8	ファイバチャネル 8 Gb シングルポート	フルハイト	7、6、2	3
		ロープロファイル	3、4、5	3
9	ファイバチャネル 4 Gb シングル / デュアルポート	フルハイト	7、6、2	3
10	1 Gb NIC	ロープロファイル	3、4	2
		フルハイト	7、6、2	3
11	外部接続非 RAID コントローラ	フルハイト	7、6、2、1	3
12	NVMe PCIe SSD カード	フルハイト	7、6、2、1	2
		フルハイト (ロープロファイル)	7、6、2、1 (3、4)	4
		フルハイト、ハーフレングス	6、1、2、7	4
13	Mellanox ConnectX-4	フルハイト	6、1	2

拡張カードライザーの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. 拡張カードライザーのスロットを持って、システム基板のライザーコネクタからライザーを持ち上げて外します。
2. 拡張カードライザーを取り外すには、拡張カードライザーの両端を持ちます。

① メモ: 適切なシステム冷却を確保するため、ライザーダミーは該当するライザースロットに取り付ける必要があります。ライザーダミーは、ライザーを取り付ける場合に限り、取り外します。

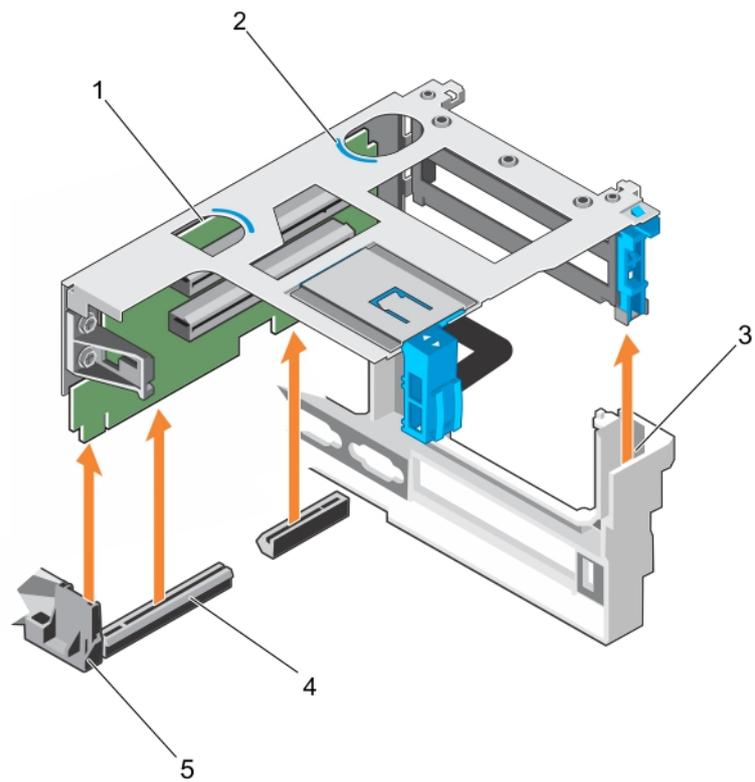


図 44. 拡張カードライザー1の取り外し

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 拡張カードライザー1 | 2. タッチポイント (2) |
| 3. ライザーガイド (右) | 4. 拡張カードライザー1コネクタ |
| 5. ライザーガイド (左) | |

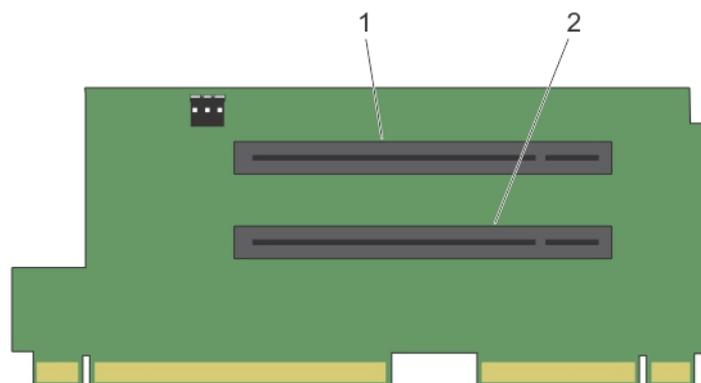


図 45. 拡張カードライザー1上のコネクタ

- a. 拡張カードコネクタスロット1
- b. 拡張カードコネクタスロット2

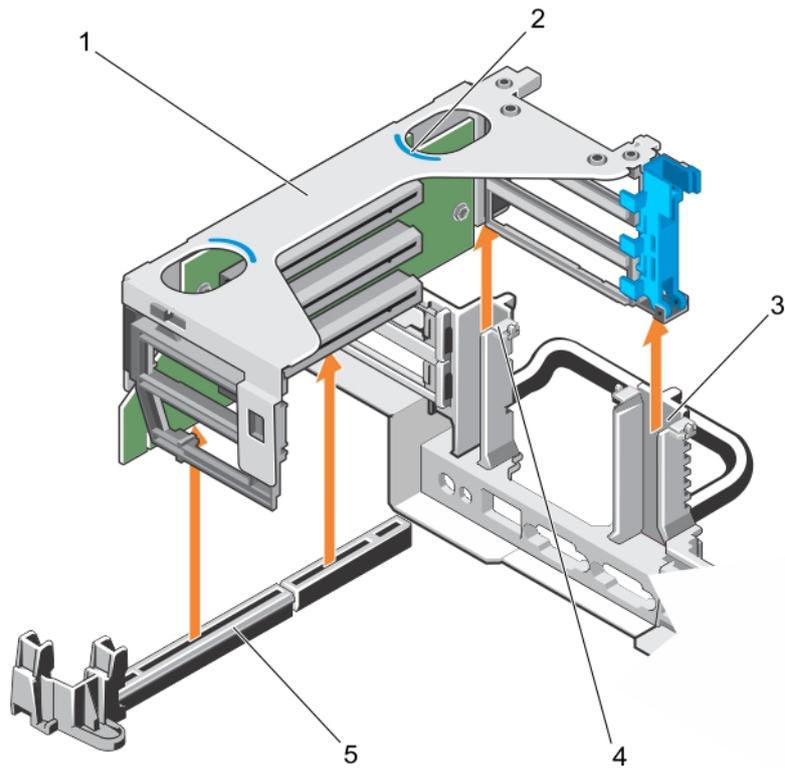


図 46. 拡張カードライザー 2 の取り外し

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 拡張カードライザー 2 | 2. タッチポイント (2) |
| 3. ライザーガイド (右) | 4. ライザーガイド (左) |
| 5. 拡張カードライザー 2 コネクタ | |

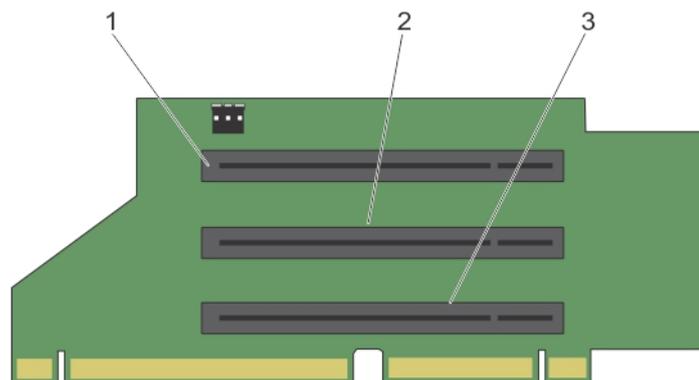


図 47. 拡張カードライザー 2 上の コネクタ

- a. 拡張カードコネクタスロット 3
- b. 拡張カードコネクタスロット 4
- c. 拡張カードコネクタスロット 5

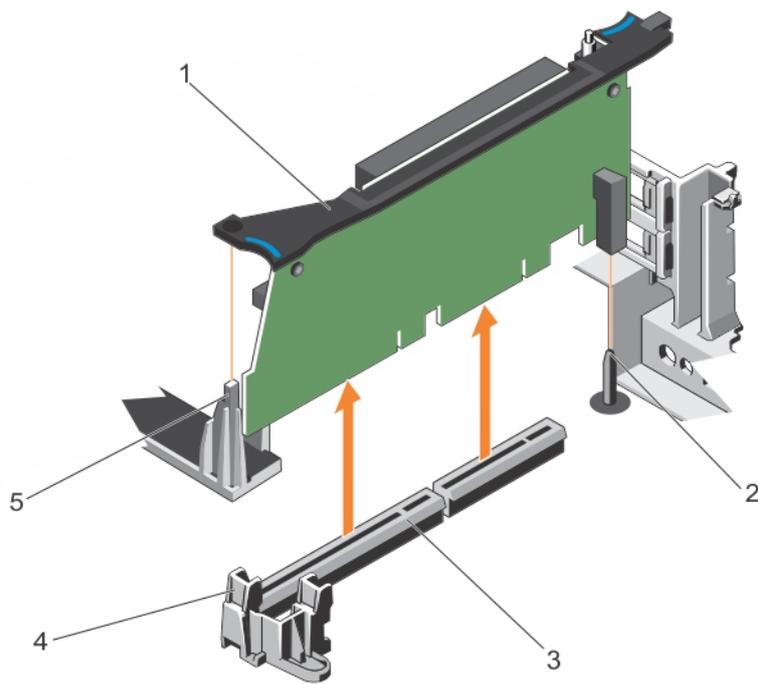


図 48. 拡張カードライザー 3 の取り外し

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 拡張カードライザー | 2. シャーシのガイドピン |
| 3. 拡張カードライザー 3 コネクタ | 4. ライザーガイド (右) |
| 5. ライザーガイド (左) | |

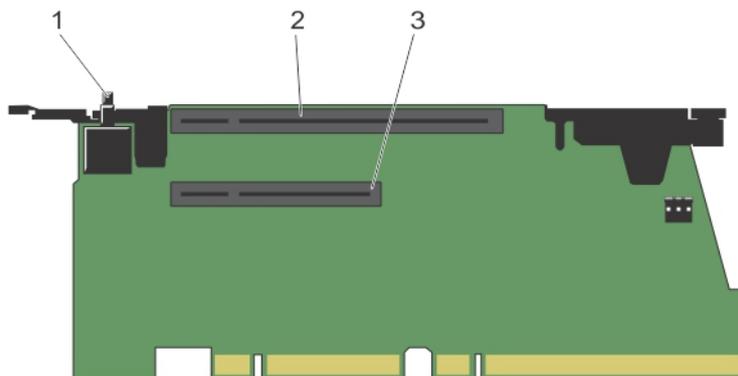


図 49. 拡張カードライザー 3 上の コネクタ

- | |
|---------------------|
| a. シャーシイントルージョンスイッチ |
| b. 拡張カードコネクタスロット 6 |
| c. 拡張カードコネクタスロット 7 |

次の手順

1. 拡張カードが取り外されている場合、拡張カードをライザーに取り付けます。
2. 該当する場合、拡張カードライザーを交換します。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

拡張カードライザーの取り付け、 p. 116

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

拡張カードライザーの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 該当する場合は、拡張カードを拡張カードライザーに取り付けます。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 拡張カードライザーをシステム基板上のコネクタとライザーガイドに合わせます。
2. 拡張カードライザーを所定の位置に下ろし、コネクタに完全に装着されるまでしっかり挿入します。

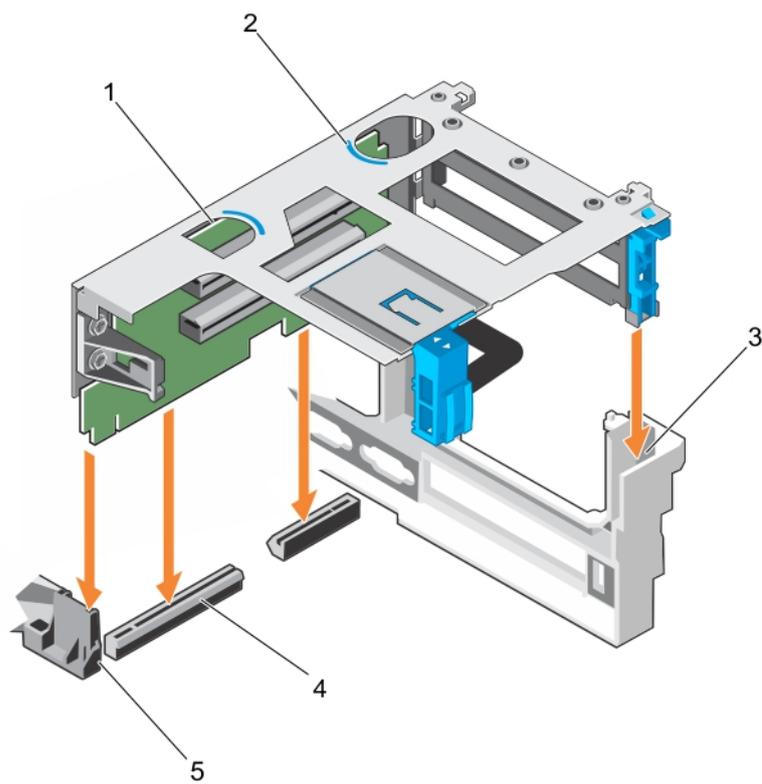


図 50. 拡張カードライザー1の取り付け

1. 拡張カードライザー1
2. タッチポイント(2)
3. ライザーガイド(背面)
4. 拡張カードライザー1コネクタ
5. ライザーガイド前面

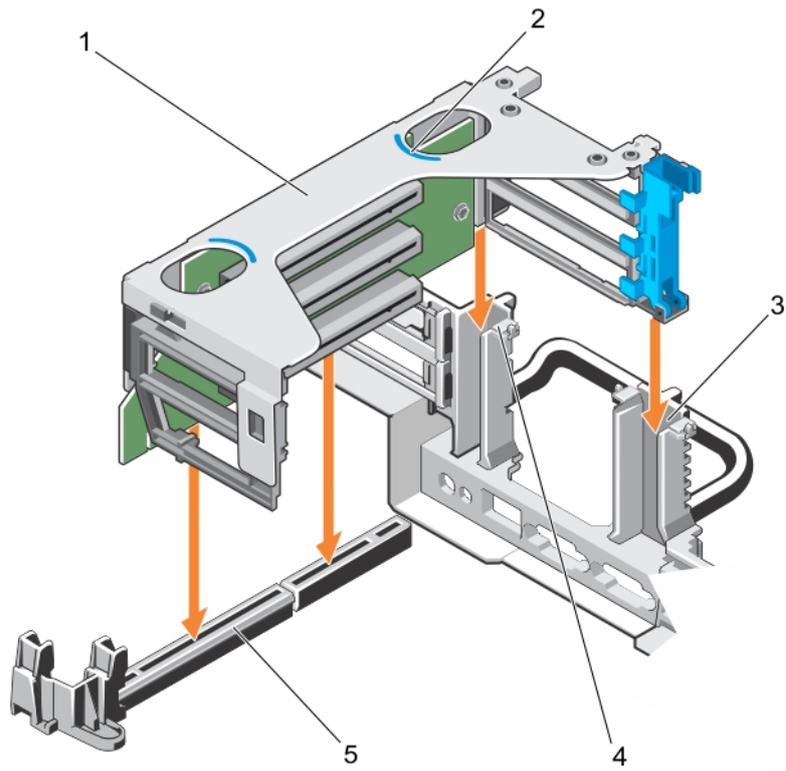


図 51. 拡張カードライザー 2 の取り付け

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 拡張カードライザー 2 | 2. タッチポイント (2) |
| 3. ライザーガイド (右) | 4. ライザーガイド (左) |
| 5. 拡張カードライザー 2 コネクタ | |

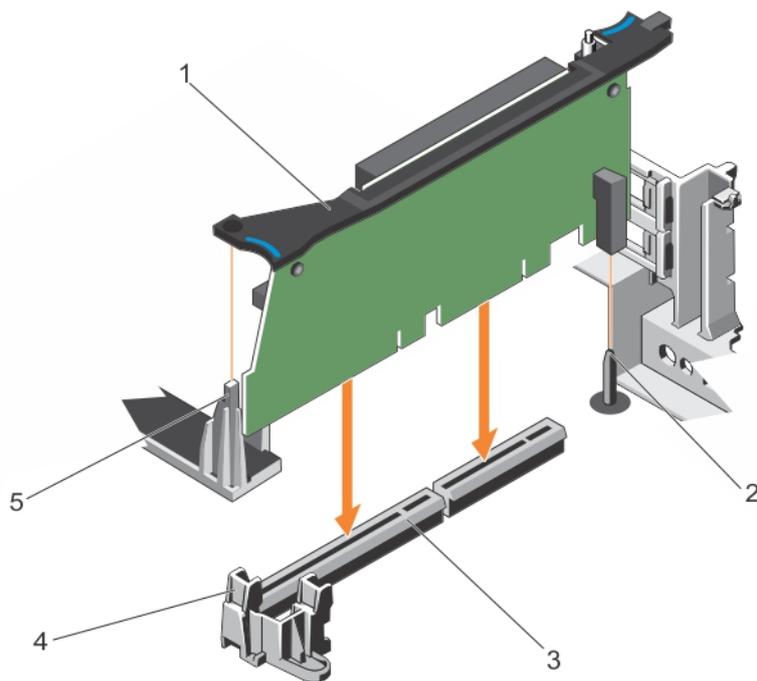


図 52. 拡張カードライザー 3 の取り付け

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 拡張カードライザー | 2. シャーシのガイドピン |
| 3. 拡張カードライザー 3 コネクタ | 4. ライザーガイド前面 |
| 5. ライザーガイド背面 | |

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
2. カードのマニュアルに従って、必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

拡張カードライザーの取り外し、 p. 112

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

拡張カードライザー 1 からの拡張カードの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザーのタッチポイントを持ち、ライザーを持ち上げてシャーシから取り出します。

手順

1. 拡張カードに接続されているケーブルをすべて外します。
2. 拡張カードの固定ラッチを押し、拡張カードライザー引き出して開きます。
3. 拡張カードのリリースラッチを引いて開きます。
4. 拡張カードの端をつかんで、拡張カードコネクタから取り外します。
5. 拡張カードを取り外したままにする場合は、空の拡張スロットの開口部に金属製のフィラーブラケットを取り付け、拡張カードラッチを閉じます。

メモ: システムシステム、空の拡張カード スロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットはゴミや埃からシステムを保護し、システム内部の冷却と通気を効率化します。フィラーブラケットは適切な温度条件を保つために必要です。

6. 拡張カードのリリースラッチを押して閉じます。
7. 拡張カードの固定ラッチをスロットに向けて閉じます。

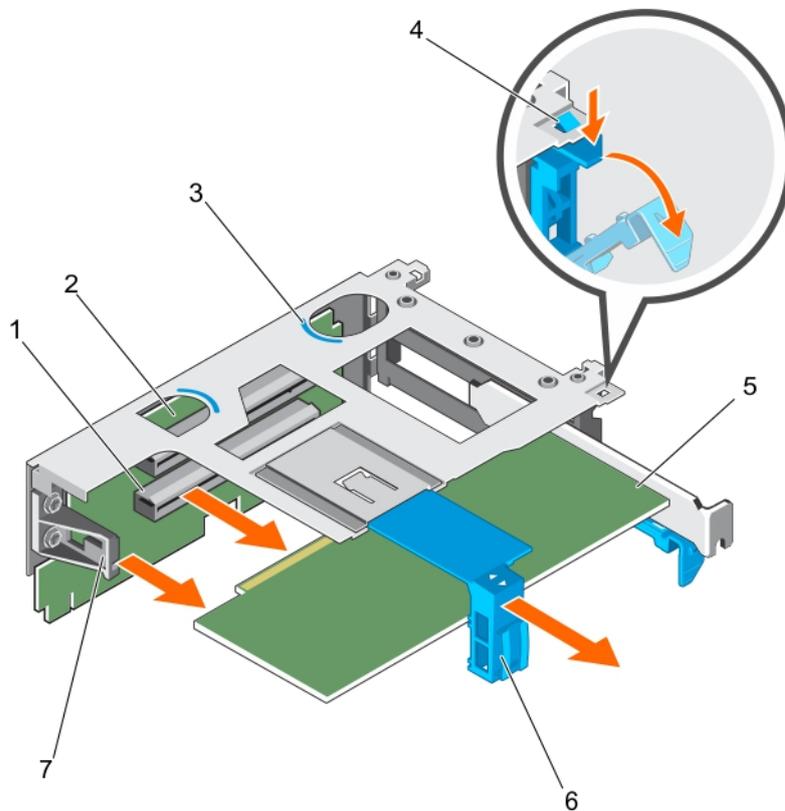


図 53. 拡張カードライザー1からの拡張カードの取り外し

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 拡張カードコネクタ | 2. 拡張カードライザー1 |
| 3. タッチポイント(2) | 4. 拡張カードライザー固定ラッチ |
| 5. 拡張カード | 6. 拡張カードリリースラッチ |
| 7. 拡張カードライザータブ | |

次の手順

1. 拡張カードライザー1を取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け、 p. 121

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dellの許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザー1を取り外します。

手順

1. 該当する場合は、拡張カードを開梱して取り付けの準備をします。手順については、カードに付属のマニュアルを参照してください。
2. 拡張カードの固定ラッチを押し、拡張カードライザー引き出します。
3. 拡張カードのリリースラッチを引いて開きます。
4. カードの両端を持って、カードエッジコネクタをカードが完全に装着されるまで拡張カードコネクタにしっかりと差し込みます。

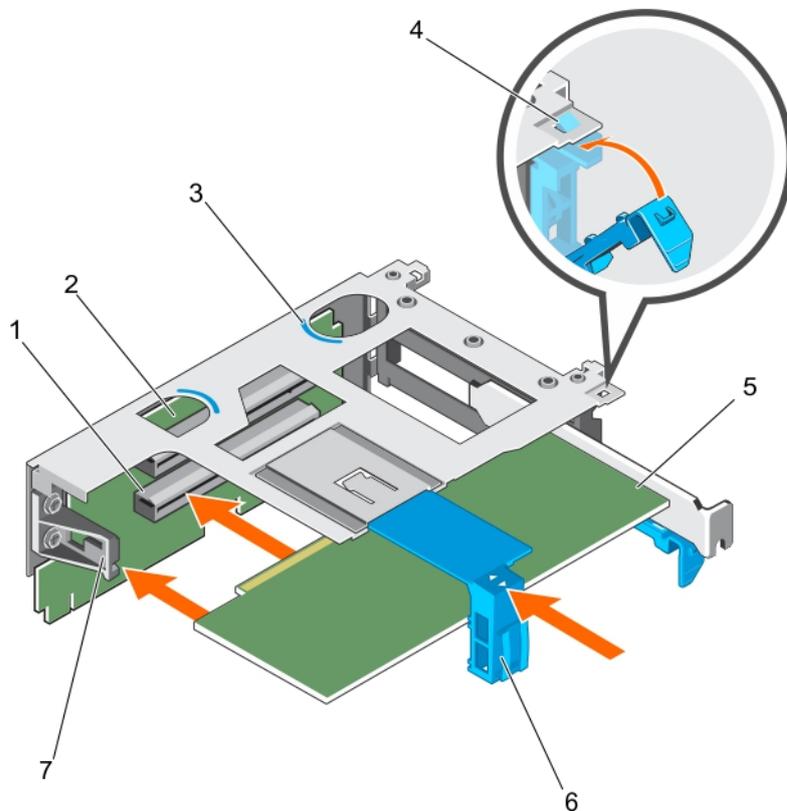


図 54. 拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け

1. 拡張カードコネクタ
2. 拡張カードライザー1

3. タッチポイント (2)
4. 拡張カード固定ラッチ
5. 拡張カード
6. 拡張カードリリースラッチ
7. 拡張カードライザータブ

5. 拡張カードのリリースラッチを押して閉じます。
6. 拡張カードの固定ラッチをスロットに向けて閉じます。

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
2. カードのマニュアルに従って、カードに必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、 p. 66
- 拡張カードライザー 1 からの拡張カードの取り外し、 p. 119
- システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

拡張カードライザー 2 からの拡張カードの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザーのタッチポイントを持ち、ライザーを持ち上げてシャーシから取り出します。

手順

1. 拡張カードに接続されているケーブルをすべて外します。
2. 拡張カードの固定ラッチを押し、拡張カードライザー引き出して開きます。
i メモ: フルハイト拡張カードの場合は、拡張カードホルダを拡張カードライザーから引き出します。
3. 拡張カードの端をつかんで、拡張カードコネクタから取り外します。
4. 拡張カードを取り外したままにする場合は、空の拡張スロットの開口部に金属製のフィラーブラケットを取り付け、拡張カードラッチを閉じます。
i メモ: システムシステム、空の拡張カード スロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットはゴミや埃からシステムを保護し、システム内部の冷却と通気を効率化します。フィラーブラケットは適切な温度条件を保つために必要です。
5. 拡張カードライザーのラッチをスロットに向けて閉じます。

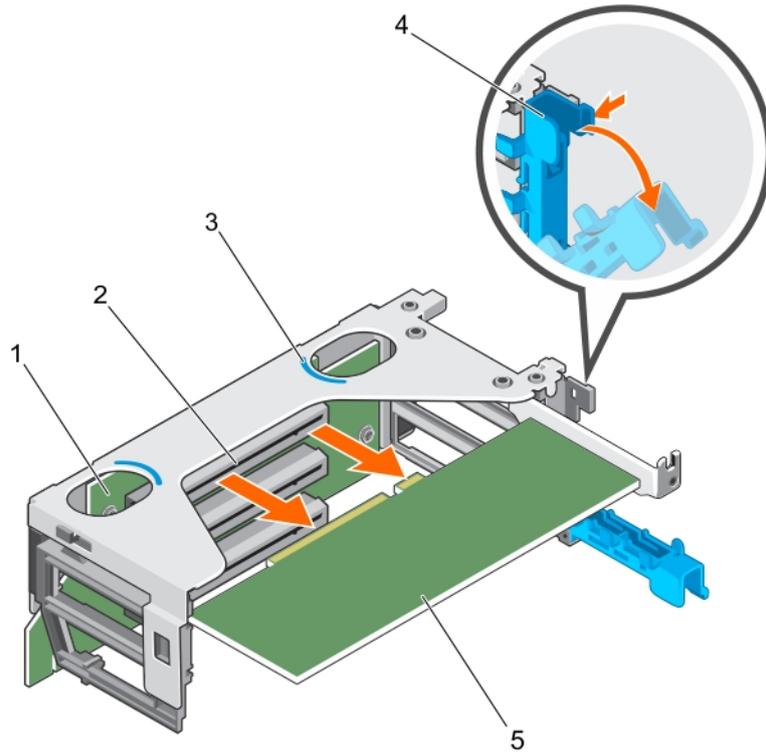


図 55. 拡張カードライザー 2 からの拡張カードの取り外し

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 拡張カードライザー 2 | 2. 拡張カードコネクタ |
| 3. タッチポイント (2) | 4. 拡張カードラッチ |
| 5. 拡張カード | |

次の手順

1. 拡張カードライザー 2 を取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

拡張カードライザー 2 への拡張カードの取り付け、p. 123

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

拡張カードライザー 2 への拡張カードの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。

2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザー2を取り外します。

手順

1. 該当する場合は、拡張カードを開梱して取り付けの準備をします。手順については、カードに付属のマニュアルを参照してください。
2. 拡張カードラッチを開き、フィラーブラケットを取り外します。
3. カードの両端を持って、カードエッジコネクタをカードが完全に装着されるまで拡張カードコネクタにしっかりと差し込みます。

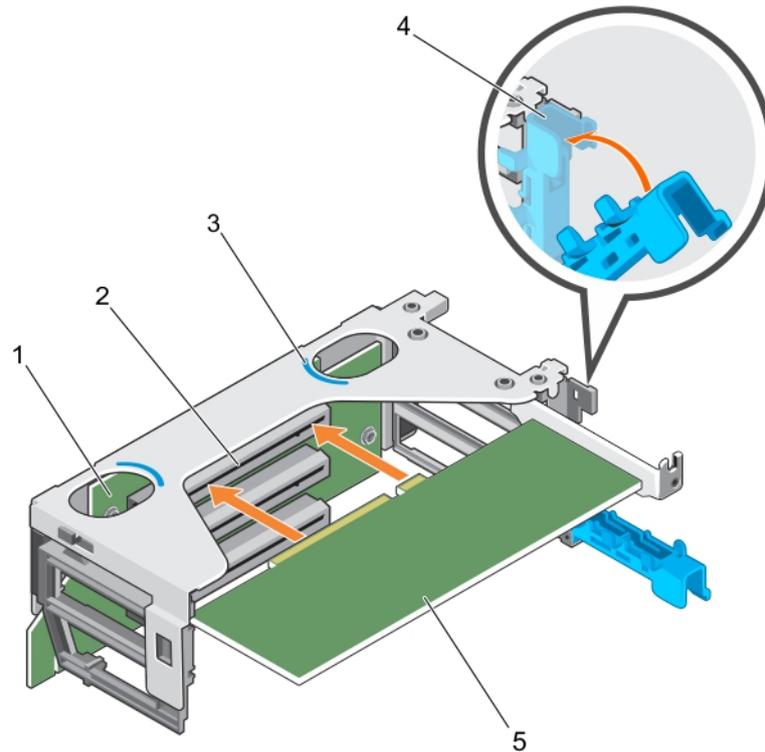


図 56. 拡張カードライザー2への拡張カードの取り付け

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 拡張カードライザー2 | 2. 拡張カードコネクタ |
| 3. タッチポイント(2) | 4. 拡張カードラッチ |
| 5. 拡張カード | |

4. 拡張カードのラッチをスロットに向けて閉じます。

次の手順

1. 拡張カードライザー2を取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
3. カードのマニュアルに従って、カードに必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、p. 66
- 拡張カードライザー2からの拡張カードの取り外し、p. 122
- システム内部の作業を終えた後に、p. 66

拡張カードライザー3からの拡張カードの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dellの許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みにになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザーのタッチポイントを持ち、ライザーを持ち上げてシャーシから取り出します。

手順

1. 拡張カードに接続されているケーブルをすべて外します。
2. 拡張カード固定ラッチを開きます。
① メモ: フルハイト拡張カードを取り外している場合は、拡張カードホルダを開きます。
3. 拡張カードの端をつかんで、拡張カードコネクタから取り外します。
4. 拡張カードを取り外したままにする場合は、空の拡張スロットの開閉口に金属製のフィラーブラケットを取り付け、拡張カードラッチを閉じます。
① メモ: システムシステム、空の拡張カードスロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットはゴミや埃からシステムを保護し、システム内部の冷却と通気を効率化します。フィラーブラケットは適切な温度条件を保つために必要です。
5. 拡張カードライザーラッチをスロットに向けて閉じます。

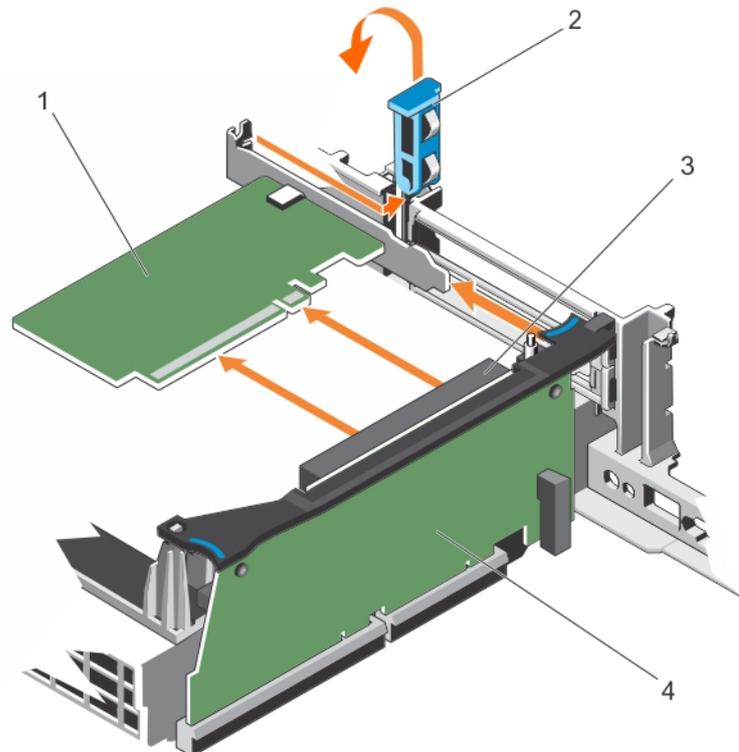


図 57. 拡張カードライザー3からのハーフハイト拡張カードの取り外し

1. 拡張カード
2. 拡張カード固定ラッチ
3. 拡張カードコネクタ
4. 拡張カードライザー

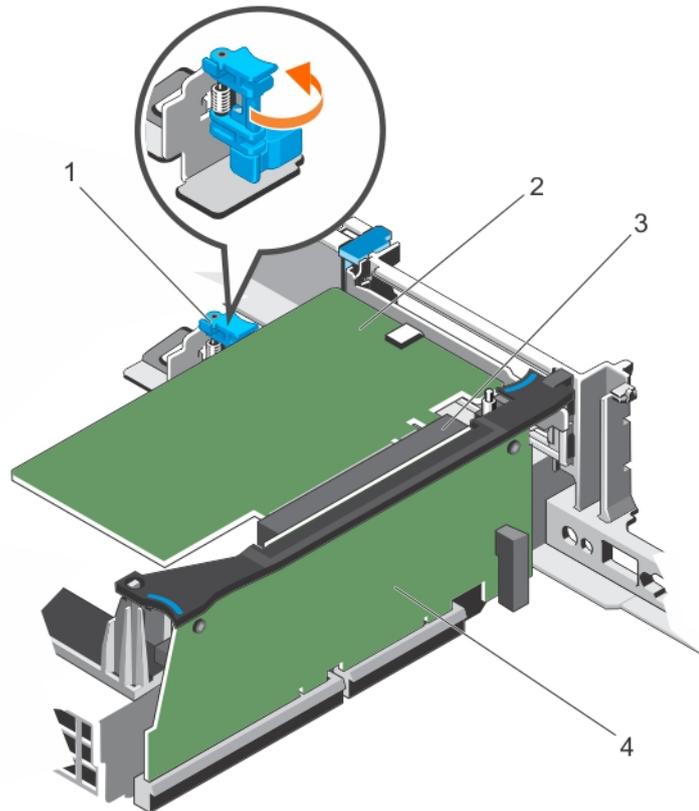


図 58. 拡張カードライザー 3 からのフルハイット拡張カードの取り外し

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 拡張カードホルダ | 2. 拡張カード |
| 3. 拡張カードコネクタ | 4. 拡張カードライザー 3 |

次の手順

1. 拡張カードライザー 3 を取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

拡張カードライザー 3 への拡張カードの取り付け、p. 126

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

拡張カードライザー 3 への拡張カードの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザー 3 を取り外します。

手順

1. 該当する場合は、拡張カードを開梱して取り付けの準備をします。
手順については、カードに付属のマニュアルを参照してください。
2. 拡張カード固定ラッチを開きます。
3. カードの両端を持って、カードエッジコネクタをカードが完全に装着されるまで拡張カードコネクタにしっかりと差し込みます。
4. フルハイト拡張カードを取り付けている場合は、拡張カードホルダーを拡張カードライザーの方へ引き出します。拡張カードホルダーの溝の間に拡張カードが収まっていることを確認します。
5. 拡張カードライザーのラッチをスロットに向けて閉じます。

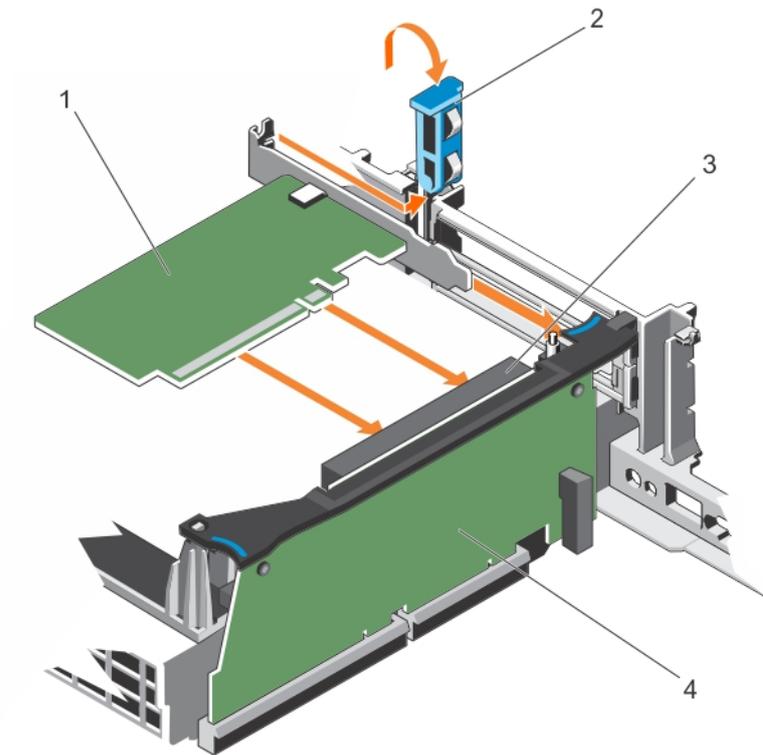


図 59. 拡張カードライザー 3 へのハーフハイト拡張カードの取り付け

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 拡張カード | 2. 拡張カード固定ラッチ |
| 3. 拡張カードコネクタ | 4. 拡張カードライザー |

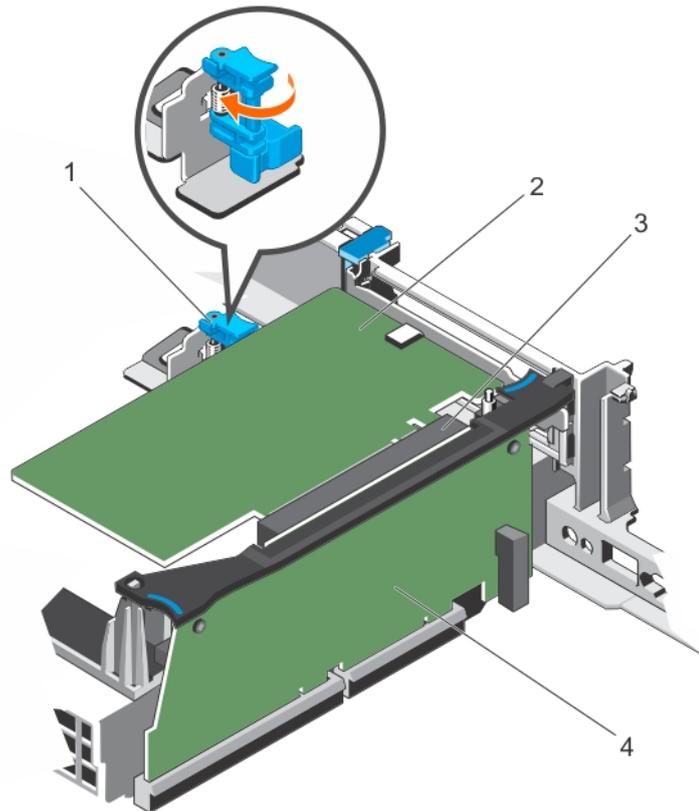


図 60. 拡張カードライザー 3 へのフルハイト拡張カードの取り付け

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 拡張カードホルダ | 2. 拡張カード |
| 3. 拡張カードコネクタ | 4. 拡張カードライザー 3 |

次の手順

1. 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。
2. カードのマニュアルに従って、カードに必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

拡張カードライザー 3 からの拡張カードの取り外し、p. 125

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

IDSDM

内蔵デュアル SD モジュール (IDSDM) は冗長 SD カード ソリューションを提供します。IDSDM は、ストレージ用に、または OS の起動パーティションとして設定できます。IDSDM カードには次の機能があります。

- デュアルカード動作 — 両方のスロットで SD カードを使用してミラーリング構成を維持し、冗長性を提供します。
 ⓘ **メモ:** セットアップユーティリティの **Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で **Redundancy** (冗長性) オプションが **Mirror Mode** (ミラーモード) に設定されている場合、1 枚の SD カードから別の SD カードに情報が複製されます。
- シングルカード動作 — シングルカード動作はサポートされますが、冗長性は提供されません。

内蔵 SD カードの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: 各 SD カードに、取り外す前の対応するスロット番号のラベルを一時的に貼り付けてください。SD カードを再度取り付ける際は、その対応するスロットに取り付けます。

手順

内蔵デュアル SD モジュール上の SD カードスロットの位置を確認し、カードを押してスロットから外します。

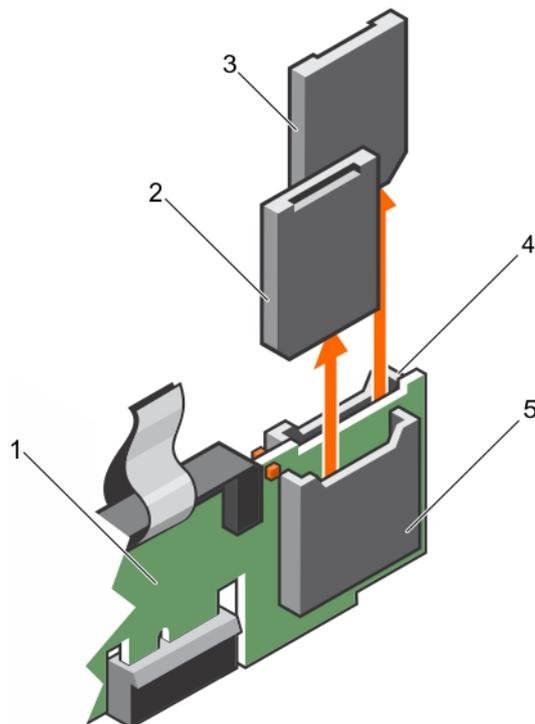


図 61. 内蔵 SD カードの取り外し

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. IDSDM | 2. SD カード 1 |
| 3. SD カード 2 | 4. SD カードスロット 2 |
| 5. SD カードスロット 1 | |

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、p. 66

[内蔵 SD カードの取り付け](#)、p. 130

内蔵 SD カードの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

i メモ: お使いのシステムで SD カードを使用するには、システム セットアップで**内蔵 SD カード** ポートが有効に設定されていることを確認します。

i メモ: 各 SD カードに、取り外す前の対応するスロット番号のラベルを一時的に貼り付けてください。SD カードを再度取り付ける際は、その対応するスロットに取り付けます。

手順

1. 内蔵デュアル SD モジュール上の SD カード コネクタの位置を確認します。SD カードを正しい向きにして、カードの接続ピン側をスロットに挿入します。

i メモ: スロットは正しい方向にしかカードを挿入できないように設計されています。

2. カードをカードスロットに押し込み、所定の位置にロックします。

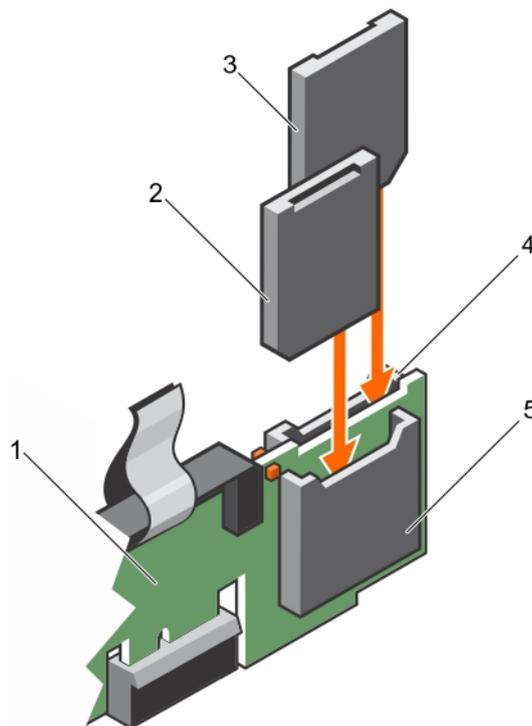


図 62. 内蔵 SD カードの取り付け

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. IDSDM | 2. SD カード 2 |
| 3. SD カード 1 | 4. SD カードスロット 1 |
| 5. SD カードスロット 2 | |

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り外し

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. SD カードが取り付けられている場合は、取り外します。
メモ: 取り外しの前に、各 SD カードに対応するスロット番号のラベルを一時的に付けてください。SD カードは対応するスロットに再度取り付けます。

手順

1. システム基板の内蔵デュアル SD モジュール (IDSDM) の位置を確認します。内蔵デュアル SD モジュールコネクタの位置を確認するには、「システム基板のコネクタ」の項を参照してください。
2. プルタブを持って、IDSDM をシステムから取り出します。

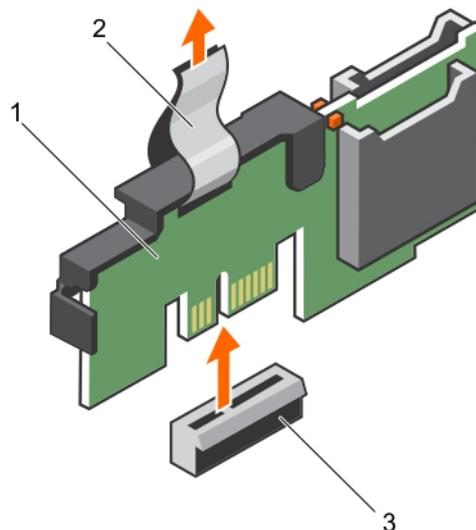


図 63. 内蔵デュアル SD モジュール (IDSDM) の取り外し

- a. IDSDM
- b. プルタブ
- c. IDSDM コネクタ

次の表は、IDSDM インジケータコードについて説明しています。

表 35. IDSDM インジケータコード

表記規則	IDSDM インジケータコード	説明
A	緑色	カードがオンラインであることを示します。
B	緑色の点滅	再構築またはアクティビティを示します。

表 35. IDSDM インジケータコード (続き)

表記規則	IDSDM インジケータコード	説明
C	橙色の点滅	カードの不一致またはカードに障害が発生したことを示します。
D	橙色	カードがオフライン、故障している、または書き込みが禁止されていることを示します。
E	消灯	カードが取り付けられていないか、起動していないことを示します。

次の手順

1. IDSDM をインストールします。
2. 取り外した場合は、SD カードを取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

内蔵 SD カードの取り外し、 p. 129

オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り付け、 p. 132

内蔵 SD カードの取り付け、 p. 130

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
 2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
- i** **メモ:** 取り外しの前に、各 SD カードに対応するスロットに一時的なラベルを付けてください。

手順

1. システム基板上の内蔵デュアル SD モジュール (IDSDM) コネクタの位置を確認します。IDSDM コネクタの位置を確認するには、「システム基板のコネクタ」の項を参照してください。
2. IDSDM をシステム基板上のコネクタの位置に合わせます。
3. システム基板にしっかりと装着されるまで、IDSDM を押し込みます。

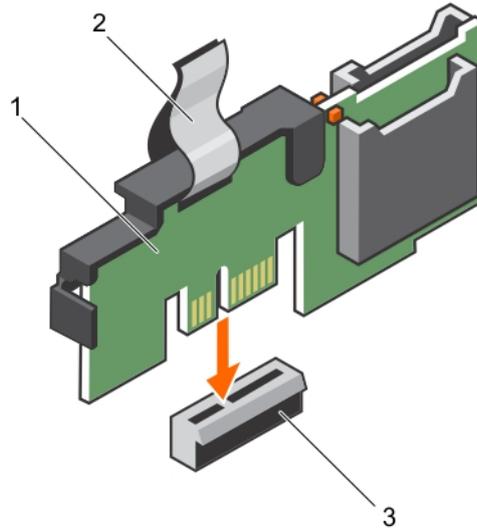


図 64. オプションの内蔵デュアル SD モジュールの取り付け

- a. IDSDM
- b. プルタブ
- c. IDSDM コネクタ

次の手順

1. SD カードを取り付けます。
i **メモ:** SD カードは、取り外し時に付けたラベルに基づいて前と同じスロットに取り付けてください。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

内蔵 SD カードの取り付け、p. 130

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

ネットワークドーターカード

ネットワークドーターカード (NDC) は小型の取り外し可能なメザニンカードです。NDC を使用すると、さまざまなネットワーク接続 (たとえば、4x1GbE、2x10GbE、および 2x コンバージド ネットワーク アダプタなど) を柔軟に選択できます。

ネットワークドーターカードの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 拡張カードライザー 1 が取り付けられている場合は、取り外します。
4. #1 プラスドライバを準備しておきます。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な

修理を行うようにしてください。Dellの許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. ネットワークドーターカード (NDC) をシステム基板に固定している固定ネジを緩めます。
2. タッチポイント両側にある端部を使って NDC を持ち、カードを持ち上げてシステム基板のコネクタから取り外します。
3. イーサネットコネクタが背面パネルのスロットから取り出されるまで、ネットワークドーターカードをシステム背面から引き出します。
4. NDC を持ち上げてシャーシから取り出します。

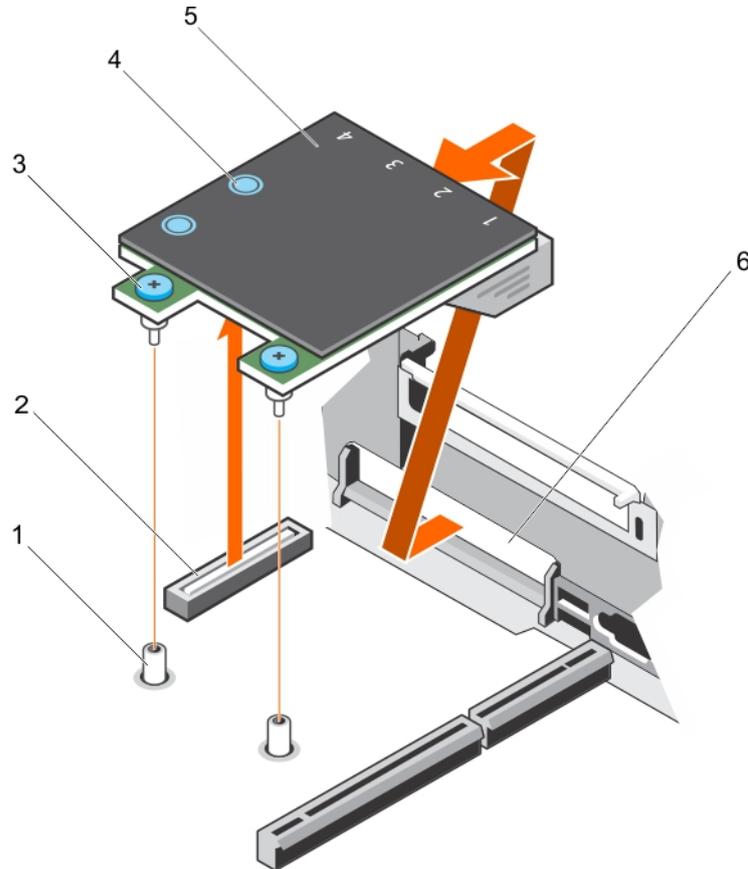


図 65. NDC の取り外し

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. ネジソケット (2) | 2. システム基板上的コネクタ |
| 3. 固定ネジ (2) | 4. タッチポイント (2) |
| 5. ネットワークドーターカード (NDC) | 6. イーサネットコネクタ用の背面パネルスロット |

次の手順

1. NDC を取り付けます。
2. 拡張カードライザー 1 が取り外されている場合は、取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、p. 66

[拡張カードライザー 1 からの拡張カードの取り外し](#)、p. 119

ネットワークドーターカードの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 該当する場合は、拡張カードライザー 1 を取り外します。
4. #1 プラスドライバーを準備しておきます。

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. イーサネットコネクタが背面パネルのスロットを通り抜けるようにネットワークドーターカード (NDC) の向きを合わせます。
2. カードの固定ネジをシステム基板上の固定ネジソケットに合わせます。
3. カードコネクタがシステム基板コネクタにしっかり固定されるまで、カードのタッチポイントを押しします。
4. 固定ネジを締めて NDC をシステム基板に固定します。

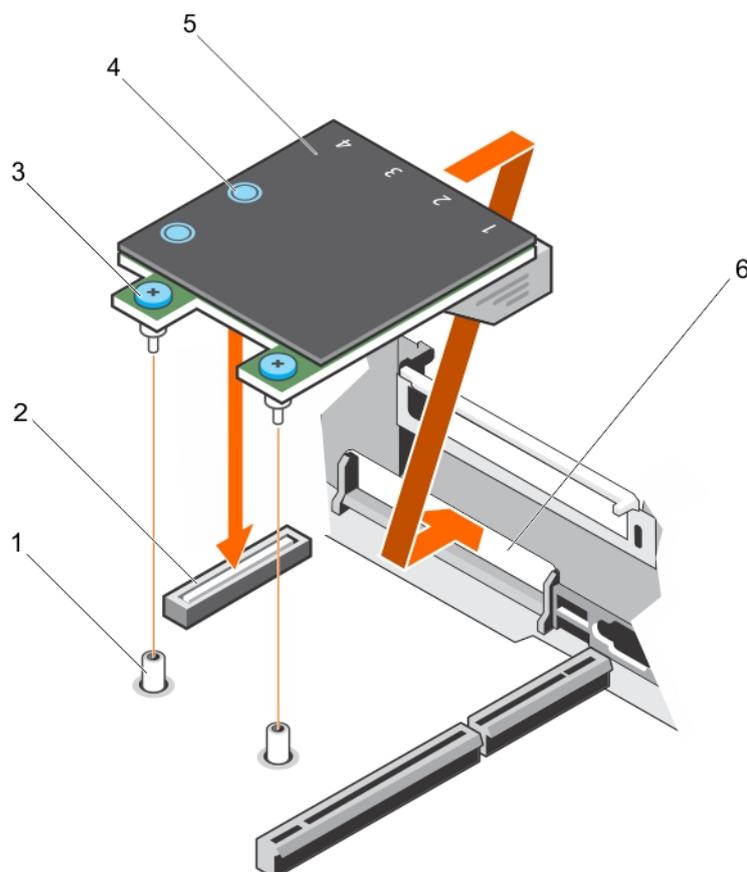


図 66. NDC の取り付け

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. ネジソケット (2) | 2. システム基板上のコネクタ |
| 3. 固定ネジ (2) | 4. タッチポイント (2) |
| 5. ネットワークドーターカード (NDC) | 6. イーサネットコネクタ用の背面パネルスロット |

次の手順

1. 拡張カードライザー1を取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、 p. 66
- 拡張カードライザー2からの拡張カードの取り外し、 p. 122
- 拡張カードライザー1への拡張カードの取り付け、 p. 121
- システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

内蔵 USB メモリキー (オプション)

システム内部に取り付けられているオプションの USB メモリキーは、起動デバイス、セキュリティキー、または大容量ストレージデバイスとして使用できます。

USB メモリキーから起動するには、USB メモリキーに起動イメージを設定してから、System Setup (システムセットアップ) の起動順序で USB メモリキーを指定します。

内蔵 USB ポートは、**System Setup** (セットアップユーティリティ) の **Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面にある **Internal USB Port** (内蔵 USB ポート) オプションで有効にする必要があります。

メモ: システム基板上の内蔵 USB ポート (INT_USB) の位置を確認するには、「システム基板のジャンパとコネクタ」の項を参照してください。

オプションの内蔵 USB メモリーキーの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

手順

1. システムボードの USB ポートまたは USB メモリーキーの位置を確認します。
USB ポートの位置を確認するには、「システム基板のジャンパとコネクタ」の項を参照してください。
2. USB メモリーキーを取り付けている場合は、USB ポートから取り外します。

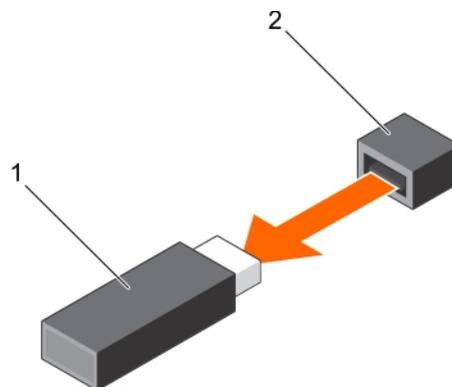


図 67. 内蔵 USB メモリーキーの取り外し

- a. USB メモリーキー
 - b. USB ポート
3. USB ポートに交換用の USB メモリーキーを挿入します。

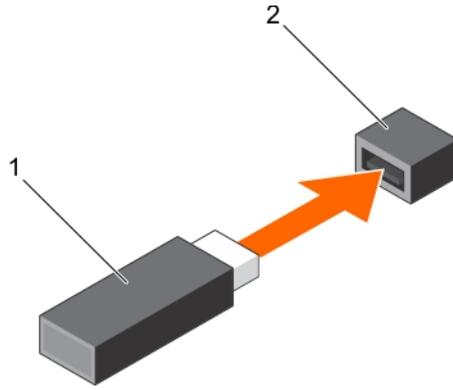


図 68. 内蔵 USB メモリー キーの取り付け

- a. USB メモリー キー
- b. USB ポート

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。
2. 起動中に、F2 を押して System Setup を起動し、システムが USB メモリー キーを検出していることを確認します。

関連参考文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、p. 66

[システム内部の作業を終えた後に](#)、p. 66

システムバッテリー

システムバッテリーを使用して、リアルタイムクロックに電力を供給し、システムの BIOS 設定を保存します。

システムバッテリーの交換

前提条件

ⓘ メモ: バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂するおそれがあります。交換用のバッテリーには、同じ製品か、または製造元が推奨する同等品を使用してください。詳細については、お使いのシステムに付属するマニュアルで、安全に関する情報を参照してください。

⚠ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 冷却シラウドを取り外します。

手順

1. バッテリーソケットの位置を確認します。詳細については、「ジャンパとコネクタ」の項を参照してください。

⚠ 注意: バッテリーの取り付け、取り外しの際には、バッテリーコネクタが破損しないようにしっかり支えてください。

2. バッテリーコネクタのマイナス側の固定タブの間に指を置き、バッテリーを持ち上げてソケットから取り外します。

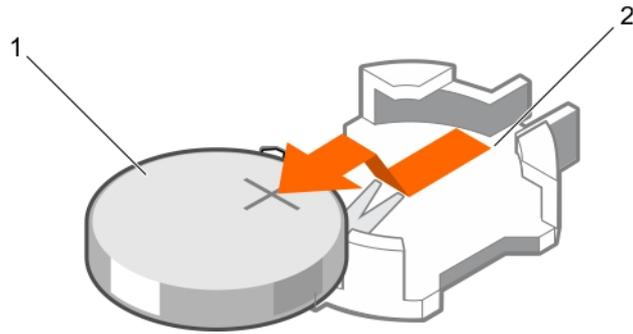


図 69. システムバッテリーの取り外し

- a. システムバッテリー
- b. システムバッテリースロット

3. 新しいシステムバッテリーを取り付けるには、プラス側を上にしてバッテリーを持ち、固定タブの下に挿入します。
4. 所定の位置に収まるまでバッテリーをコネクタに押し込みます。

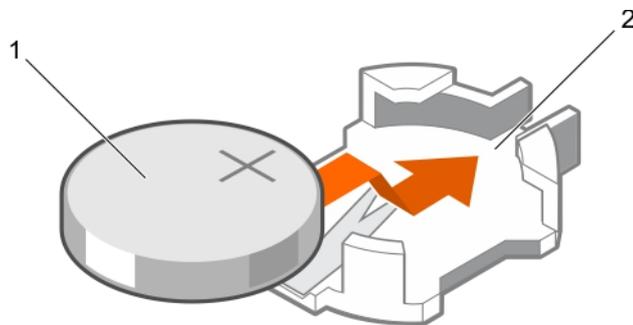


図 70. システムバッテリーの取り付け

- a. システムバッテリー
- b. システムバッテリースロット

次の手順

1. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。
3. 起動中に F2 を押して System Setup (セットアップユーティリティ) を起動し、バッテリーが正常に動作していることを確認します。
4. セットアップユーティリティの **Time (時刻)** および **Date (日付)** フィールドで正しい時刻と日付を入力します。
5. System Setup (セットアップユーティリティ) を終了します。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、 p. 65

関連タスク

[システム内部の作業を始める前に](#)、 p. 66

[冷却エアフローカバーの取り外し](#)、 p. 78

[冷却エアフローカバーの取り付け](#)、 p. 79

[システム内部の作業を終えた後に](#)、 p. 66

ハードドライブ

お使いのシステムは、エントリーハードドライブと Enterprise クラスのハードドライブをサポートしています。エントリーハードドライブはドライブへの作業負荷率が低い 5x8 の動作環境向けに、Enterprise クラスのドライブは 24x7 の動作環境向けに設計されて

います。正しいドライブクラスを選択すると、品質、機能、パフォーマンス、および信頼性という重要な領域をターゲット向けに最適化することができます。

 **メモ:** Enterprise クラスのハードドライブをエントリーハードドライブと併用しないでください。

右側のドライブタイプの選択は、使用パターンに応じて異なります。不適切なエントリーハードドライブの使用（年間 55 TB を超える作業負荷率）は大きなリスクにつながり、ドライブ故障率を増加させます。

これらのハードドライブに関する詳細は、[Dell.com/poweredgemanuals](https://www.dell.com/poweredge/manuals) で『512e and 4Kn Disk Formats whitepaper』（512e および 4Kn ディスクフォーマットホワイトペーパー）と『4K Sector HDD FAQ document』（4K セクター HDD FAQ マニュアル）を参照してください。

全てのハードドライブは、ハードドライブバックプレーンを介してシステム基板に接続されます。ハードドライブは、ハードドライブスロットに収まるホットスワップ対応ハードドライブキャリア内に設置されます。

 **注意:** システムの動作中にハードドライブを取り付けたり取り外したりする前に、ストレージコントローラカードのマニュアルを参照して、ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しと挿入をサポートするように、ホストアダプタが正しく設定されていることを確認します。

 **注意:** ハードドライブのフォーマット中は、システムの電源を切ったり、再起動を行ったりしないでください。ハードドライブの故障の原因となります。

ハードドライブバックプレーン用として使用が認められているテスト済みのハードドライブのみを使用してください。

ハードドライブをフォーマットする場合は、フォーマットの完了までに十分な時間の余裕をみておいてください。大容量のハードドライブはフォーマットに時間がかかる場合があります。

ホットスワップ対応ハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り外し

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 必要に応じて、ベゼルを取り外します。
4. 管理ソフトウェアを使って、ハードドライブを取り外す準備をします。ハードドライブがオンラインの場合、ドライブの電源をオフにしている間は、緑色のアクティビティ/障害インジケータが点滅します。すべてのインジケータが消えたら、ドライブを安全に取り外すことができます。

詳細に関しては、ストレージコントローラのマニュアルを参照してください。

 **注意:** データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップによるドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いの OS のマニュアルを参照してください。

手順

1. リリースボタンを押して、ハードドライブまたは SSD キャリアリリースハンドルを開きます。
2. ハードドライブまたは SSD キャリアをスライドさせてハードドライブスロットから取り出します。

 **注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブまたは SSD スロットすべてにハードドライブまたは SSD ダミーを取り付ける必要があります。
3. すぐにハードドライブまたは SSD を交換しない場合は、空のハードドライブスロットにハードドライブまたは SSD のダミーを挿入します。

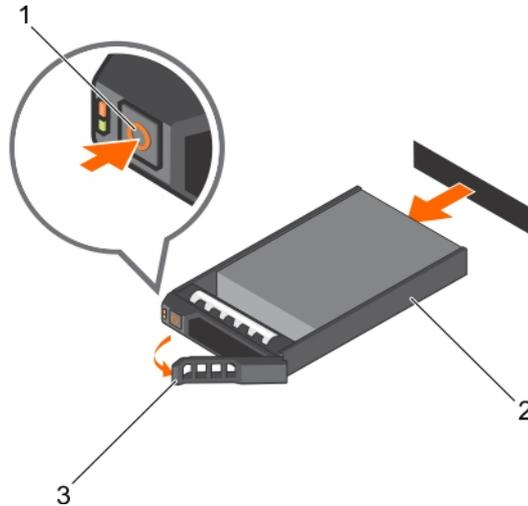


図 71. ホットスワップ対応ハードドライブまたは SSD の取り外し

- a. リリースボタン
- b. ハードドライブまたは SSD キャリア
- c. ハードドライブまたは SSD キャリアのハンドル

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

オプションの前面ベゼルの取り外し、p. 67

ホットスワップ対応ハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け

前提条件

- △ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。
- △ **注意:** ハードドライブバックプレーン用として使用が認められているテスト済みのハードドライブのみを使用してください。
- △ **注意:** ハードドライブの取り付け時は、隣接するドライブが完全に取り付けられていることを確認してください。完全に取り付けられていないキャリアの隣にハードドライブキャリアを挿入してハンドルをロックしようとする、完全に取り付けられていないキャリアのシールドバネが損傷し、使用できなくなる可能性があります。
- △ **注意:** データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップによるドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いの OS のマニュアルを参照してください。
- △ **注意:** ホットスワップ対応の交換用ドライブを取り付け、システムの電源を入れると、ドライブの再構築が自動的に始まります。交換用ドライブが空であるか、上書きするデータが含まれていることを確認します。交換用ドライブ上のデータはすべて、ドライブの取り付け後ただちに失われます。

手順

1. ハードドライブダミーがハードドライブスロットに取り付けられている場合は、取り外してください。
2. ハードドライブキャリアにハードドライブを取り付けます。

3. ハードドライブキャリア前面のリリースボタンを押して、ハードドライブキャリアのハンドルを開きます。
4. ハードドライブキャリアがバックプレーンに接続されるまで、キャリアをハードドライブスロットに挿入します。
5. ハードドライブのキャリアハンドルを閉じて、ハードドライブを所定の位置にロックします。

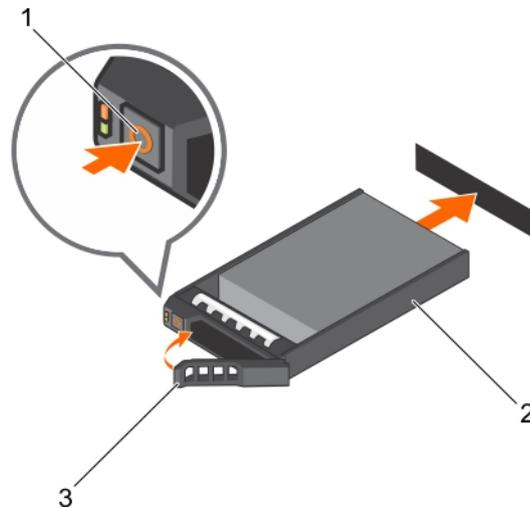


図 72. ホットスワップ対応ハードドライブまたは SSD の取り付け

- a. リリースボタン
- b. ハードドライブまたは SSD キャリア
- c. ハードドライブまたは SSD キャリアのハンドル

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

ホットスワップ対応ハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り外し、 p. 139

ハードドライブキャリアへのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け、 p. 143

2.5 インチハードドライブダミーの取り外し

前提条件

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの安全手順をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

リリースボタンを押し、ハードドライブダミーをハードドライブスロットから引き出します。

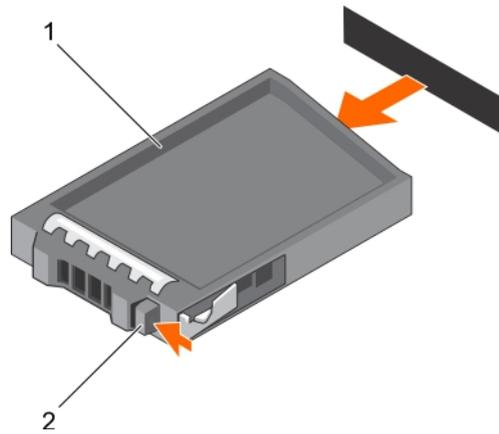


図 73. 2.5 インチハードドライブダミーの取り外し

- a. ハードドライブダミー
- b. リリースボタン

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

オプションの前面ベゼルの取り外し、 p. 67

2.5 インチハードドライブダミーの取り付け、 p. 142

2.5 インチハードドライブダミーの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

リリースボタンが所定の位置にカチッと収まるまで、ハードドライブダミーをハードドライブスロットに差し込みます。

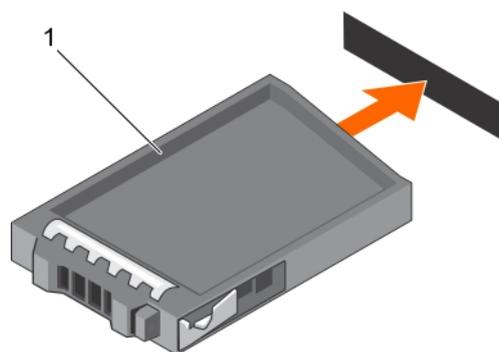


図 74. 2.5 インチハードドライブダミーの取り付け

- a. ハードドライブダミー

次の手順

前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

オプションの前面ベゼルの取り外し、p. 67

オプションの前面ベゼルの取り付け、p. 67

2.5 インチハードドライブダミーの取り外し、p. 141

ハードドライブキャリアからのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り外し

前提条件

1. #1 プラスドライバーを準備しておきます。
2. システムからホットスワップ対応ハードドライブキャリアを取り外します。

手順

1. ハードドライブキャリアのスライドレールからネジを外します。
2. ハードドライブを持ち上げてハードドライブキャリアから取り出します。

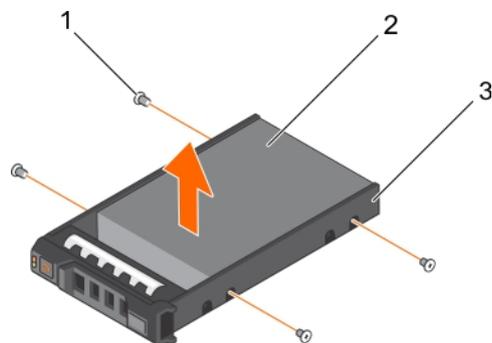


図 75. ハードドライブキャリアからのハードドライブの取り外し

- a. ネジ (4)
- b. ハードドライブ
- c. ハードドライブキャリア

次の手順

該当する場合は、ハードドライブをハードドライブキャリアに取り付けます。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

ハードドライブキャリアへのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け、p. 143

ハードドライブキャリアへのハードドライブまたはソリッドステートドライブの取り付け

前提条件

手順

1. ハードドライブのコネクタ側をキャリアの後部に向けて、ハードドライブをハードドライブキャリアに挿入します。
2. ハードドライブのネジ穴をハードドライブキャリアのネジ穴に合わせます。
正しく揃うと、ハードドライブの背面がハードドライブキャリアの背面と同一面に揃います。

3. ネジを取り付けて、ハードドライブをハードドライブキャリアに固定します。

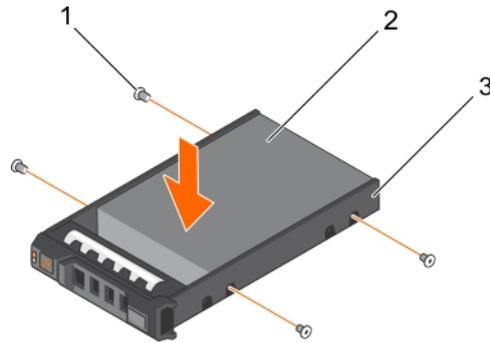


図 76. ハードドライブキャリアへのハードドライブの取り付け

- a. ネジ (4)
- b. ハードドライブ
- c. ハードドライブキャリア

次の手順

ホットスワップ対応ハードドライブキャリアを取り付けます。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

光学ドライブ (オプション)

光学ドライブは、データを取得して、CD や DVD などの光学ディスク上に保管します。光学ドライブは、光学ディスクの読取装置と光学ディスクの書き込み装置の 2 つの基本的なタイプに分類することができます。

光学ドライブの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブの背面から外します。

① メモ: 電源とデータのケーブルをシステム基板およびドライブから外す際は、システム側面のケーブル配線をメモするようにしてください。ケーブルが挟まれたり折れ曲がったりすることを避けるため、再配線時にはケーブルを正しく配線してください。

2. 光学ドライブを取り外すには、リリースタブを押します。
3. 光学ドライブスロットから外れるまで、光学ドライブをシステムから引き出します。
4. 新しい光学ドライブを追加しない場合は、光学ドライブダミーを取り付けます。光学ドライブダミーの取り付け方法は光学ドライブの取り付け方法と同じです。

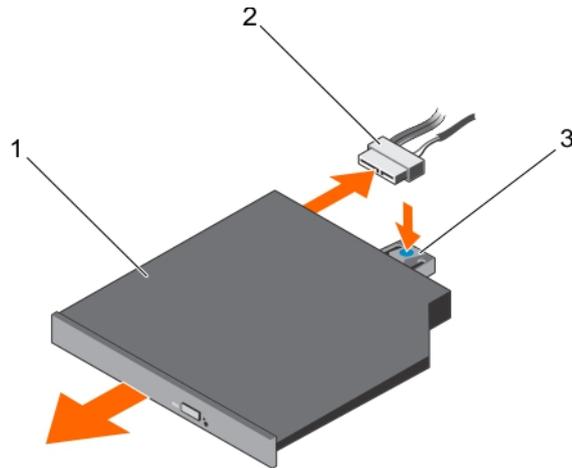


図 77. オプションの光学ドライブの取り外し

- a. 光学ドライブ
- b. 電源 / データケーブル
- c. リリースタブ

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、 p. 66
- スリム光学ドライブダミーの取り付け、 p. 147
- システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

光学ドライブの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 光学ドライブダミーが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

1. 光学ドライブをシャーシ前面の光学ドライブスロットに合わせます。
2. リリースタブが所定の位置に収まるまで、光学ドライブを押し込みます。
3. 電源とデータのケーブルを光学ドライブとシステム基板に接続します。

i **メモ:** ケーブルが挟まれたり折れ曲がったりしないように、システムの側面に正しく配線します。

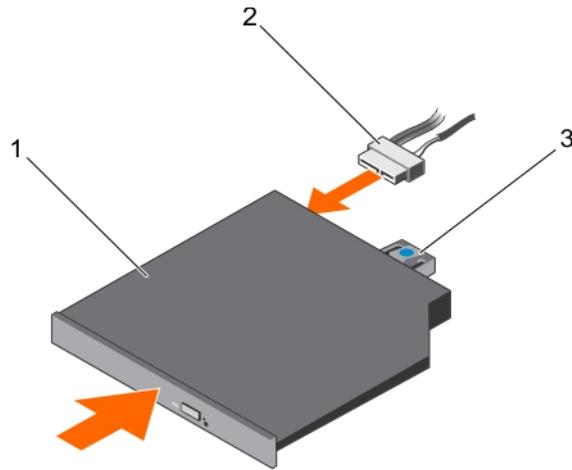


図 78. オプションの光学ドライブの取り付け

- a. 光学ドライブ
- b. 電源 / データケーブル
- c. リリースタブ

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

スリム光学ドライブダミーの取り外し

前提条件

△注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. システム内部のスリム光学ドライブダミーロックのタッチポイントの位置を確認します。
2. ロックを押し、スリム光学ドライブダミーをシャーシから引き出します。

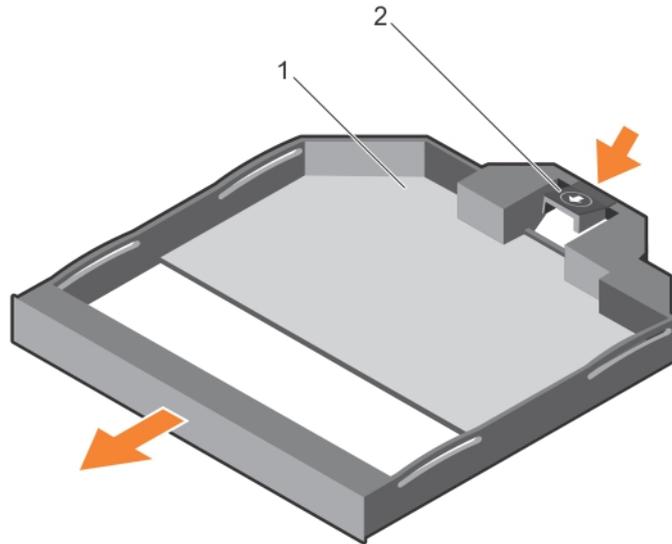


図 79. スリム光学ドライブダミーの取り外し

- a. スリム光学ドライブダミー
- b. 光学ドライブダミーロック

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

スリム光学ドライブダミーの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全手順に従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

手順

1. スリム光学ドライブダミーをスリム光学ドライブベイに揃えます。
2. ロックが所定の位置に固定されるまで、光学ドライブダミーを光学ドライブベイに挿入します。

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

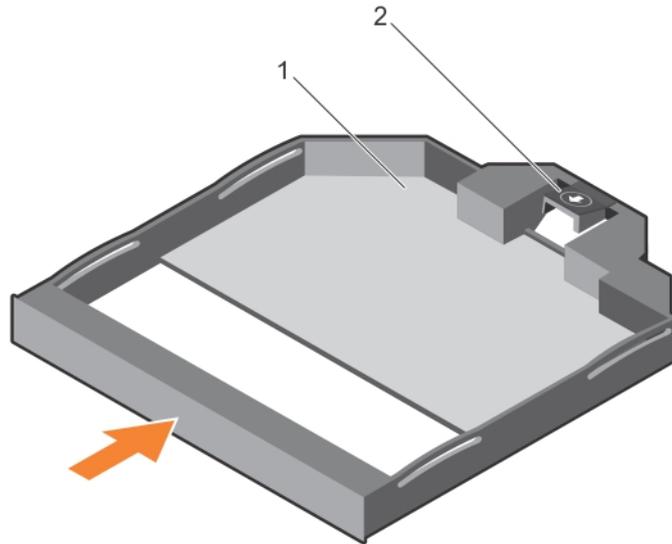


図 80. スリム光学ドライブダミーの取り付け

1. スリム光学ドライブダミー
2. 光学ドライブダミーロック

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

ハードドライブバックプレーン

お使いのシステムは以下をサポートしています。

- 2.5 インチ (x16) SAS/SATA バックプレーン、または
- 2.5 インチ (x8) SAS/SATA バックプレーン

ハードドライブバックプレーンの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. 冷却エアフローカバーを取り外します。
4. 冷却ファンアセンブリを取り外します。
5. すべてのハードドライブを取り外します。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** ドライブおよびバックプレーンの損傷を防ぐため、バックプレーンを取り外す前にハードドライブをシステムから取り外す必要があります。

△ **注意:** 後で同じ場所に取り付けることができるように、取り外す前に各ハードドライブの番号を書き留め、一時的にラベルを貼っておきます。

手順

1. バックプレーンから SAS/SATA データ、信号、電源ケーブルを外します。
2. リリースタブを押し、バックプレーンを上方向に持ち上げて、シャーシの背面に向かってスライドさせます。

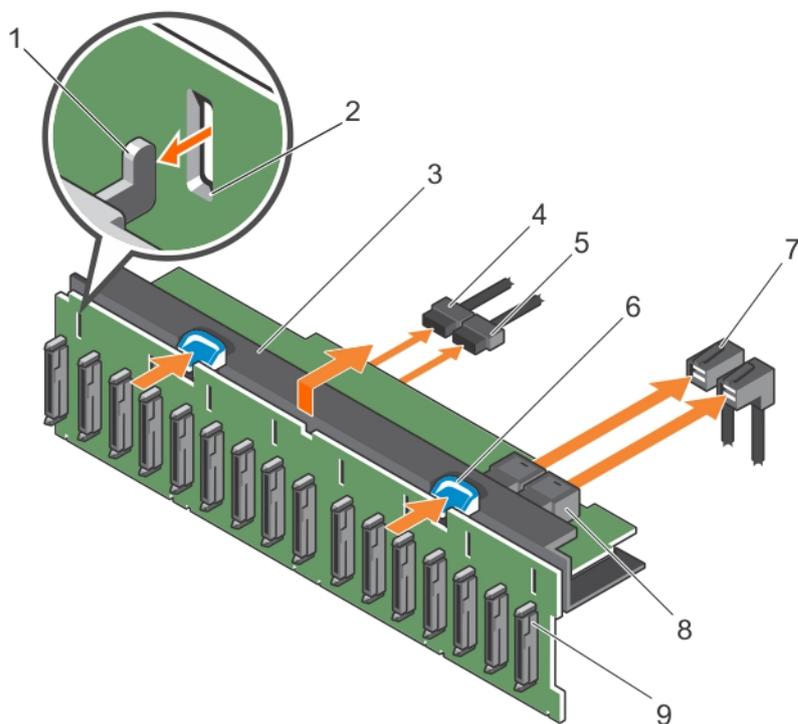


図 81. 2.5 インチ (x16) SAS/SATA バックプレーンの取り外し

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. フック (3) | 2. 固定スロット (3) |
| 3. ハードドライブバックプレーン | 4. バックプレーン電源ケーブル |
| 5. バックプレーン信号ケーブル | 6. リリースタブ (2) |
| 7. SAS ケーブル (2) | 8. ミニ SAS コネクタ (2) |
| 9. バックプレーン上のハードドライブコネクタ | |

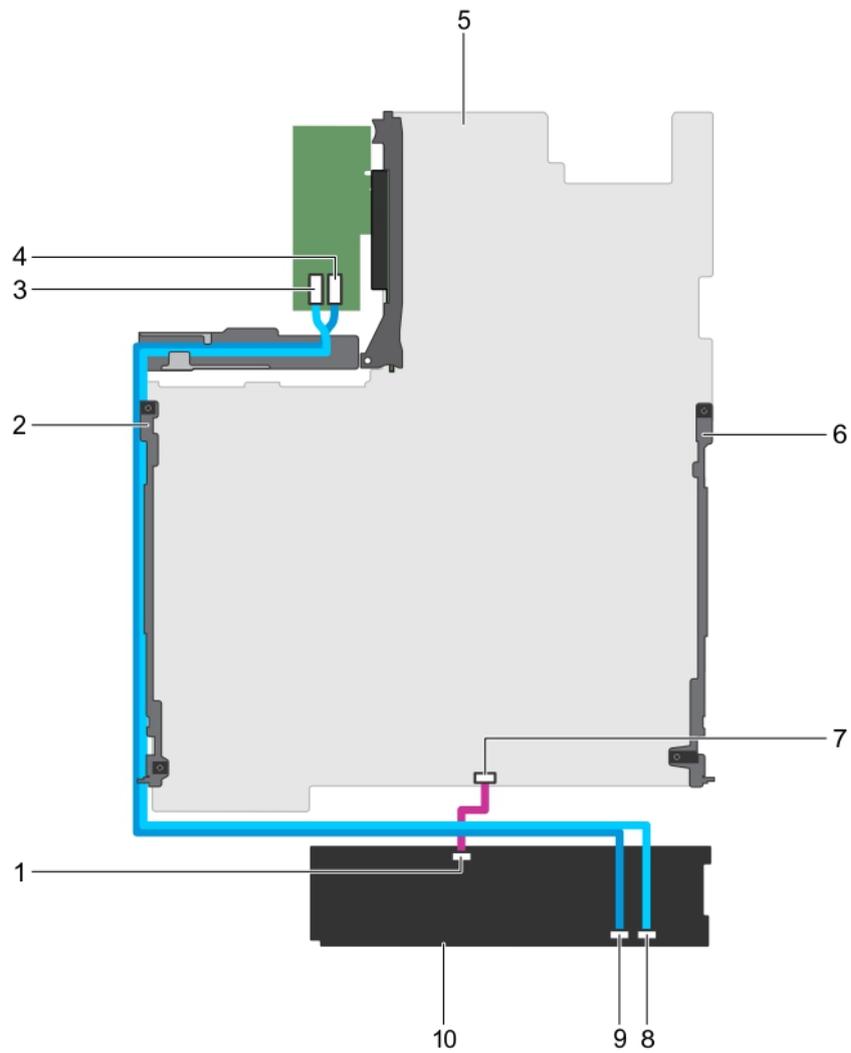


図 82. ケーブル配線図 — 2.5 インチ (x16) SAS/SATA バックプレーン

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. バックプレーン上の通信コネクタ | 2. ケーブル固定ブラケット |
| 3. PERC カード上の SAS B コネクタ | 4. PERC カード上の SAS A コネクタ |
| 5. システム基板 | 6. ケーブル固定ブラケット |
| 7. システム基板上の信号コネクタ | 8. バックプレーン上の SAS B コネクタ |
| 9. バックプレーン上の SAS A コネクタ | 10. ハードドライブバックプレーン |

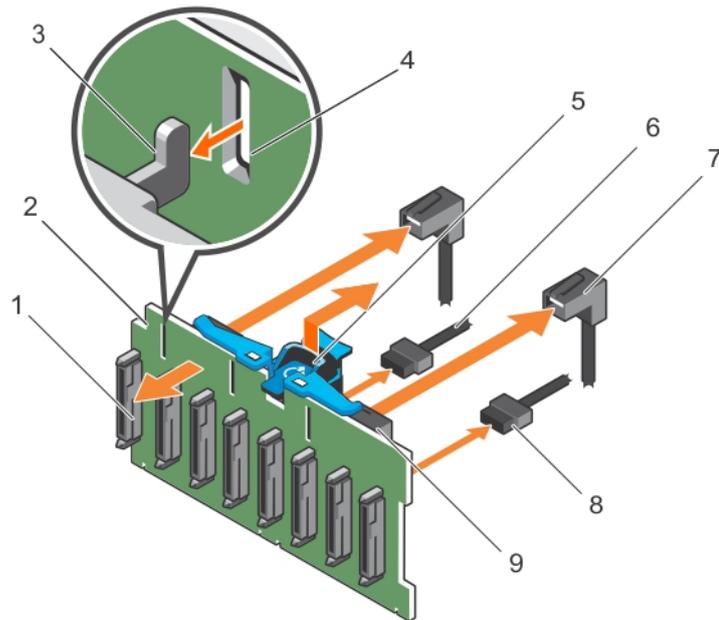


図 83. 2.5 インチ (x8) SAS/SATA バックプレーンの取り外し

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. バックプレーン上のハードドライブコネクタ | 2. ハードドライブバックプレーン |
| 3. フック (3) | 4. 固定スロット (3) |
| 5. リリースタブ | 6. バックプレーン電源ケーブル |
| 7. SAS ケーブル (2) | 8. バックプレーン信号ケーブル |
| 9. ミニ SAS コネクタ (2) | |

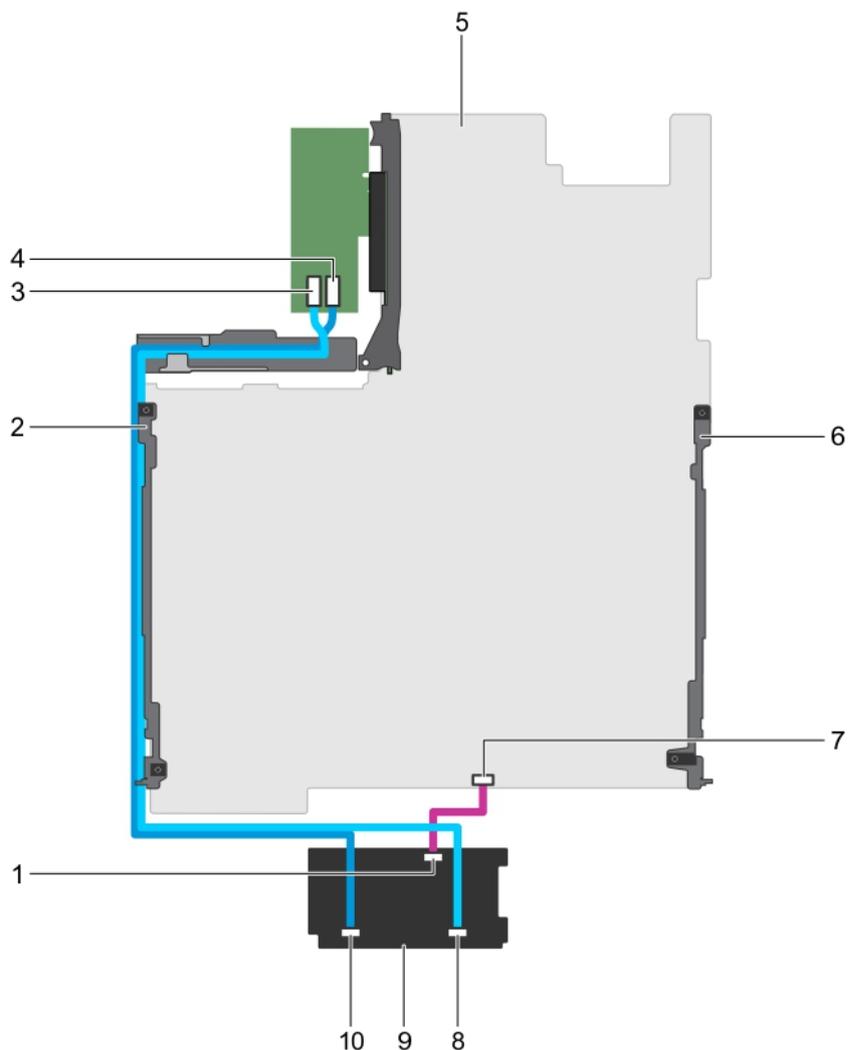


図 84. ケーブル配線図 — 2.5 インチ (x8) SAS/SATA バックプレーン

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. バックプレーン上の通信コネクタ | 2. ケーブル固定ブラケット |
| 3. PERC カード上の SAS B コネクタ | 4. PERC カード上の SAS A コネクタ |
| 5. システム基板 | 6. ケーブル固定ブラケット |
| 7. システム基板上の信号コネクタ | 8. バックプレーン上の SAS B コネクタ |
| 9. ハードドライブバックプレーン | 10. バックプレーン上の SAS A コネクタ |

次の手順

1. ハードドライブバックプレーンを取り付けます。
2. 冷却ファンアセンブリを取り付けます。
3. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
4. すべてのハードドライブを取り付けます。
5. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

冷却エアフローカバーの取り外し、p. 78

冷却ファンアセンブリーの取り外し、p. 82

ハードドライブバックプレーンの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

△注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. SAS/SATA/SSD のデータ、信号、および電源ケーブルをバックプレーンに接続します。
2. シャーシのフックをガイドとして使用し、ハードドライブバックプレーンの位置を合わせます。
3. リリースタブが所定の位置に固定されるまで、ハードドライブバックプレーンを下ろします。

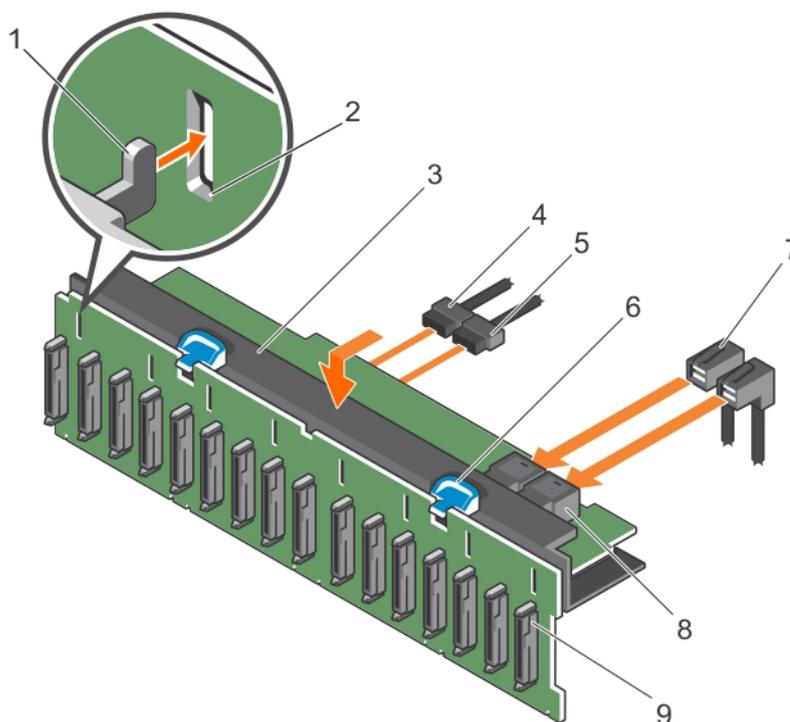


図 85. 2.5 インチ (x16) SAS/SATA バックプレーンの取り付け

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. フック (3) | 2. 固定スロット (3) |
| 3. ハードドライブバックプレーン | 4. バックプレーン電源ケーブル |
| 5. バックプレーン信号ケーブル | 6. リリースタブ (2) |
| 7. SAS ケーブル (2) | 8. ミニ SAS コネクタ (2) |
| 9. バックプレーン上のハードドライブコネクタ | |

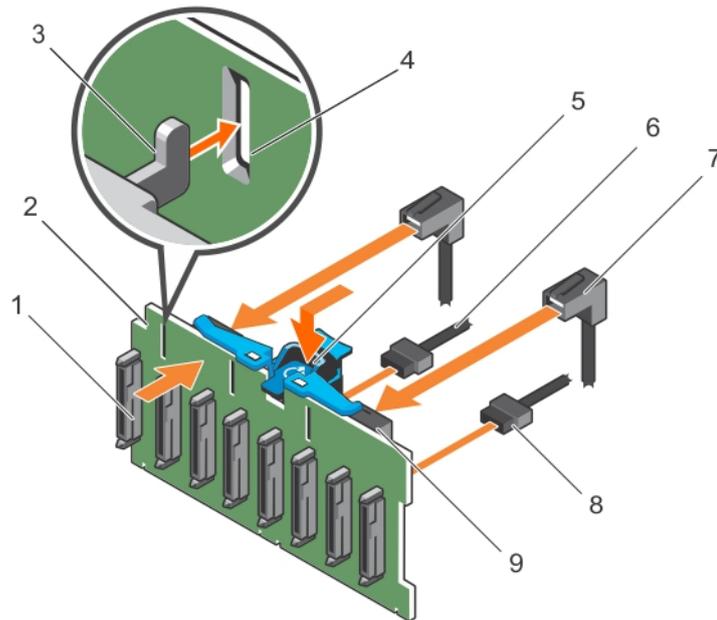


図 86. 2.5 インチ (x8) SAS/SATA バックプレーンの取り付け

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. バックプレーン上のハードドライブコネクタ | 2. ハードドライブバックプレーン |
| 3. フック (3) | 4. 固定スロット (3) |
| 5. リリースタブ | 6. バックプレーン電源ケーブル |
| 7. SAS ケーブル (2) | 8. バックプレーン信号ケーブル |
| 9. ミニ SAS コネクタ (2) | |

次の手順

1. ハードドライブを元の場所に取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

ハードドライブ、p. 138

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

コントロールパネル

コントロールパネルには、電源ボタン、診断インジケータ、前面 USB ポートが含まれています。

コントロールパネルの取り外し

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
3. #2 プラスドライブをお手元にご用意ください。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. #2 プラスドライバーを使用して、コントロールパネルをシャーシに固定しているネジを外します。

△ 注意: コントロールパネルを外す際に無理な力を加えないように注意してください。コネクタが損傷するおそれがあります。

2. コントロールパネルをシステム基板を接続しているすべてのケーブルを外します。

① メモ: USB 電源ケーブルを取り外す前に、冷却ファンアセンブリを取り外すようにしてください。

3. システムの内側からコントロールパネルを押してシャーシから取り外します。

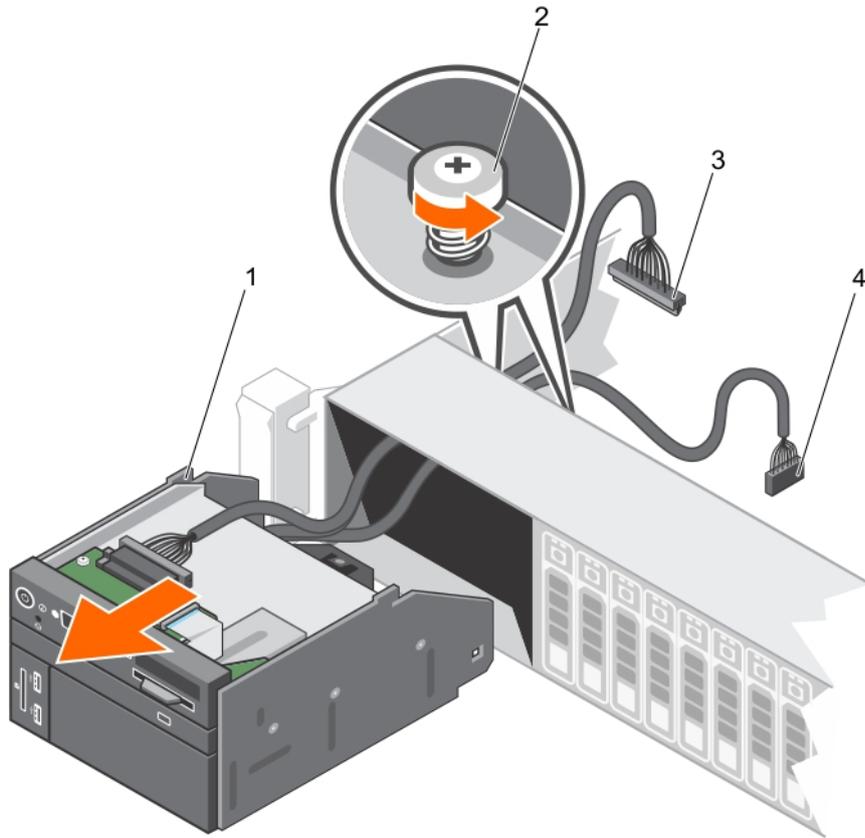


図 87. コントロールパネルの取り外し

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. コントロールパネル | 2. ネジ (2) |
| 3. コントロールパネルコネクタケーブル | 4. USB コネクタケーブル |

4. vFlash コネクタ / USB コネクタモジュールは、次の手順でコントロールパネルから取り外すことができます。

- コントロールパネルケーブルをコントロールパネルから外します。
- vFlash コネクタ / USB コネクタモジュールをコントロールパネルに取り付けるネジを外します。
- vFlash コネクタ / USB コネクタモジュールを引いて、コントロールパネルモジュールから外します。

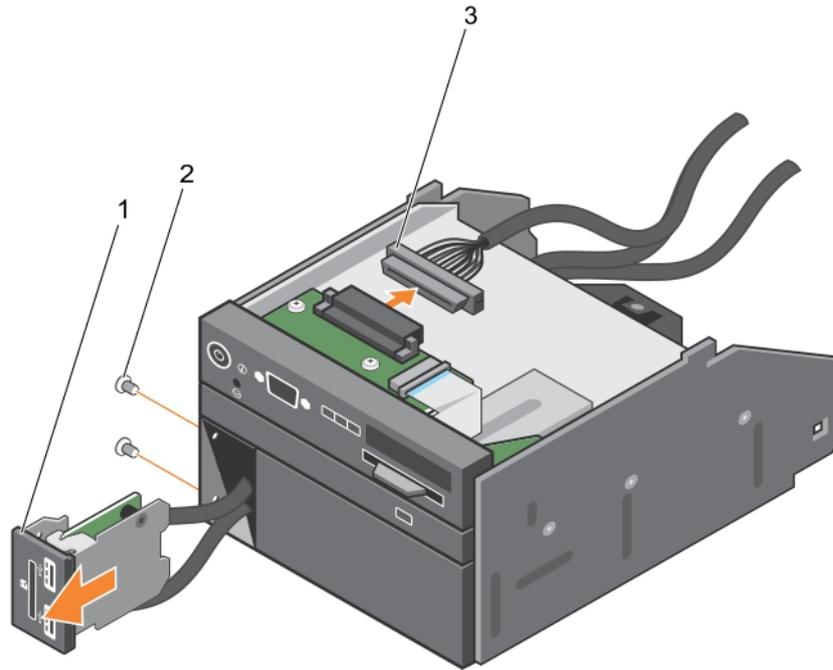


図 88. vFlash コネクタ /USB コネクタモジュールの取り外し

- i. vFlash コネクタ /USB コネクタモジュール
- ii. ネジ (2)
- iii. コントロールパネルコネクタケーブル

5. 情報タグのタブの位置を確認し、タブを押します。
6. 情報タグをスロットから押し出し、コントロールパネルから取り外します。

① **メモ:** 情報タグは新しいコントロールパネルに取り付けるために取っておきます。

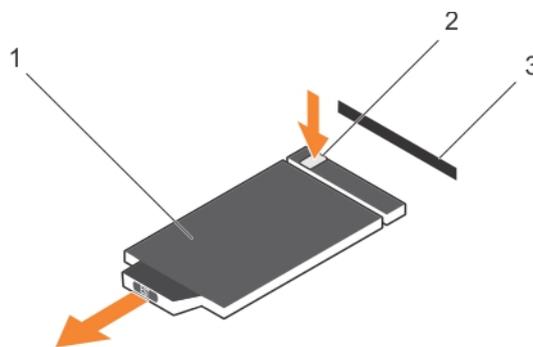


図 89. 情報タグの取り外し

- a. 情報タグ
- b. タブ
- c. スロット

次の手順

1. vFlash コネクタ /USB コネクタモジュールを取り付けます。
2. コントロールパネルを取り付けます。
3. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

- システム内部の作業を始める前に、 p. 66
- コントロールパネルの取り付け、 p. 157
- システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

コントロールパネルの取り付け

前提条件

- 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
- 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。
- #2 ブラソドライバを準備しておきます。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

- 新しいコントロールパネルに付いているダミーの情報タグを古いコントロールパネルから取り外した情報タグと交換します。
① メモ: 情報タグには、サービスタグ、NIC、MAC アドレス等のシステム情報が記載されています。
- vFlash コネクタ /USB コネクタモジュールが取り外されている場合は、次の手順でコントロールパネルに取り付けます。
 - コントロールパネルケーブルをコントロールパネルに接続します。
 - vFlash コネクタ /USB コネクタモジュールをコントロールパネルに取り付けるネジを取り付けます。

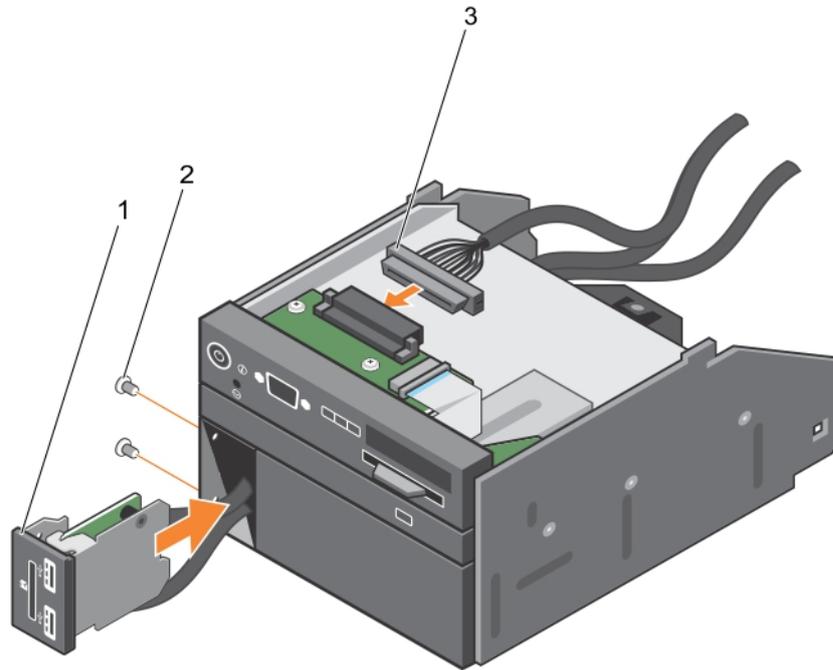


図 90. vFlash コネクタ /USB コネクタモジュールの取り付け

- vFlash コネクタ /USB コネクタモジュール
 - ネジ (2)
 - コントロールパネルコネクタケーブル
- 情報タグを取り付けるには、コントロールパネルスロットに挿入してください。
 - 適切なケーブルをすべてシステム基板に接続します。

メモ: USB 電源ケーブルを取り付ける前に、冷却ファンアセンブリを取り外すようにしてください。

5. コントロールパネルをシャーシ内のスロットに挿入し、モジュールをネジで固定します。

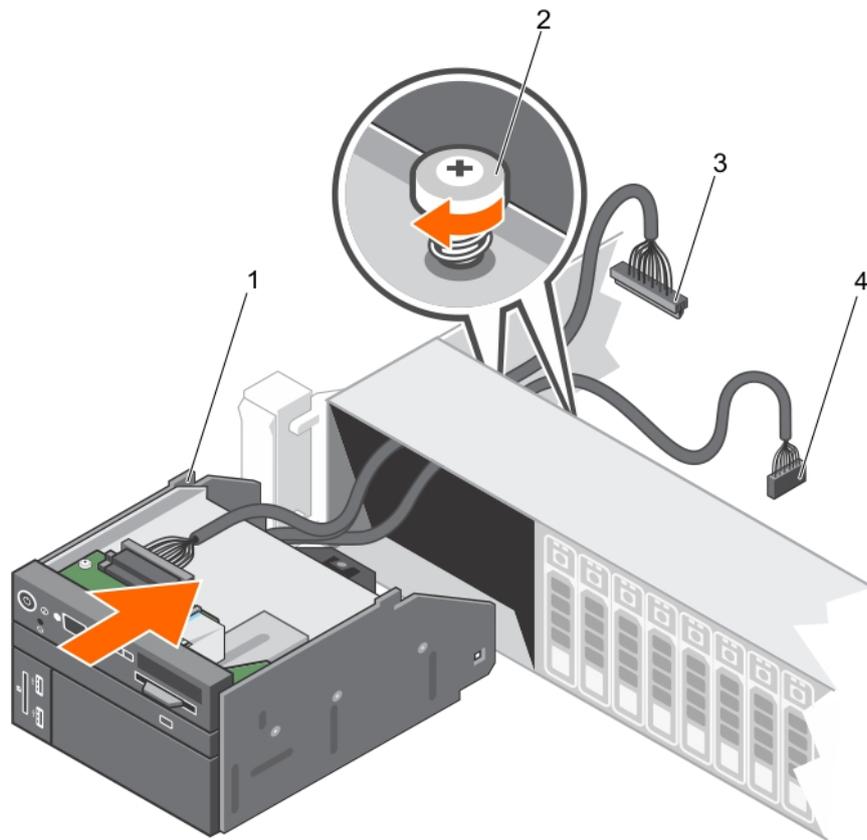


図 91. コントロールパネルの取り付け

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. コントロールパネル | 2. ネジ (2) |
| 3. コントロールパネルコネクタケーブル | 4. USB コネクタケーブル |

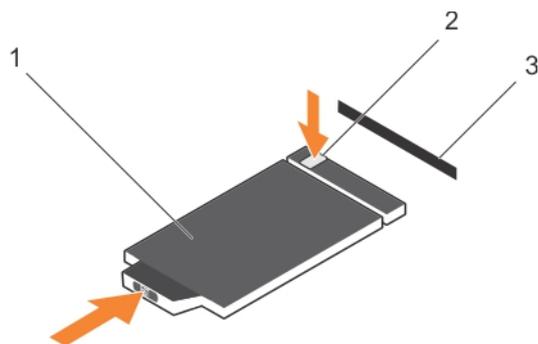


図 92. 情報タグの取り付け

- a. 情報タグ
- b. タブ
- c. スロット

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

システム基板

システム基板（「マザーボード」とも呼ばれる）は、システムの異なるコンポーネントまたは周辺機器の接続に使用するさまざまなコネクタがある、メインのプリント回路基板です。システム基盤は、システムのコンポーネントと電気接続しており、通信を行います。

システムボードの取り外し

前提条件

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** 暗号化キーと共に TPM (Trusted Platform Module) を使用している場合は、プログラムまたはシステムのセットアップ中にリカバリ キーの作成を求められることがあります。このリカバリキーを作成して安全な場所に保管するようにしてください。このシステムボードを交換する場合、ハードドライブ上の暗号化データにアクセスするために、システムまたはプログラムを再起動する時に、リカバリ キーを入力する必要があります。

△ **注意:** システムボードから TPM プラグインモジュールを取り外さないようにしてください。TPM プラグインモジュールは取り付け後、その特定のシステムボードに暗号バインドされます。取り付け済みの TPM プラグインモジュールを取り外すと、暗号形式バインドが壊れて、再度取り付けることも別のシステムボードに取り付けることもできなくなります。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。
3. 以下のコンポーネントを取り外します。
 - a. プロセッサ拡張モジュール（取り付けられている場合）
 - b. 冷却エアフローカバー（取り付けられている場合）
 - c. 冷却ファンアセンブリー。
 - d. 電源供給ユニット
 - e. すべての拡張カードライザー
 - f. 内蔵ストレージコントローラーカード
 - g. 内蔵デュアル SD モジュール
 - h. 内蔵 USB キー（取り付けられている場合）
 - i. PCIe カードホルダー
 - j. ヒートシンクまたはヒートシンクダミー
 - k. プロセッサまたはプロセッサダミー
 - △ **注意:** 障害が発生したシステムボードを交換する際には、プロセッサピンへの損傷を防ぐため、必ずプロセッサ保護キャップでプロセッサソケットをカバーしてください。。
 - l. メモリーモジュールとメモリーモジュールのダミーカード
 - m. ネットワークドーターカード

手順

1. システムボードからすべてのケーブルを外します。

△ **注意:** システムボードをシャーシから取り外す際には、システム識別ボタンに損傷を与えないように注意してください。

△ **注意:** システム基板は、メモリーモジュール、プロセッサ、またはその他のコンポーネントを持って持ち上げないでください。
2. システムボードホルダーをつかみ、青色のリリースピンとシステムボードを持ち上げて、シャーシの前方にスライドさせます。システムボードをシャーシの前方にスライドさせ、コネクタをシャーシ背面のスロットから外します。

3. システム ボードをシャーシから持ち手取り外します。

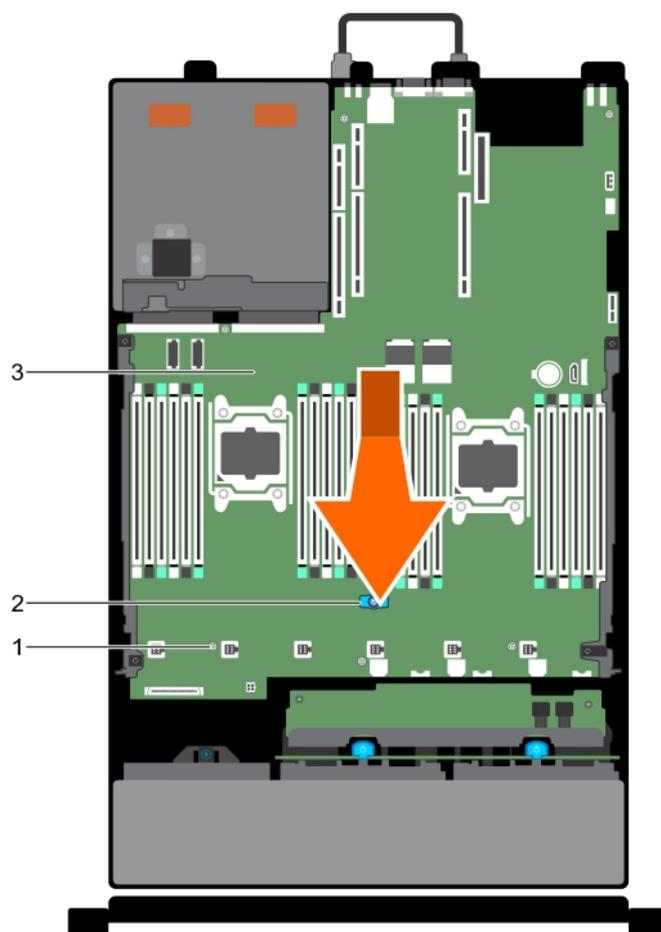


図 93. システム ボードの取り外し

- a. 蝶ネジ
- b. システム ボードホルダー
- c. システム ボード

次の手順

1. システム ボードを取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、 p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、 p. 66

システム ボードの取り付け、 p. 160

システム内部の作業を終えた後に、 p. 66

システム ボードの取り付け

前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。

2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 新しいシステム ボードアセンブリーのパッケージを開きます。

注意: システム基板は、メモリモジュール、プロセッサ、またはその他のコンポーネントを持って持ち上げないでください。

注意: システム ボードをシャーシに取り付ける際には、システム識別ボタンに損傷を与えないように注意してください。

2. タッチポイントを持って、システム ボードをシャーシ内に下します。

3. 所定の位置にカチッと固定されるまで、システム ボードをシャーシの後方へ押し込みます。

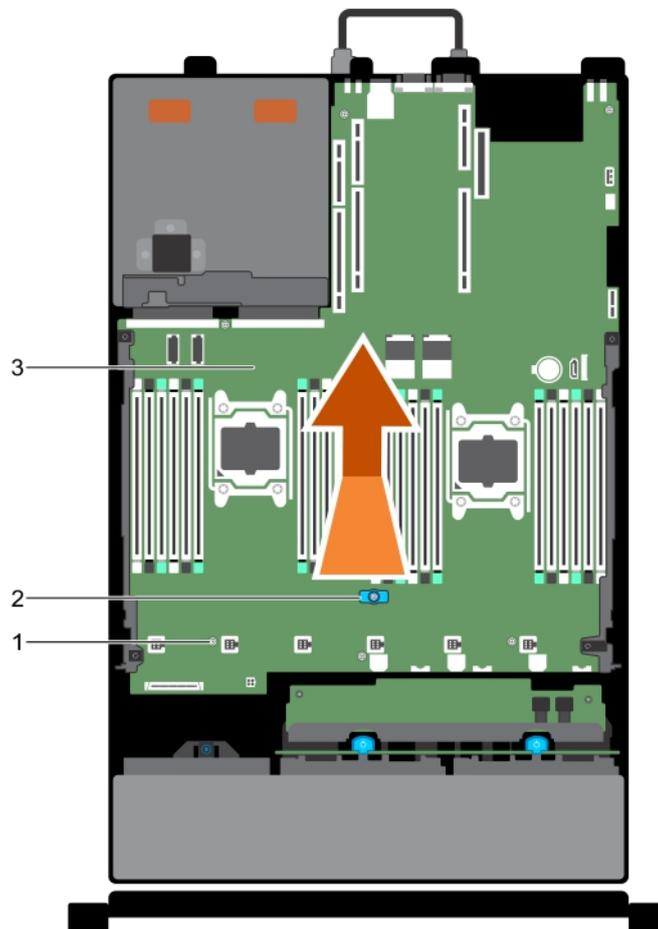


図 94. システム ボードの取り外し

- a. 蝶ネジ
- b. システム ボードホルダー
- c. システム ボード

次の手順

1. TPM (信頼済みプラットフォーム モジュール) をインストールします。TPM を取り付ける方法の詳細については、「Trusted Platform Module の取り付け」の項を参照してください。

メモ: TPM プラグイン モジュールがシステム ボードに取り付けられているため、取り外せません。TPM プラグイン モジュールが取り付けられた場合、TPM プラグイン モジュールを交換するとシステム ボードをすべて交換することになります。

2. 次のコンポーネントを取り付けます。

- a. ケーブル固定ブラケット
- b. PCIe カードホルダー
- c. 内蔵ストレージコントローラー カード
- d. 内蔵 USB キー (該当する場合)
- e. 内蔵デュアル SD モジュール
- f. すべての拡張カードライザー
- g. ヒートシンクまたはヒートシンクダミー
- h. プロセッサまたはプロセッサダミー
- i. メモリーモジュールとメモリーモジュールのダミーカード
- j. ネットワークドーターカード
- k. 冷却ファンアセンブリー
- l. 冷却エアフローカバー (取り付けられている場合)
- m. 電源供給ユニット
- n. プロセッサ拡張モジュール (該当する場合)

3. すべてのケーブルをシステムボードに再接続します。

メモ: システム内のケーブルがシャーシ側面に沿って配線され、ケーブル固定ブラケットで固定されていることを確認します。

4. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

5. 次の手順を実行していることを確認してください:

- a. Easy Restore 機能を使用して、サービスタグ、iDRAC ライセンス、BIOS 設定、オンボード診断、およびオプションのパーソナリティモジュールまたは ID モジュールを復元します。詳細については、「Easy Restore」の項を参照してください。Easy Restore が何らかの理由で実行されない場合は、次の操作を行う必要があります。
 - i. サービスタグを手動で入力します。詳細については、「システムのサービスタグの入力」の項を参照してください。
 - ii. 新規または既存の iDRAC Enterprise ライセンスをインポートします。詳細については、<https://www.dell.com/esmanuals> の「Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド」を参照してください。
- b. BIOS および iDRAC のバージョンをアップデートします。
- c. Trusted Platform Module (TPM) を再度有効にします。詳細については、「Trusted Platform Module (TPM) の再有効化」の項を参照してください。

関連参照文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

システムボードの取り外し、p. 159

簡易復元機能を使用したサービスタグの復元、p. 163

システムセットアップを使用したシステムサービスタグの入力、p. 162

TXT ユーザー向け TPM の初期化、p. 164

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

システムセットアップを使用したシステムサービスタグの入力

Easy Restore (簡単な復元) がサービスタグの復元に失敗した場合は、システムセットアップユーティリティーを使用してサービスタグを入力します。

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. F2 キーを押して System Setup (セットアップユーティリティー) を起動します。
3. サービスタグ設定をクリックします。
4. サービスタグを入力します。

メモ: サービス タグ (サービス タグ) フィールドが空白の場合のみ、サービス タグを入力できます。正しいサービス タグを入力してください。一度サービス タグが入力されると、更新または変更できません。

5. **OK** をクリックします。
6. 新規または既存の iDRAC Enterprise ライセンスをインポートします。
詳細については、www.dell.com/poweredge manuals で *Integrated Dell Remote Access Controller ユー ザーズ ガイド* を参照してください。

簡易復元機能を使用したサービスタグの復元

簡易復元機能を使用すると、システム基板を交換した後もお使いのサービスタグ、ライセンス、UEFI 構成、およびシステムの設定データを復元できます。すべてのデータは自動的にバックアップフラッシュデバイスに自動的にバックアップされます。BIOS がバックアップフラッシュデバイスで新しいシステム基板とサービスタグを検知したら、BIOS がユーザーにバックアップ情報を復元するプロンプトを表示します。

手順

1. システムの電源を入れます。
BIOS が新しいシステム基板を検出した場合、またサービスタグがバックアップフラッシュデバイスにある場合、BIOS はサービスタグ、ライセンスのステータス、および **UEFI 診断** バージョンを表示します。
2. 次のいずれかの手順を実行します。
 - **[Y]** を押して、サービスタグ、ライセンス、および診断情報を復元します。
 - **[N]** を押して、Dell Lifecycle Controller ベースのリストアオプションに移動します。
 - **<F10>** を押して、前に作成した **Hardware Server Profile** (ハードウェアサーバープロファイル) からデータを復元します。復元プロセスが完了したら、BIOS はシステムの設定データの復元を促すプロンプトを表示します。
3. 次のいずれかの手順を実行します。
 - **[Y]** を押して、システムの設定データを復元します。
 - **[N]** を押して、デフォルトの構成設定を使用します。復元プロセスが完了すると、システムが再起動します。

Trusted Platform Module

Trusted Platform Module (TPM) は、暗号化キーをデバイスに統合することによってハードウェアをセキュアにするために設計された専用マイクロプロセッサです。ソフトウェアは Trusted Platform Module を使用してハードウェアデバイスを認証できます。各 TPM チップには、製造時に固有のシークレット RSA キーが焼き付けられており、プラットフォーム認証を実行することができます。

注意: Trusted Platform Module (TPM) をシステム基板から取り外そうとしないでください。TPM が取り付けられると、取り付けた先のシステム基板に、暗号形式でバインドされます。取り付け済みの TPM を取り外そうとすると、暗号によるバインドが壊れるため、再度取り付けることも他のシステム基板に取り付けることもできなくなります。

メモ: これは、フィールド交換可能ユニット (FRU) です。取り外しおよび取り付け手順は、Dell の認定を受けたサービス技術者のみが行う必要があります。

Trusted Platform Module の取り付け

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

手順

1. システム ボードの TPM コネクタの位置を確認します。

メモ: システム基板上の TPM コネクタを見つけるには、「システム基板コネクタ」の項を参照してください。

2. TPM のエッジコネクタを TPM コネクタのスロットの位置に合わせます。
3. プラスチック製のリベットがシステム ボードのスロットに合うように、TPM を TPM コネクタに挿入します。
4. 所定の位置に収まるまでプラスチック製のリベットを押します。

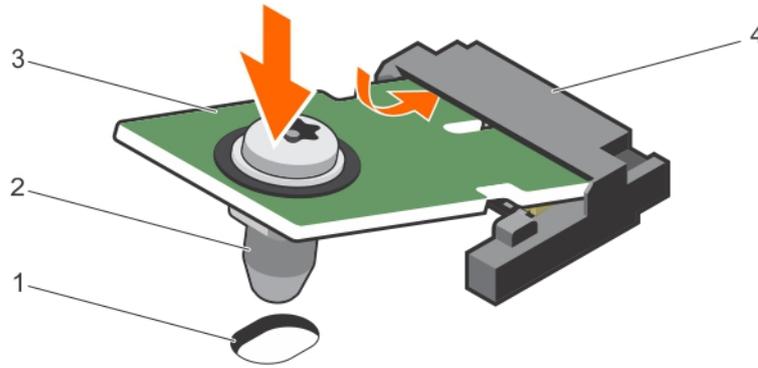


図 95. TPM の取り付け

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. システム基板上のリベットスロット | 2. プラスチック製リベット |
| 3. TPM | 4. TPM コネクター |

次の手順

1. システム ボードを取り付けます。
2. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。

関連参考文献

安全にお使いいただくために、p. 65

関連タスク

システム内部の作業を始める前に、p. 66

システム ボードの取り付け、p. 160

システム内部の作業を終えた後に、p. 66

BitLocker ユーザー向け TPM の初期化

手順

TPM を初期化します。

TPM の初期化の詳細については、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753140.aspx> を参照してください。

TPM Status (TPM ステータス) は **Enabled, Activated** (有効、アクティブ) に変更されます。

TXT ユーザー向け TPM の初期化

手順

1. システムの起動時に F2 を押して、セットアップユーティリティを起動します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) > **System Security Settings** (システムセキュリティ設定) をクリックします。

3. **TPM Security** (TPM セキュリティ) オプションで、 **On with Pre-boot Measurements** (起動前測定でオン) を選択します。
4. **TPM Command** (TPM コマンド) オプションで、 **Activate** (アクティブ化) を選択します。
5. 設定を保存します。
6. システムを再起動します。
7. **System Setup** (セットアップユーティリティ) を再起動します。
8. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で、 **System BIOS** (システム BIOS) > **System Security Settings** (システムセキュリティ設定) をクリックします。
9. **Intel TXT** (Intel TXT) オプションで、 **On** (オン) を選択します。

システム診断プログラムの使用

システムに問題が起こった場合、デルのテクニカルサポートに電話する前にシステム診断プログラムを実行してください。システム診断プログラムを使うと、特別な装置を使用せずにシステムのハードウェアをテストでき、データが失われる心配もありません。お客様がご自分で問題を解決できない場合でも、サービスおよびサポート担当者が診断プログラムの結果を使って問題解決の手助けを行うことができます。

メモ: OEM 診断イベント メッセージの詳細については、『Event and Error Message Reference Guide for 13th Generation Dell PowerEdge Servers Version 1.2』を参照してください。

トピック：

- [Dell 組み込み型システム診断](#)

Dell 組み込み型システム診断

メモ: Dell 組み込み型システム診断は、Enhanced Pre-boot System Assessment (ePSA) 診断としても知られています。

組み込み型システム診断プログラムには、特定のデバイスグループや各デバイス用の一連のオプションが用意されており、以下の処理が可能です。

- テストを自動的に、または対話モードで実行
- テストの繰り返し
- テスト結果の表示または保存
- 詳細なテストで追加のテストオプションを実行し、障害の発生したデバイスに関する詳しい情報を得る
- テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

組み込み型システム診断プログラムを使用する状況

お使いのシステムが起動しない場合に、組み込み型システム診断プログラム (ePSA) を実行します。

起動マネージャからの組み込み型システム診断プログラムの実行

前提条件

お使いのシステムが起動しない場合に、組み込み型システム診断プログラム (ePSA) を実行します。

手順

1. システムの起動中に、F10 を押します。
2. 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、**System Utilities** (システムユーティリティ) > **Launch Diagnostics (Diagnostics (診断) の起動)** を選択します。
ePSA Pre-boot System Assessment (ePSA 起動前システムアセスメント) ウィンドウが表示され、システム内で検知された全デバイスがリストアップされます。Diagnostics (診断) が検知された全デバイスのテストを開始します。

Dell Lifecycle Controller からの組み込み型システム診断プログラムの実行

手順

1. システム起動中に F10 を押します。

2. **Hardware Diagnostics** (ハードウェア診断) → **Run Hardware Diagnostics** (ハードウェア診断の実行) を選択します。
ePSA Pre-boot System Assessment (ePSA 起動前システムアセスメント) ウィンドウが表示され、システム内で検知された全デバイスがリストアップされます。Diagnostics (診断) が検知された全デバイスのテストを開始します。

システム診断プログラムのコントロール

メニュー	説明
Configuration	検知された全デバイスの設定およびステータス情報が表示されます。
Results	実行された全テストの結果が表示されます。
システム正常	システムパフォーマンスの現在の概要が表示されます。
Event log	システムで実行された全テストの結果のタイムスタンプ付きログが表示されます。少なくとも1つのイベントの説明が記録されていれば、このログが表示されます。

ジャンパとコネクタ

トピック：

- システム基板のジャンパ設定
- システム ボード コネクタ
- パスワードを忘れたとき

システム基板のジャンパ設定

表 36. システム基板のジャンパ設定

ジャンパ	設定	説明
PWRD_EN	 2 4 6 (default)	パスワードリセット機能が有効です (ピン 2~4)。BIOS ローカルアクセスは次の AC 電源サイクルでロック解除されます。
	 2 4 6	パスワードリセット機能が無効です (ピン 4 ~ 6)。
NVRAM_CLR	 1 3 5 (default)	構成設定が次のシステム起動時に保持されます (ピン 3~5)。
	 1 3 5	構成設定がシステム起動時にクリアされます (ピン 1~3)。

システム ボード コネクタ

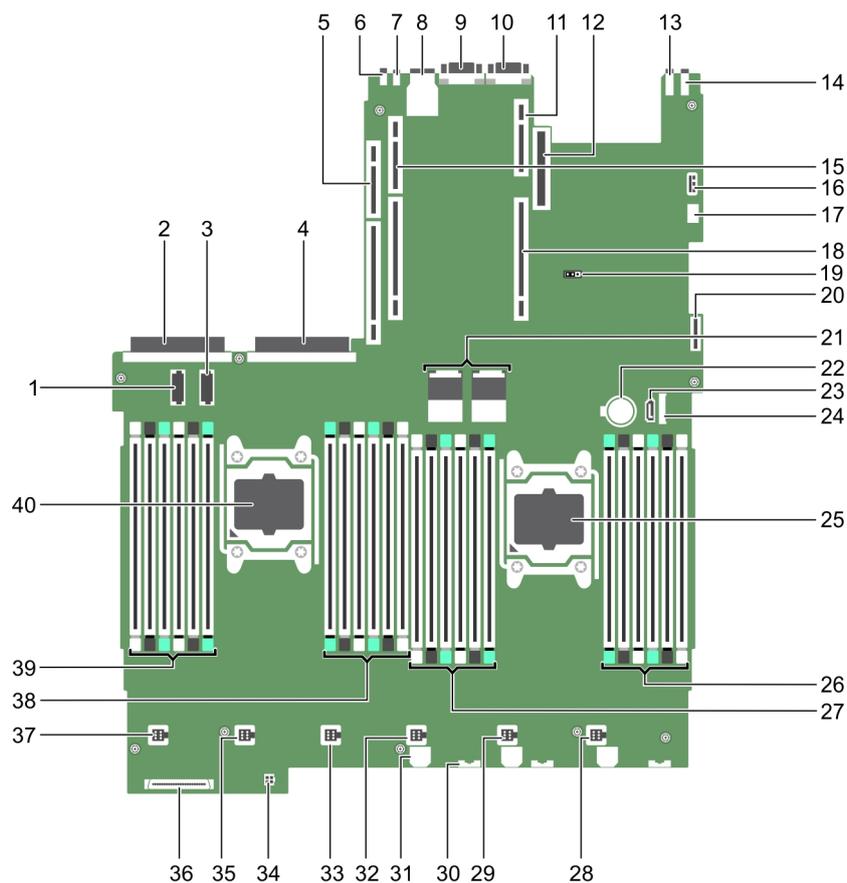


図 96. システム ボード コネクター

表 37. システム ボード コネクタと説明

アイテム	コネクター	説明
1	J_P12V_PWR	プロセッサ拡張モジュールの電源コネクタ
2	PS2	PSU 2 電源コネクタ
3	J_P12V_PWR	プロセッサ拡張モジュールの電源コネクタ
4	PS1	PSU 1 電源コネクタ
5	IO_RISER3	ライザー 3 コネクター
6	CYC_ID	システム識別ボタン
7	CYC	システム識別コネクター
8	iDRAC	iDRAC8 コネクタ
9	VGA	ビデオコネクタ
10	COM1	シリアルコネクター
11	IO_RISER1	ライザー 1 コネクター
12	NDC	ネットワークドーターカードコネクタ
13	USB_REAR_2	USB 背面コネクタ 2
14	USB_REAR_1	USB 背面コネクタ 1
15	IO_RISER2	ライザー 2 コネクタ
16	USB_INT	内部 USB コネクター

表 37. システム ボード コネクタと説明 (続き)

アイテム	コネクタ	説明
17	SPIVU	SPIVU コネクタ
18	IO_RISER1	ライザ-1コネクタ
19	NVRAM_CLR/PWRD_EN	NVRAM/PASSWORD CLEAR ジャンパー
20	IDSDM	内蔵デュアル SD モジュール
21	QPI CONNECTOR	QPI コネクタ
22	バッテリー	システム バッテリー
23	SATA_CD	光学ドライブ SATA コネクタ
24	FP_USB	前面パネル USB コネクタ
25	CPU2	プロセッサソケット 2
26	B10、B6、B2、B9、B5、B1	メモリモジュールソケット
27	B3、B7、B11、B4、B8、B12	メモリモジュールソケット
28	FAN6	冷却ファンコネクタ
29	FAN5	冷却ファンコネクタ
30	BP SIG	バックプレーン信号コネクタ
31	BP POWER	バックプレーン電源コネクタ
32	FAN4	冷却ファンコネクタ
33	FAN3	冷却ファンコネクタ
34	SATA_PWR	SATA 電源コネクタ
35	FAN2	冷却ファンコネクタ
36	CTRL PNL	コントロール パネルインタフェースコネクタ
37	FAN1	冷却ファンコネクタ
38	A10、A6、A2、A9、A5、A1	メモリモジュールソケット
39	A3、A7、A11、A4、A8、A12	メモリモジュールソケット
40	CPU1	プロセッサソケット 1

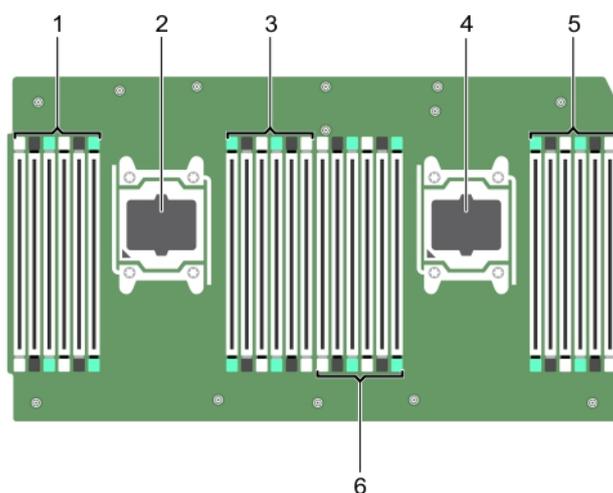


図 97. プロセッサ拡張モジュールコネクタ

表 38. プロセッサ拡張モジュールコネクタと説明

アイテム	コネクタ	説明
1	D3、D7、D11、D4、D8、D12	メモリモジュールソケット
2	CPU4	プロセッサソケット 4
3	D10、D6、D2、D9、D5、D1	メモリモジュールソケット
4	CPU3	プロセッサソケット 3
5	C10、C6、C2、C9、C5、C1	メモリモジュールソケット
6	C3、C7、C11、C4、C8、C12	メモリモジュールソケット

パスワードを忘れたとき

システムのソフトウェアセキュリティ機能として、システムパスワードとセットアップパスワードがあります。パスワードジャンパを使用すると、パスワード機能を有効または無効にしたり、現在使用中の任意のパスワードをクリアしたりすることができます。

前提条件

手順

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを取り外します。
3. システム基板ジャンパ上のジャンパを 4 および 6 番ピンから 2 および 4 番ピンに動かします。
4. システムカバーを取り付けます。

ピン 2 と 4 にジャンパを取り付けた状態でシステムを起動するまで、既存のパスワードは無効化（消去）されません。ただし、新しいシステムパスワードとセットアップパスワード（両方、またはどちらか一方）を設定する前に、ジャンパを移動してピン 4 と 6 に戻しておく必要があります。

メモ: 2 および 4 番ピンにジャンパがある状態で新規システムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てると、システムは次回の起動時に新しいパスワードを無効化します。

5. システムを電源コンセントに接続し、電源を入れます（接続されている各種周辺機器を含む）。
6. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
7. システムカバーを取り外します。
8. システム基板ジャンパ上のジャンパを 2 および 4 番ピンから 4 および 6 番ピンに動かします。
9. システムカバーを取り付けます。
10. システムを電源コンセントに接続し、電源を入れます（接続されている各種周辺機器を含む）。
11. 新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはそのどちらか一方を設定します。

関連タスク

システムカバーの取り外し、p. 68

システムカバーの取り付け、p. 69

システムのトラブルシューティング

ユーザーとシステムの安全優先

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: ソリューションの検証は工場出荷のハードウェア構成を使用して行われています。

トピック：

- システムの起動エラーのトラブルシューティング
- 外部接続のトラブルシューティング
- ビデオサブシステムのトラブルシューティング
- USB デバイスのトラブルシューティング
- iDRAC ダイレクト (USB XML 設定) のトラブルシューティング
- iDRAC ダイレクト (ノートパソコン接続) のトラブルシューティング
- シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング
- NIC のトラブルシューティング
- システムが濡れた場合のトラブルシューティング
- システムが損傷した場合のトラブルシューティング
- システム バッテリーのトラブルシューティング
- 電源供給ユニットのトラブルシューティング
- 冷却問題のトラブルシューティング
- 冷却ファンのトラブルシューティング
- システムメモリーのトラブルシューティング
- 内蔵 USB キーのトラブルシューティング
- microSD カードのトラブルシューティング
- 光学ドライブのトラブルシューティング
- テープバックアップユニットのトラブルシューティング
- ドライブまたは SSD のトラブルシューティング
- ストレージコントローラーのトラブルシューティング
- 拡張カードのトラブルシューティング
- プロセッサのトラブルシューティング
- システムメッセージ

システムの起動エラーのトラブルシューティング

オペレーティングシステムを UEFI ブート マネージャーからインストールした後にシステムを BIOS 起動モードで起動すると、システムが応答しなくなります。この問題を避けるには、オペレーティングシステムをインストールしたモードと同じ起動モードで起動する必要があります。

起動時に発生するその他すべての問題については、画面に表示されるシステムメッセージを書きとめておきます。

外部接続のトラブルシューティング

外部デバイスのトラブルシューティングを行う前に、すべての外部ケーブルがシステムの外部コネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

- システムの仕様詳細と外付けデバイスを比較して互換性を確認します。
 - デバイスが正常に作動していることを確実にするため、他の同様のシステムで外部デバイス機能を確認します。
 - システムポートが正常に作動していることを確実にするため、他の同様の外部デバイスでこのシステムを確認します。
- さらにクエリーがある場合は、[グローバル テクニカル サポート](#)に連絡してください。

ビデオサブシステムのトラブルシューティング

前提条件

- ① **メモ:** iDRAC グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) の仮想コンソール内のローカル サーバー ビデオ有効オプションが選択されていることを確認してください。このオプションが選択されていない場合、ローカル ビデオは無効になっています。
- ① **メモ:** VGA ポートは、ホットプラグ非対応です。

手順

1. モニタへのケーブル接続 (電源とディスプレイ) を確認します。
2. システムからモニタへのビデオ インターフェイスのケーブル配線をチェックします。

タスクの結果

テストが正常に終了したら、問題はビデオハードウェアに関連するものではありません。

次の手順

テストに失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

USB デバイスのトラブルシューティング

前提条件

- ① **メモ:** 手順 1~6 を実行して、USB キーボードまたはマウスのトラブルシューティングを行います。他の USB デバイスについては、手順 7 に進みます。

手順

1. システムからキーボードおよび/またはマウスのケーブルを外して、再度接続します。
2. 問題が解決しない場合は、キーボードおよび/またはマウスをシステム上の別の USB ポートに接続します。
3. これで問題が解決した場合は、システムを再起動し、セットアップ ユーティリティを起動して、機能していない USB ポートが有効になっているかどうかを確認します。
 - ① **メモ:** 古いオペレーティングシステムでは、USB 3.0 をサポートしていない場合があります。
4. USB 3.0 がセットアップ ユーティリティで有効になっているかどうかを確認します。有効な場合は無効にして、問題が解決されたかどうかを確認します。
5. **IDRAC Settings Utility** (iDRAC 設定ユーティリティ) で、**USB Management Port Mode** (USB 管理ポートのモード) が **Automatic** (自動) または **Standard OS Use** (標準 OS 使用) として設定されていることを確認してください。
6. 問題が解決しない場合は、キーボードおよび/またはマウスを動作確認済みのキーボードまたはマウスと交換します。

問題が解決しない場合は、手順 7 に進んで、システムに取り付けられているその他の USB デバイスのトラブルシューティングを行います。

問題が解決しない場合は、システムに取り付けられているその他の USB デバイスのトラブルシューティングを行います。
7. 接続されているすべての USB ドライブの電源を切り、システムから取り外します。
8. システムを再起動します。

9. キーボードが機能している場合は、セットアップユーティリティを起動します。**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で、すべての USB ポートが有効化されていることを確認します。キーボードが機能していない場合は、リモート アクセスを使用して USB オプションを有効または無効にします。
10. USB 3.0 がセットアップユーティリティで有効になっているかどうかを確認します。有効な場合は無効にして、システムを再起動します。
11. システムにアクセスできない場合は、システム内部の NVRAM_CLR ジャンパをリセットし、BIOS をデフォルト設定に戻します。「システム ボードのジャンパ設定」の項を参照してください。
12. **iDRAC Settings Utility** で、**USB Management Port Mode** が **Automatic** または **Standard OS Use** として設定されていることを確認してください。
13. 各 USB デバイスを一度に 1 台ずつ再接続し、電源を入れます。
14. 同じ問題が発生する USB デバイスがあれば、そのデバイスの電源を切り、USB ケーブルを動作確認済みのケーブルと交換して、デバイスの電源を入れます。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

iDRAC ダイレクト (USB XML 設定) のトラブルシューティング

USB ストレージ デバイスとシステム構成の詳細については、www.dell.com/poweredgemanuals にある『*Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*』を参照してください。

手順

1. お使いの USB ストレージ デバイスが、USB 管理ポート前面に接続されていることを確認してください。これは、 のアイコンで識別できます。
2. USB ストレージデバイスが、パーティションが 1 つだけの NTFS または FAT32 ファイルシステムで構成されていることを確認します。
3. USB ストレージデバイスが正しく構成されていることを確認します。USB ストレージ デバイスの構成に関する詳細については、www.dell.com/poweredgemanuals の『*Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*』を参照してください。
4. **iDRAC Settings Utility** (**iDRAC 設定ユーティリティ**) で、**USB Management Port Mode** (**USB 管理ポートモード**) が、**Automatic** (**自動**) または **iDRAC Direct Only** (**iDRAC Direct のみ**) に設定されていることを確認します。
5. **iDRAC Managed: USB XML Configuration** (**iDRAC Managed: USB XML 設定**) オプションが、**Enabled** (**有効**)、または **Enabled only when the server has default credential settings** (**サーバーにデフォルト認証設定がある場合のみ有効**) のいずれかであることを確認してください。
6. USB ストレージデバイスを取り外し、挿入し直してください。
7. インポート操作が機能しない場合は、別の USB ストレージデバイスでお試してください。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

iDRAC ダイレクト (ノートパソコン接続) のトラブルシューティング

USB ノートパソコン接続とシステム設定の詳細については、www.dell.com/poweredge/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

手順

1. ノートパソコンが前面 USB 管理ポートに接続されていることを確認します。これは USB Type A/A ケーブルを使用する、 のアイコンで識別されます。
2. **iDRAC Settings Utility** (iDRAC 設定ユーティリティ) 画面で、**USB Management Port Mode** (USB 管理ポートのモード) が、**Automatic** (自動) または **iDRAC Direct Only** (iDRAC Direct のみ) に設定されていることを確認します。
3. ノートパソコンで、Windows オペレーティングシステムが実行されている場合は、iDRAC 仮想 USB NIC デバイスドライバーがインストールされていることを確認します。
4. ドライバがインストールされている場合は、iDRAC Direct ではルーティングできないアドレスを使用しているため、WiFi 経由のネットワーク、またはケーブル接続された Ethernet に接続されていないことを確認します。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング

前提条件

手順

1. システム、およびシリアルポートに接続された周辺機器すべての電源を切ります。
2. シリアル インターフェイス ケーブルを動作確認済みのケーブルと取り替えて、システムと I/O シリアル デバイスの電源をオンにします。
問題が解決したら、インタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと交換します。
3. システムと I/O シリアル デバイスの電源を切り、シリアル デバイスを対応デバイスと取り替えます。
4. システムと I/O シリアル デバイスの電源をオンにします。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

NIC のトラブルシューティング

前提条件

 **メモ:** ネットワーク ドーター カード (NDC) スロットは、ホットプラグ非対応です。

手順

1. 適切な診断テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「システム診断の実行」のセクションを参照してください。

2. システムを再起動し、NIC コントローラーに関するシステム メッセージがないかチェックします。
3. NIC コネクタの該当するインジケータを確認します。
 - リンクインジケータが点灯しない場合は、ケーブルの接続が外れている可能性があります。
 - アクティビティインジケータが点灯しない場合は、ネットワークドライバファイルが損傷しているか、欠落している可能性があります。必要に応じて、ドライバをインストールまたは交換します。詳細については、NIC のマニュアルを参照してください。
 - 別の正常なネットワーク ケーブルを試してください。
 - 問題が解決しない場合は、スイッチまたはハブ上の別のコネクタを使用してください。
4. 適切なドライバがインストールされ、プロトコルがバインドされていることを確認します。詳細については、NIC のマニュアルを参照してください。
5. セットアップユーティリティを起動し、**内蔵デバイス** 画面で NIC ポートが有効になっていることを確認します。
6. ネットワーク上のすべての NIC、ハブ、およびスイッチが、同じデータ転送スピード、およびデュプレックスに設定されていることを確認します。詳細については、各ネットワーク デバイスのマニュアルを参照してください。
7. ネットワーク上のすべての NIC、およびスイッチが、同じデータ転送スピード、およびデュプレックスに設定されていることを確認します。詳細については、各ネットワーク デバイスのマニュアルを参照してください。
8. すべてのネットワーク ケーブルのタイプが適切で、最大長を超えていないことを確認します。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

システムが濡れた場合のトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みにになり、指示に従ってください。

手順

1. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システム カバーを取り外します。
3. システムから次のコンポーネントを取り外します (取り付けられている場合)。
 - 電源供給ユニット
 - 光学ドライブ
 - ハードドライブ
 - ハードドライブバックプレーン
 - USB メモリー キー
 - ハードドライブトレイ
 - 冷却用エアフローカバー
 - 拡張カードライザー (取り付けられている場合)
 - 拡張カード
 - 冷却ファンアセンブリー (取り付けられている場合)
 - 冷却ファン
 - メモリー モジュール
 - プロセッサとヒート シンク
 - システム ボード
4. システムを完全に乾燥させます (少なくとも 24 時間)。

- 手順3で取り外した拡張カード以外のコンポーネントを再度取り付けます。
- システムカバーを取り付けます。
- システムと接続されている周辺機器の電源を入れます。
問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。
- システムが正常に起動する場合は、システムの電源を切り、取り外した拡張カードをすべて再度取り付けます。
- 適切な診断テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」の項を参照してください。

次の手順

テストに失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

システムが損傷した場合のトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dellの許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

- システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- システムカバーを取り外します。
- 以下のコンポーネントが正しく取り付けられていることを確認します。
 - 冷却用エアフローカバー
 - 拡張カードライザー（取り付けられている場合）
 - 拡張カード
 - 電源供給ユニット
 - 冷却ファンアセンブリー（取り付けられている場合）
 - 冷却ファン
 - プロセッサとヒートシンク
 - メモリーモジュール
 - ドライブキャリアまたはケージ
 - ドライブバックプレーン
- すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- システムカバーを取り付けます。
- 適切な診断テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」の項を参照してください。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

システム バッテリーのトラブルシューティング

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: システムの電源が長い期間 (数週間から数か月) 切られていた場合、NVRAM からシステム設定情報が失われる可能性があります。この状態は不良バッテリーが原因で発生します。

① メモ: 一部のソフトウェアには、システムの時刻を進めたり遅らせたりするものがあります。システム セットアップによって設定された時刻以外はシステムが正常に作動しているように見える場合、問題の原因はバッテリーの欠陥ではなく、ソフトウェアにあると考えられます。

手順

1. セットアップユーティリティで時刻と日付を再入力します。
2. システムの電源を切り、少なくとも1時間はコンセントから外しておきます。
3. システムをコンセントに再接続し、システムの電源を入れます。
4. セットアップユーティリティを起動します。

システム セットアップに表示される日付と時刻が正しくない場合は、システム バッテリーのメッセージに関するシステム エラーログ (SEL) を確認します。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

関連参考文献

[ヘルプ](#)、p. 188

電源供給ユニットのトラブルシューティング

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

次の項では、電源と電源供給ユニットのトラブルシューティングについての情報を提供します。

① メモ: 電源供給ユニット (PSU) はホットプラグ対応です。

電源の問題のトラブルシューティング

手順

1. 電源ボタンを押して、システムがオンになっていることを確認します。電源ボタンを押しても電源インジケータが点灯しない場合は、電源ボタンをしっかりと押してください。
2. 別の動作中の電源供給ユニットを差し込み、システム ボードに障害が発生していないことを確認します。

3. 接続が緩んでいないことを確認します。
たとえば、電源ケーブルの接続が緩んでいることがあります。
4. 電源が適用規格を満たしていることを確認します。
5. 回路のショートがないことを確認します。
6. 適切な資格を持つ電気技術者に電圧線をチェックしてもらい、必要な仕様を満たしていることを確認します。

タスクの結果

メモ: 電源供給ユニットによっては、定格容量を実現するために、AC 200~240V が必要になる場合があります。詳細については、www.dell.com/poweredge manuals にある『インストールおよびサービス マニュアル』の「システム仕様詳細」の項を参照してください。

電源供給ユニット問題のトラブルシューティング

手順

1. 接続が緩んでいないことを確認します。
たとえば、電源ケーブルの接続が緩んでいることがあります。
2. 電源供給ハンドル LED に、電源供給が正常に機能していると表示されていることを確認します。
3. 最近システムをアップグレードした場合は、電源供給ユニットに新しいシステムをサポートするのに十分な電力があることを確認してください。
4. 冗長構成の電源供給を使用している場合は、両方の電源供給ユニットのワット数およびタイプが同じであることを確認してください。
LED が点灯しない場合は、ワット数がより大きな電源供給ユニットへのアップグレードが必要となる場合もあります。
5. 必ず、背面に拡張電源パフォーマンス (EPP) のラベルが貼付されている電源供給ユニットのみを使用するようにしてください。
6. 電源供給ユニットの再度取り付け

メモ: 電源供給ユニットの取り付け後、システムが電源供給ユニットを認識し、正しく動作していることを確認するまで数秒待ちます。

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

冷却問題のトラブルシューティング

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

次の条件を満たしていることを確認します。

- システム カバー、冷却エアフローカバー、EMI フィラー パネル、背面フィラー ブラケットが取り外されていません。
- 室温がシステム指定の環境温度より高くない。
- 外部の通気が妨げられていない。
- 冷却ファンが取り外されたり、故障していない。
- 拡張カードの取り付けガイドラインに準拠している。

追加の冷却を次のいずれかの方法で追加できます。

iDRAC Web GUI を使用する場合：

1. **Hardware > Fans > Setup** の順にクリックします。
2. **Fan Speed Offset** のドロップダウン リストから必要な冷却レベルを選択するか、カスタム値に最小ファン スピードを設定します。

F2 システム セットアップを使用する場合：

1. **iDRAC Setting > Thermal** を選択して、ファン スピード オフセットまたは最小ファン スピードからより高いファン スピードを設定します。

RACADM コマンドを使用する場合：

1. `racadm help system.thermalsettings` コマンドを実行します

詳細については、www.dell.com/poweredge manuals の『*Integrated Dell Remote Access ユーザーズガイド*』を参照してください

冷却ファンのトラブルシューティング

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: ファンの番号は、システム管理ソフトウェアで参照できます。特定のファンに問題が発生した場合に、冷却ファンアセンブリー上のファンの番号をメモしておくことで、簡単に識別して交換することができます。

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載されている安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載されている手順に従います。

手順

1. ファンまたはファンの電源ケーブルを抜き差しします。
2. システムを再起動します。

次の手順

1. 「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載されている手順に従います。
2. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[安全にお使いいただくために](#)、p. 65

[ヘルプ](#)、p. 188

システムメモリーのトラブルシューティング

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① メモ: メモリー スロットは、ホットプラグ非対応です。

① メモ: NVDIMM-N バッテリーは、ホットプラグ非対応です。

手順

1. システムが動作可能な場合、適切な診断テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「システム診断の使用」のセクションを参照してください。

診断テストで障害が発覚した場合は、診断テストで提示される対応処置を行います。

2. システムが作動しない場合、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、コンセントからシステムを外します。少なくとも 10 秒待ってから、システムを電源に再接続します。

3. システムと接続されている周辺機器の電源を入れ、画面のメッセージをメモします。

特定のメモリモジュールにおける障害を示すエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。

4. セットアップユーティリティを起動して、システムメモリーの設定を確認します。必要に応じてメモリー設定を変更します。
メモリーの設定が取り付けられているメモリーと一致しているにもかかわらず、引き続きエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。
5. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
6. システム カバーを取り外します。
7. メモリーチャンネルをチェックし、正しく装着されていることを確認します。
 **メモ:** 障害が発生したメモリー モジュールの位置については、システム イベント ログまたはシステム メッセージを参照してください。メモリーデバイスを取り付けなおします。
8. ソケットに装着されている各メモリーモジュールを抜き差しします。
9. システム カバーを取り付けます。
10. セットアップユーティリティを起動して、システムメモリーの設定を確認します。
問題が解決しない場合は、手順 11 に進みます。
11. システム カバーを取り外します。
12. 診断テストまたはエラーメッセージで特定のメモリーモジュールに障害があることが発覚した場合、そのモジュールを動作確認済みのメモリーモジュールと取り替え、または交換します。
13. 特定されていないメモリーモジュールで障害が発生している場合のトラブルシューティングを行うには、1 番目の DIMM ソケットに装着されているメモリーモジュールを同じタイプおよび容量のモジュールと交換します。
画面にエラーメッセージが表示される場合、1 つ以上取り付けられた DIMM のタイプ、誤った DIMM の取り付け、または不良 DIMM 関連の問題である可能性があります。画面上の手順に従って、問題を解決します。
14. システム カバーを取り付けます。
15. システムの起動中、表示されるエラー メッセージ、およびシステム前面の診断インジケータを観察します。
16. メモリーの問題が引き続き表示される場合は、取り付けられているメモリーモジュールごとに、手順 12 ~ 15 を繰り返します。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

内蔵 USB キーのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. セットアップユーティリティを起動し、**内蔵デバイス**画面で、**USB キーポート**が有効になっていることを確認します。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システム カバーを取り外します。
4. USB キーの位置を確認し、抜き差しします。
5. システム カバーを取り付けます。
6. システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、USB キーが機能しているかどうか確認します。
7. 問題が解決しない場合は、手順 2 と手順 3 を繰り返します。
8. 動作確認済みの USB キーを挿入します。
9. システム カバーを取り付けます。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連概念

セットアップユーティリティ、p. 34

関連参照文献

ヘルプ、p. 188

システム ボード コネクター、p. 168

関連タスク

システムカバーの取り外し、p. 68

microSD カードのトラブルシューティング

前提条件

-  **メモ:** 特定の microSD カードには、カードに物理的な書き込み保護電源があります。書き込み保護スイッチがオンになっている場合は、microSD カードに書き込みできません。
-  **メモ:** IDSDM スロットおよび vFlash スロットは、ホットプラグ非対応です。

手順

- セットアップユーティリティを起動し、**内蔵 SD カードポート**が有効になっていることを確認します。
- システムおよび接続されている各種周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- システムカバーを取り外します。
 -  **メモ:** SD カードに障害が発生すると、内蔵のデュアル SD モジュール コントローラーによりシステムに通知されます。次の再起動時に障害を通知するメッセージがシステムにより表示されます。SD カード障害時に冗長性が有効になっている場合、重要アラートがログに記録され、シャーシの正常性が低下します。
- 障害が発生した microSD カードを新しい microSD カードと交換します。
- システムカバーを取り付けます。
- システムをコンセントに接続し、システムの電源を入れます（接続されている各種周辺機器を含む）。
- セットアップユーティリティを起動し、**Internal SD Card Port**（内蔵 SD カードポート）と **Internal SD Card Redundancy**（内蔵 SD カードの冗長性）モードが必要なモードに設定されていることを確認します。

正しい SD スロットが **Primary SD Card**（プライマリ SD カード）として設定されていることを確認します。
- 新しい microSD カードが正常に機能しているか確認します。
- Internal SD Card Redundancy**（内蔵 SD カード冗長性）オプションが SD カードの障害発生時に **Enabled**（有効）に設定されている場合は、システムにより再構築を実行するためのプロンプトが表示されます。
 -  **メモ:** 再構築は必ずプライマリ SD カードからセカンダリ SD カードに行なわれます。

光学ドライブのトラブルシューティング

前提条件

-  **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 別の CD または DVD を使用してみます。
2. 問題が解決しない場合は、セットアップユーティリティを起動して、内蔵 SATA コントローラとドライブの SATA ポートが有効であることを確認します。
3. 適切な診断テストを実行します。
4. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
5. ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
6. システムカバーを取り外します。
7. インタフェースケーブルが光学ドライブおよびコントローラにしっかり接続されていることを確認します。
8. 電源ケーブルがドライブに正しく接続されていることを確認します。
9. システムカバーを取り付けます。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

テープバックアップユニットのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 別のテープカートリッジを使用します。
2. テープバックアップユニット用のデバイスドライバがインストールされ、正しく設定されているようにします。デバイスドライバの詳細については、お使いのテープドライブのマニュアルを参照してください。
3. テープバックアップソフトウェアのマニュアルの説明に従って、テープバックアップソフトウェアを再インストールします。
4. テープドライブのインタフェースケーブルがコントローラカードの外部ポートに接続されていることを確認します。
5. 次の手順を実行して、コントローラカードが正しく取り付けられていることを確認します。
 - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
 - b. システムカバーを取り外します。
 - c. 拡張カードスロットのコントローラカードを抜き差しします。
 - d. システムカバーを取り付けます。
 - e. システムと周辺機器の電源を入れます。
6. 適切な診断テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの使用」を参照してください。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

ドライブまたは SSD のトラブルシューティング

前提条件

- △ **注意:** このトラブルシューティング手順により、ドライブに保存されたデータが削除されるおそれがあります。続行する前に、ドライブ上のすべてのファイルをバックアップしてください。
- △ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
Diagnostics (診断) テストの結果に応じて、随時次の手順を実行します。
2. システムに RAID コントローラーが搭載され、お使いのドライブが RAID アレイに設定されている場合は、次の手順を実行します。
 - a. システムを再起動し、システムの起動中に <F10> を押して Dell Lifecycle Controller を実行してから、[ハードウェア設定] ウィザードを実行して RAID 設定を確認します。
RAID 設定についての情報は、Dell Lifecycle Controller マニュアル、またはオンラインヘルプを参照してください。
 - b. ドライブが RAID アレイ用に正しく設定されていることを確認します。
 - c. ドライブをオフラインにして取り外し、再度取り付けます。
 - d. 設定ユーティリティを終了し、システムのオペレーティングシステムを起動します。
3. お使いのコントローラカード用に必要なデバイスドライバがインストールされており、正しく設定されていることを確認してください。詳細に関しては、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
4. システムを再起動し、セットアップユーティリティを開始します。
5. [セットアップユーティリティ] で、コントローラーが有効になっており、ドライブが表示されていることを確認します。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連概念

[セットアップユーティリティ](#)、p. 34

関連参照文献

[ヘルプ](#)、p. 188

[システム診断プログラムの使用](#)、p. 166

ストレージコントローラーのトラブルシューティング

- △ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

① **メモ:** コントローラーのトラブルシューティングを行う際には、オペレーティングシステムのマニュアルとコントローラーのマニュアルを参照してください。

① **メモ:** Mini-PERC ソケットはホット プラグ非対応です。

1. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。

4. 拡張カードが、取り付けガイドラインに従って取り付けられていることを確認します。
5. 各拡張カードがコネクタに確実に装着されていることを確認します。
6. システムカバーを取り付けます。
7. システムをコンセントに再接続し、システムと接続されている周辺機器の電源を入れます。
8. 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
9. システムカバーを取り外します。
10. システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。
11. システムカバーを取り付けます。
12. システムをコンセントに再接続し、システムと接続されている周辺機器の電源を入れます。
13. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
テストに失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。
14. 手順 10 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
 - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
 - b. システムカバーを取り外します。
 - c. 拡張カードの1枚を取り付けなおします。
 - d. システムカバーを取り付けます。
 - e. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

ヘルプ、p. 188

システム診断プログラムの使用、p. 166

拡張カードのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** 拡張カードのトラブルシューティングを行う際は、お使いのオペレーティングシステムと拡張カードのマニュアルも参照してください。

 **メモ:** ライザー スロットはホットプラグ対応ではありません。

手順

1. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。
4. 各拡張カードがコネクタに確実に装着されていることを確認します。
5. システムカバーを取り付けます。
6. システムと接続されている周辺機器の電源を入れます。
7. 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
8. システムカバーを取り外します。
9. システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。
10. システムカバーを取り付けます。
11. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
テストに失敗した場合は、「困ったときは」の項を参照してください。
12. 手順 8 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
 - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。

- b. システム カバーを取り外します。
- c. 拡張カードの1枚を取り付けなおします。
- d. システム カバーを取り付けます。
- e. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。

次の手順

問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

ヘルプ、p. 188

システム診断プログラムの使用、p. 166

プロセッサのトラブルシューティング

前提条件

注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。Dell の許可を受けていない保守による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

メモ: プロセッサ ソケットはホットプラグ対応ではありません。

手順

1. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システム カバーを取り外します。
4. プロセッサとヒートシンクが適切に取り付けられていることを確認します。
5. システム カバーを取り付けます。
6. 適切な診断テストを実行します。「システム診断プログラムの使用」のセクションを参照してください。
7. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」の項を参照してください。

関連参照文献

ヘルプ、p. 188

システム診断プログラムの使用、p. 166

システムメッセージ

システム ファームウェアおよびシステム コンポーネントを監視するエージェントにより作成されたイベントおよびエラーメッセージの詳細については、qrl.dell.com>Look Up> **Error Code** にアクセスし、エラーコードを入力してから、**検索**をクリックしてください。

警告メッセージ

警告メッセージは、問題発生の可能を知らせ、作業を続行する前に問題への対応を求めます。たとえば、ハードドライブをフォーマットする前にメッセージを表示して、ハードドライブ上のすべてのデータが失われる可能性があることを警告します。警告メッセージが表示されると通常は作業が中断され、y (はい) または n (いいえ) を入力して応答する必要があります。

メモ: 警告メッセージはアプリケーションまたはオペレーティングシステムにより生成されます。詳細については、オペレーティングシステムまたはアプリケーションに付属のドキュメントを参照してください。

診断メッセージ

お使いのシステムで診断テストを実行したときにエラーが検出された場合、システム診断ユーティリティによりメッセージが生成されます。システム診断プログラムの詳細については、システムファームウェアおよびシステムコンポーネントを監視するエージェントにより作成されたイベントおよびエラーメッセージの詳細については、qrl.dell.com>Look Up>Error Code にアクセスし、エラーコードを入力してから、**検索**をクリックしてください。を参照してください。

アラートメッセージ

システム管理ソフトウェアは、システムのアラートメッセージを生成します。アラートメッセージには、ドライブ、温度、ファン、および電源の状態についての情報、ステータス、警告、およびエラーメッセージがあります。詳細については、本マニュアルの文書リソースの項にリストされている Systems Management Software マニュアルのリンクを参照してください。

トピック：

- [Dell EMC へのお問い合わせ](#)
- [マニュアルのフィードバック](#)
- [QRL によるシステム情報へのアクセス](#)

Dell EMC へのお問い合わせ

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービス オプションをいくつかご用意しています。お使いのコンピューターがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、または Dell EMC 製品カタログで連絡先をご確認ください。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。Dell EMC のセールス、テクニカル サポート、またはカスタマー サービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

手順

1. www.dell.com/support/home にアクセスします。
2. お住まいの国を、ページ右下隅のドロップダウンメニューから選択します。
3. カスタマイズされたサポートを利用するには、次の手順に従います。
 - a. **サービス タグを入力** フィールドに、お使いのシステムのサービス タグを入力します。
 - b. **送信** をクリックします。
さまざまなサポートのカテゴリをリストアップしているサポートページが表示されます。
4. 一般的なサポートを利用するには、次の手順に従います。
 - a. 製品カテゴリを選択します。
 - b. 製品セグメントを選択します。
 - c. お使いの製品を選択します。
さまざまなサポートのカテゴリをリストアップしているサポートページが表示されます。
5. Dell EMC グローバル テクニカル サポートへのお問い合わせ先の詳細については、次の手順に従います。
 - a. [[グローバル テクニカル サポート](#)] をクリックします。
 - b. [[お問い合わせ](#)] ウェブページにある **サービス タグの入力** フィールドに、お使いのシステムのサービスタグを入力します。

マニュアルのフィードバック

任意の Dell EMC マニュアル ページでマニュアルを評価するか、フィードバックを書き、**フィードバックの送信** をクリックしてフィードバックを送信できます。

QRL によるシステム情報へのアクセス

システムの前面にある情報タグに記載されているクイック リソース ロケーター (QRL) を使用して、PowerEdge システムに関する情報にアクセスできます。

前提条件

お使いのスマートフォンまたはタブレットに QR コードスキャナーがインストールされていることを確認します。

QRL には、お使いのシステムに関する次の情報が含まれています。

- ハウツービデオ
- インストールおよびサービス マニュアル、LCD 診断、機械的概要などの参照資料
- 特定のハードウェア構成および保証情報に簡単にアクセスするためのシステムのサービス タグ

- テクニカルサポートや営業チームへのお問い合わせのためのデルへの直接的なリンク

手順

1. www.dell.com/qrl にアクセスして、お使いの製品に移動する、または
2. システム上、または「クイックリソースロケータ」セクションで、お使いのスマートフォンまたはタブレットを使用してモデル固有のクイックリソース (QR) コードをスキャンします。

R830 用 QR コード

